

昭和六十三年度

資料調査報告書 第十六集

— 旧鳥取藩士田中俊民家資料 —

鳥取県立博物館

## 序にかえて

資料調査報告書第十六集では、「旧鳥取藩士田中俊民家資料」について報告・紹介することとした。

田中家は鳥取藩の下級藩士であったが、幕末から明治前期のころの当主田中俊民は、和歌に長じ、明治期の鳥取歌壇の中心的存在の一人であった。また、行政能力にすぐれていたので廃藩以前は、在方や裏判所、会計司、刑法局などにおいて実務に活躍した人物である。田中家資料の特色は、この俊民が残した幕末維新期の藩庁内部の事務上の様々な書類と、明治期の鳥取歌壇の動向を伝える豊富な和歌関係資料にあるといえる。

このほかにも、江戸詰を命じられた俊民が家族に送った手紙のような、現代の単身赴任のサラリーマンをほうふつとさせる興味深い資料や、あるいは、俊民の子瑞穂が残した鳥取高等小学校・鳥取県立第一中学校などの学校教育に関する資料など、田中家資料には豊富な内容が含まれている。

しかしながら、時間的な制約もあって、資料の整理・分類も十分なされていないとはいいがたく、その分析は全くのところ今後の課題として残されている。この報告書の刊行を機に、研究の一層の推進を図りたいと考えるものである。

「旧鳥取藩士田中俊民家資料」は、御子孫である草津市在住の田中裕氏より当館が寄託を受けているものである。最初の寄託を受けた昭和五十七年以来、整理が遅々として進まないにもかかわらず、その後も次々に資料を寄託いただいたが、このたび、ようやく田中家資料のほぼ全貌について紹介することができることとなった。貴重な資料を長期にわたって御寄託いただいた田中裕氏の御厚志に対し、あらためて深く感謝する次第である。

平成元年三月

鳥取県立博物館長 長石 肇

## 目次

序にかえて	1
目次	1
旧鳥取藩士田中俊民家資料一覧表	2
旧鳥取藩士田中俊民家資料目録	3
I 在方（在下吟味役・在御目付時代）	3
II 裏判所・会計局（裏判下吟味役・飛脚頭・会計筆生時代）	4
III 刑法局	25
IV 社 会	27
V 家・書状	28
VI 学校教育	36
VII 和 歌	38
VIII 武 道	43
IX 書画・絵図・瓦版・暦等	44
X 書 籍	46
XI 歴史資料	54
解 題	55
あとがき	60

旧鳥取藩士田中俊民家資料一覽表

分類項目	件数
I 在方 (在下吟味役・在御目付時代)	42
II 裏判所・会計局 (裏判下吟味役・飛脚頭・会計筆生時代)	823
(達書・伺書)	405
(飛脚関係)	3
(出張・帰還関係)	82
(道中賄金関係)	31
(人事・賞罰)	103
(軍事)	29
(山陰道鎮撫使関係)	31
(御入湯関係)	19
(弁務達書)	13
(その他)	94
(届書)	124
(願書)	23
(用状)	145
(田中幸六・幸介・農夫・俊民宛)	47
(田中幸介用状)	2
(角田捨藏関係用状)	24
(河崎六之助・半内関係用状)	43
(その他用状)	29
(受取状)	58
(建白草稿)	34
(その他)	34
III 刑法局	56
IV 社会	74
V 家・書状	361
(田中幸六・幸介・農夫・俊民書状)	81

(田中幸六・幸介・農夫・俊民宛書状)	134
(田中家家族宛)	3
(他家書状)	26
(家族)	17
VI 学校教育	88
VII 和歌	315
(田中俊民和歌)	24
(鳥取歌壇)	65
(和歌短冊)	226
VIII 武道	32
IX 書画・絵図・瓦版・曆等	112
X 書籍	402
(郷土・地誌)	67
(郷土・和歌)	63
(郷土・学校教育)	43
(郷土・その他)	16
(漢文学)	22
(国文学)	80
(歴史)	32
(宗教)	22
(教育)	25
(その他)	32
XI 歴史資料	15

旧鳥取藩士田中俊民家資料目録

番号	資料名(内容)	作製者・請取人	年代	形態	数量
1	在出中日記 (出張中の食事)	田中	安政二年四月三日〜八日	横半帳	一冊
2	在出中日記 (出張中の食事・追放人等)	田中			
3	在出中日記 (止宿場所の記録)	田中	辰(安政三)年二月廿三日〜三月一日	横半帳	一冊
4	松平出羽守様御帰国御用在出日記	田中	安政四年三月廿六日〜四月十九日	横半帳	一冊
5	在出中日記 (氣高郡・会見郡争論裁許)	田中	安政四年五月十一日〜同五月廿日	横半帳	一冊
6	在出中日記 (八東郡山論裁許)	田中	申(万延元)五月十三日〜十四日	横半帳	一冊
7	在出中諸事付留日記	田中	万延元年七月二日〜七日	横半帳	二冊
8	文久元辛酉在出日記(同) 戊辰年付込同三亥年付込	田中	申(万延元)八月(文久元年九月を含む)	横半帳	一冊
9	在出中日記 (金銭帳簿)	田中	文久元〜三年	横半帳	一冊
10	在出中日記	田中	戊(文久二)閏八月十九日	横半帳	一冊
11	在出中日記	田中	亥(文久三)三月	横半帳	一冊
12	在出中日記	田中	(文久三)九月十日〜十月十九日	横半帳	一冊
13	在出中日記	田中	安政六年十二月廿八日〜七年正月六日	横半帳	一冊
14	(日記) (在目付関係)		(万延元)十一月十一日〜廿七日	横半帳	二冊
15	御泊鷹野被仰付付諸方懸合文書控	文久	二年閏八月十二日	横半帳	一冊
16	御泊鷹野諸事控		文久二年閏八月	横半帳	一冊

17	伯州御泊鷹野御越付取扱方私記	田中	文久三年五月	横半帳	一冊
18	御泊鷹野付取扱方別記	田中		横半帳	一冊
19	御泊鷹野御休泊(行程表)	田中		横半帳	一冊
20	(御泊鷹野行程)			横半帳	一冊
21	在方一手御役人并御郡役人手代其外苗字帯刀御扶持等被遣候者	共名前 田中	安政四年二月	横帳	一冊
22	在方一手名前記	田中	安政五年八月	横帳	一冊
23	在方一手名前寸録	田中	文久元年四月	横帳	一冊
24	在方一手名前記	田中	文久三年五月	横半帳	一冊
25	請免御法被仰付(安政改革法令)	田中	安政二年五月十三日	横半帳	一冊
26	検見法式(安政までの法令書写)	田中	安政五年五月	横半帳	一冊
27	御両国御郡々江御郡役所御新建御役人村役人勤方等御改正之	條々	安政五年七月	横半帳	一冊
28	早米永年請ニして早稲改相止鎌懸ケ受合一札組頭より差出し候	條々	安政五年八月	横半帳	一冊
29	因州分御郡々検見上り等当	田中	万延元年九月〜十月	横半帳	一冊
30	(請免関係法令抜書)			横半帳	一冊
31	五人組御法			横半帳	一冊
32	評論裁許控写し帳		西(文久元)十月	横半帳	一冊
33	因州分山論品々頭付	申(万延元)八月	横半帳	一冊	
34	評論裁許控書抜・諸事控書抜	田中	万延二年九月	横半帳	一冊
35	安政四巳年諸事控書抜	田中		横半帳	一冊
36	(天保十二年閏正月廿二日在方御裁許御追放帳写)			横半帳	一冊
37	検使一件吟味官之事(検死等の心得書)			横半帳	一冊
38	御吟味役御郡奉行動向手控	田中		横半帳	一冊
39	因伯寺社領帳		弘化四年	横帳	一冊
40	(因伯寺社領帳写)			縦帳	一冊
41	因伯往来里数附	田中	安政五年二月	横帳	一冊
42	(在目付関係)			横半帳	一冊

II 裏判所・会計局 (裏判下吟味役・飛脚頭・会計筆生時代)

- 43 (飛脚関係) 何書控(江戸への飛脚の路銀改定) (慶応三) 十二月七日 切紙 一通
- 44 何書控(江戸への飛脚の路銀勘定について) (慶応三) 十二月十四日 切紙 一通
- 45 (出張・帰還関係) 達書(佐藤吉之進、荒尾近江へ罷越すこと) 辰(明治元) 正月十八日 切紙 一通
- 46 達書(河毛藤介早追にて上京のこと) 辰(明治元) 二月廿八日 切紙 一通
- 47 達書(岩田利東太、東山道へ御用向付、罷越すこと) 辰(明治元) 閏四月廿四日 切紙 一通
- 48 達書(永田蘇武之助、宮崎行之助、足立直藏、京都へ出足) 正月七日 切紙 一通
- 49 達書(白井晃介、山内峯三郎、津山への使者仰付る) 正月十五日 切紙 一通
- 50 達書(柏木喜兵衛、大坂・京へ早追にて出張) 正月十六日 切紙 一通
- 51 達書(生野礼蔵、松平出羽守副使御免、御用に付き大坂・京都へ) 正月十九日 切紙 一通
- 52 達書(白井晃介・石野豊太郎等、松平出羽守へ早追使者仰付る) 正月廿一日 切紙 一通
- 53 達書(前田浅右衛門、作州津山へ御使者) 正月廿一日 切紙 一通
- 54 達書(木下文庵門人足羽立見、石上篤庵門人村上修碩御罷、早追にて京都へ出足のこと) 二月十日 切紙 一通
- 55 達書(生野礼蔵、京都へ早追にて今日出足のこと) 二月十日 切紙 一通
- 56 達書(松田正人・杉山定之丞・田中精之丞 早追にて上京のこと) 二月十七日 切紙 一通
- 77 達書(伏屋吉之進、関東への使者仰付置かる) 六月廿日 切紙 一通
- 76 達書(青木助之進、黒川八十輔、石川表へ罷越す事) 七月四日 切紙 一通
- 75 達書(因幡中將家来河毛文蔵、駅通役所へ申出べき事) 六月十日 切紙 一通
- 74 達書(神戸佐馬次郎、秋田稻之進、関東への使者仰付らる) 五月廿六日 切紙 一通
- 73 達書(細工並井田伊三郎、職人守田久兵衛、武器役所下作廻、東山道出張仰付らる) 五月廿六日 切紙 一通
- 72 達書(伏屋吉之進、東京へ罷越す様) 五月廿五日 切紙 一通
- 71 達書(大森初之助親八左衛門、隠岐国へ罷越す様) 五月十九日 切紙 一通
- 70 達書(秋田稻之進、東京へ罷越す様) 五月十四日 切紙 一通
- 69 達書(神戸佐馬次郎、東京へ急用、急ぎ罷越す事) 五月八日 切紙 一通
- 68 達書(景山龍造、沖探三帰国命令) 五月七日 切紙 一通
- 67 達書(勝部静男、備前・備後尾道へ罷越す様) 五月七日 切紙 一通
- 66 達書(秋田稻之進、米子表へ罷越すよう仰付らる) 五月七日 切紙 一通
- 65 達書(白井晃介、京都東山道出張先へ罷越す事) 閏四月廿九日 切紙 一通
- 64 達書(勝部静男、秋田稻之進、京都表へ罷越す様) 閏四月十二日 切紙 一通
- 63 達書(右田佐太夫、京都へ罷越す様) 四月十六日 切紙 一通
- 62 達書(伊丹廉蔵、門城寺芳蔵、東山道御人数出張先へ罷越す様) 四月十日 切紙 一通
- 61 達書(内山寛二郎、米子出張につき、よろしく取斗のこと) 四月二日 切紙 一通
- 60 達書(杉山定之丞、松平右近將監様作州御領地へ御内使) 三月十九日 切紙 一通
- 59 達書(沖探三、京都表早追にて出足) 三月十一日 切紙 一通
- 58 達書(田中武之丞儀、米子表へ早追にて罷越すこと) 三月十一日 切紙 一通
- 97 達書(永田蘇武之助京都出張) 十月晦日 切紙 一通
- 98 会計局達書(西京表へ罷越す様) 田中農夫宛 十一月三日 切紙 一通
- 99 達書(宮崎行之助急上京につき早道一人付添の事) 十二月十七日 切紙 一通
- 100 達書(出張の面々へ御法令仰渡に付、学校へ罷出る様) 不明 切紙 一通
- 101 達書(早道八郎右衛門、姫路へ付添出張) 不明 切紙 一通
- 102 達書(田中武之丞、早追にて上京の事) 不明 切紙 一通
- 103 達書(安達清一郎、生野礼蔵、松平出羽守への使者仰付) 不明 切紙 一通
- 104 達書(小林彦左衛門、杉山定之丞、岡山への早追使者仰付) 不明 切紙 一通
- 106 達書(多田林蔵他二十六名京都出立の処引返し) 不明 切紙 一通
- 107 達書(宇津竹之丞他二名京都出立の処引返し) 不明 切紙 一通
- 108 達書(桂脩助掃落仰付る) 不明 切紙 一通
- 109 達書(佐分利鉄次郎、野崎寛弥、米子出張) 不明 切紙 一通
- 110 達書(前田浅右衛門、雲州へ出張) 不明 切紙 一通
- 111 達書(森田勝蔵姫路へ出張) 辰(明治元) 閏四月十四日 切紙 一通
- 112 達書(森嶋左平太痛気快方に付、明日京都へ出立) 正月廿日 切紙 一通
- 113 何書控(江戸御作事大工棟梁松本惣次郎を当表へお廻し) 四月廿三日 切紙 一通
- 114 何書控(浜部儀八郎 仰渡される趣あり、倉吉より呼返し) 閏四月十四日 切紙 一通
- 115 何書控(森田勝蔵に東山道へ早追にて罷越す様) 閏四月十四日 切紙 一通
- 116 何書控(関東表へ足軽五人仕向け、江戸御作事定下奉行番之助) 五月廿三日 切紙 一通
- 117 何書控(田中市郎右衛門他二名会見郡境村に出張) 六月廿日 切紙 一通
- 118 何書控(村上友之進 上京命令) 七月廿日 切紙 一通
- 87 達書(黒坂表出張の面々送り荷物の事) 八月廿三日 切紙 一通
- 88 達書(宮原大輔、京都へ罷越す様) 八月廿四日 切紙 一通
- 89 達書(山田弥兵衛、黒坂表へ罷越す事) 八月廿五日 切紙 一通
- 90 達書(田中直之丞、雲州へ罷越す事) 八月廿五日 切紙 一通
- 91 達書(黒川八十輔、松平右近將監への使者、明日出発) 八月廿八日 切紙 一通
- 92 達書(伊王野次郎左衛門、京都より罷越すこと) 九月八日 切紙 一通
- 93 達書(境へ飛脚差出に付、早道の者御城へ罷出事) 九月廿五日 切紙 一通
- 94 達書(大村達吉当表出足罷掃につき、道中賄付添のこと) 十月朔日 切紙 一通
- 95 達書(大村達吉儀京都表へ罷掃り候処、道中荷物才領御鉄炮之者兩人同所立歸り申付のこと) 十月七日 切紙 一通
- 96 達書(足立直藏、昼夜兼行にて京都へ罷越すにつき、早道の者付添) 十月十四日 切紙 一通
- 97 達書(足立直藏、昼夜兼行にて京都へ罷越すにつき、早道の者付添) 十月十九日 切紙 一通

- 119 何書控 (大工棟梁田中寛兵衛、京都詰命令) 八月四日 切紙 一通
- 120 何書控 (大工棟梁田中寛兵衛、上京御道中裏判所手伝を相勤める様) 八月五日 切紙 一通
- 121 何書控 (岡野唯八、淀江御役所詰仰付られ、駄賃銀遺す) 九月十四日 切紙 一通
- 122 何書控 (後藤武一郎、早道政次郎、京都への道中諸賄清算の事) 十月十日 切紙 一通
- 123 何書控 (森田門次郎、備前清泰院御修履見分のため備前へ) 十一月二日 切紙 一通
- 124 何書控 (後藤武一郎、京都表へ足痛に付二日遅れ) 十一月四日 切紙 一通
- 125 角田捨藏・田中農夫何書控 (東京へ罷越すよう命ぜられるよう) 十一月廿日 切紙 一通
- 126 何書控 (福鶴屋音藏、此度江戸引払、当表へ罷越すに付) 不明 切紙 一通
- 127 何書控 (関東表で早道の者人少なく差支のため、鉄炮足軽五人仕向ける) 不明 切紙 一通
- 128 (道中賄金関係) 達書 (京都表御警衛人数差向道中賄金千両、竹村来助掃国の上勘定のこと) 正月十二日 切紙 二通
- 129 達書 (銀知金銀御合力御役料他銀札にて御渡しの分の取扱い) 五月十一日 切紙 一通
- 130 達書 (判物京都表へ御廻しに付、道中諸賄一人御役所手にて仰付) 五月廿五日 切紙 一通
- 131 達書 (邪宗門のもの共請取のため尾道へ罷越した御目付手の者半分お返し) 六月十日 切紙 一通
- 132 達書 (京都表への出兵、道中七日分の金を渡す) 六月十日 切紙 一通
- 133 達書 (兩國の内引越勤の面々への宿継馬賃銀の事) 六月廿二日 切紙 一通
- 134 達書 (早道政次郎へ医師大村達吉京都へ罷帰る道中作廻申付、賄金三百兩) 十月九日 切紙 一通
- 135 達書 (戸塚文海老婦京につき早道宇三郎道中諸賄勘定の件) 十一月廿四日 切紙 一通
- 136 達書 (京都表御警衛詰増人数道中諸賄金二千三百兩の勘定について) 十二月廿一日 切紙 一通
- 137 達書 (禁中医師山本長門介婦京道中諸賄金) 十二月廿四日 切紙 一通
- 138 何書控 (征討のため姫路表へ人数差向に付、裏判所諸賄付添のこと) 正月廿日 切紙 一通
- 139 何書控 (差紙にて渡す金銀、此以後其役場より差紙外差出す) 閏四月七日 切紙 一通
- 140 何書控 (浦上村切支丹御預に付、請取道中賄金の事) 五月十四日 切紙 二通
- 141 何書控 (江戸御作事定下奉行諸鹿善次郎、御位牌当表へ御返しの守護に付、心附銀) 五月廿八日 切紙 一通
- 142 何書控 (御判物京都へ御廻し道中付添に付、心附金) 五月廿八日 切紙 一通
- 143 何書控 (引越勤の者へ渡す馬銀、宿継馬賃銀高くなり値上げ) 六月十日 切紙 二通
- 144 何書控 (京大坂引越勤の面々掃国の路銀について) 十月十一日 切紙 一通
- 145 何書控 (大谷源之丞に京都御警衛諸賄金を渡す) 十二月十六日 切紙 一通
- 146 何書控 (裏判所下作廻岩藏へ禁中御医師掃国諸賄金を渡す) 十二月廿一日 切紙 二通
- 147 何書控 (兩國の内、引越勤の面々へ渡す馬銀値上げ) 不明 切紙 一通
- 148 何書控 (田中民藏へ京都への道中諸賄金を渡す) 不明 切紙 一通
- 149 (道中必要金書上) 達書 (京都詰東京詰諸格式に渡される人足本馬賃金書上) 八月十一日 切紙 一通
- 150 (諸役付属人足賃金書上) 達書 (鳥取西京・鳥取東京間本馬人足賃銀) 八月十一日 切紙 一通
- 151 (諸役付属人足賃金書上) 達書 (諸役京都詰・江戸詰役料) 八月十一日 切紙 一通
- 152 (鳥取西京・鳥取東京間本馬人足賃銀) 達書 (東京鳥取間本馬人足賃金) 八月十一日 切紙 一通
- 153 (諸役京都詰・江戸詰役料) 達書 (御東幸中御定人馬書上) 八月十一日 切紙 一通
- 154 (東京鳥取間本馬人足賃金) 達書 (御徒中村勘石・奥村重藏、黒坂御警衛詰中、御徒目付請持仰付らる) 八月朔日 切紙 一通
- 155 (御東幸中御定人馬書上) 達書 (苗字付山本源左衛門住居の長屋明け、しばらく定付屋敷明小屋賃貸す) 八月十一日 切紙 一通
- 156 (東京行路費用見積) 御出勢御人数御国内御警衛詰御人数微細帳 田中 慶応二年 冊子 一冊
- 157 御出勢御人数御国内御警衛詰御人数微細帳 田中 慶応二年 冊子 一冊
- 158 (鳥取より丹波通り京都迄の呈数と人足馬の雇賃書上) (人事・賞罰) 冊子 一冊
- 159 達書 (立川三丁目岩本屋由右工門に町御用場日雇頭 仰付る) 寅 (慶応二) 七月 切紙 一通
- 160 達書 (岩本屋由右工門に他所日雇御用開仰付る) 卯 (慶応三) 十二月十四日 切紙 二通
- 161 達書 (岩本屋由右工門出張の節苗字帯刀許可) 辰 (明治元) 二月 切紙 一通
- 162 達書 (坂本小一郎格式御取立仰付られ候処、当分裏判所出勤) (明治元) 閏四月九日 切紙 一通
- 163 達書 (江戸無頭足軽十八人、京都表無頭足軽へ) (明治元) 閏四月十九日 切紙 一通
- 164 達書 (田川久馬藏在御目付へ) (明治元) 閏四月廿一日 切紙 一通
- 165 知事達書 (角田小参事に脇差一腰下賜) 正月十九日 切紙 一通
- 166 達書 (山本太郎・斧次郎西洋鼓手御雇のこと) 二月十八日 切紙 一通
- 167 達書 (早道仲藏病氣につき無役とし、御徒頭手に廻し、二年間二人扶持を給する) 三月廿一日 切紙 二通
- 168 達書 (浜町御屋敷御小屋番国藏、砲兵下作廻に) 四月廿四日 切紙 一通
- 169 達書 (田中民藏、江戸表安置の位牌当表へ御返しに付) 五月三日 切紙 一通
- 170 達書 (定渡り小人万四郎、自殺未遂、治療のため村方へ連帰る) 五月三日 切紙 一通
- 171 達書 (弓徒吉田八郎右衛門、刑法手見廻り役仰付らる) 六月三日 切紙 一通
- 172 達書 (河瀬安藏、住山華藏御持筒組御雇) 六月廿四日 切紙 一通
- 173 達書 (裏判下吟味役人江左一郎を町方下吟味役に) 六月廿八日 切紙 一通
- 174 達書 (早道定加役の者、本役に仰付る) 七月廿八日 切紙 二通
- 175 達書 (御徒中村勘石・奥村重藏、黒坂御警衛詰中、御徒目付請持仰付らる) 八月朔日 切紙 一通
- 176 達書 (苗字付山本源左衛門住居の長屋明け、しばらく定付屋敷明小屋賃貸す) 八月十一日 切紙 一通
- 177 達書 (御小人奉行へ山川弥兵衛、竹藏奉行へ住山貫次郎任命) 八月廿七日 切紙 一通
- 178 達書 (河村那片柴村小人勝右工門、御目付下奉行屋敷へ差出す事) 八月廿八日 切紙 一通
- 179 達書 (小人河村那片柴村勝右工門不埒に付谷預け) 八月廿九日 切紙 一通
- 180 達書 (八上郡小河内村明石馬之丞預御鉄炮足軽相夫清左衛門不埒に付追込) 十月十一日 切紙 一通
- 181 達書 (山下豊雄儀、此度御番頭仰付らる) 十一月十一日 切紙 一通
- 182 達書 (裏判下吟味役梅里与兵衛、戸塚文海老婦京道中諸賄目付仰付らる) 十一月十八日 切紙 二通
- 183 達書 (竹藏古物奉行山川弥兵衛動向不行届に付、差控のところ御免) 十二月廿日 切紙 一通
- 184 達書 (江戸御作事定下奉行富之助・柚下奉行兵右工門拝借願許可) 不明 切紙 一通
- 185 達書 (帳作廻周兵衛・定下奉行善次郎拝借願許可) 不明 切紙 二通
- 186 達書 (大川御座船新造出来に付、御祝儀) 不明 切紙 一通
- 187 達書 (鏑師守田久兵衛、此度御国勝手仰付らる) 不明 切紙 一通
- 188 達書 (荒尾駿河朝廷参与に、田村貞彦會計総裁に仰付らる事の廻状) (明治元) 閏四月五日 切紙 一通
- 189 達書 (元メ役・御物頭仰付る) 二月九日 切紙 一通
- 190 達書 (八上郡小河内村清左工門 追込御免) 十一月十一日 切紙 一通
- 191 何書控 (泉屋勘助・城構六郎右衛門、石州出張の功により褒賞) 慶応二年七月四日 切紙 一通
- 192 何書控 (坂本小一郎・田中幸六役替) 寅 (慶応二) 五月十八日 切紙 一通

- 156 (東京行路費用見積) 御出勢御人数御国内御警衛詰御人数微細帳 田中 慶応二年 冊子 一冊
- 157 御出勢御人数御国内御警衛詰御人数微細帳 田中 慶応二年 冊子 一冊
- 158 (鳥取より丹波通り京都迄の呈数と人足馬の雇賃書上) (人事・賞罰) 冊子 一冊
- 159 達書 (立川三丁目岩本屋由右工門に町御用場日雇頭 仰付る) 寅 (慶応二) 七月 切紙 一通
- 160 達書 (岩本屋由右工門に他所日雇御用開仰付る) 卯 (慶応三) 十二月十四日 切紙 二通
- 161 達書 (岩本屋由右工門出張の節苗字帯刀許可) 辰 (明治元) 二月 切紙 一通
- 162 達書 (坂本小一郎格式御取立仰付られ候処、当分裏判所出勤) (明治元) 閏四月九日 切紙 一通
- 163 達書 (江戸無頭足軽十八人、京都表無頭足軽へ) (明治元) 閏四月十九日 切紙 一通
- 164 達書 (田川久馬藏在御目付へ) (明治元) 閏四月廿一日 切紙 一通
- 165 知事達書 (角田小参事に脇差一腰下賜) 正月十九日 切紙 一通
- 166 達書 (山本太郎・斧次郎西洋鼓手御雇のこと) 二月十八日 切紙 一通
- 167 達書 (早道仲藏病氣につき無役とし、御徒頭手に廻し、二年間二人扶持を給する) 三月廿一日 切紙 二通
- 168 達書 (浜町御屋敷御小屋番国藏、砲兵下作廻に) 四月廿四日 切紙 一通
- 169 達書 (田中民藏、江戸表安置の位牌当表へ御返しに付) 五月三日 切紙 一通
- 170 達書 (定渡り小人万四郎、自殺未遂、治療のため村方へ連帰る) 五月三日 切紙 一通
- 171 達書 (弓徒吉田八郎右衛門、刑法手見廻り役仰付らる) 六月三日 切紙 一通
- 172 達書 (河瀬安藏、住山華藏御持筒組御雇) 六月廿四日 切紙 一通
- 173 達書 (裏判下吟味役人江左一郎を町方下吟味役に) 六月廿八日 切紙 一通
- 174 達書 (早道定加役の者、本役に仰付る) 七月廿八日 切紙 二通
- 175 達書 (御徒中村勘石・奥村重藏、黒坂御警衛詰中、御徒目付請持仰付らる) 八月朔日 切紙 一通
- 176 達書 (苗字付山本源左衛門住居の長屋明け、しばらく定付屋敷明小屋賃貸す) 八月十一日 切紙 一通
- 177 達書 (御小人奉行へ山川弥兵衛、竹藏奉行へ住山貫次郎任命) 八月廿七日 切紙 一通
- 178 達書 (河村那片柴村小人勝右工門、御目付下奉行屋敷へ差出す事) 八月廿八日 切紙 一通
- 179 達書 (小人河村那片柴村勝右工門不埒に付谷預け) 八月廿九日 切紙 一通
- 180 達書 (八上郡小河内村明石馬之丞預御鉄炮足軽相夫清左衛門不埒に付追込) 十月十一日 切紙 一通
- 181 達書 (山下豊雄儀、此度御番頭仰付らる) 十一月十一日 切紙 一通
- 182 達書 (裏判下吟味役梅里与兵衛、戸塚文海老婦京道中諸賄目付仰付らる) 十一月十八日 切紙 二通
- 183 達書 (竹藏古物奉行山川弥兵衛動向不行届に付、差控のところ御免) 十二月廿日 切紙 一通
- 184 達書 (江戸御作事定下奉行富之助・柚下奉行兵右工門拝借願許可) 不明 切紙 一通
- 185 達書 (帳作廻周兵衛・定下奉行善次郎拝借願許可) 不明 切紙 二通
- 186 達書 (大川御座船新造出来に付、御祝儀) 不明 切紙 一通
- 187 達書 (鏑師守田久兵衛、此度御国勝手仰付らる) 不明 切紙 一通
- 188 達書 (荒尾駿河朝廷参与に、田村貞彦會計総裁に仰付らる事の廻状) (明治元) 閏四月五日 切紙 一通
- 189 達書 (元メ役・御物頭仰付る) 二月九日 切紙 一通
- 190 達書 (八上郡小河内村清左工門 追込御免) 十一月十一日 切紙 一通
- 191 何書控 (泉屋勘助・城構六郎右衛門、石州出張の功により褒賞) 慶応二年七月四日 切紙 一通
- 192 何書控 (坂本小一郎・田中幸六役替) 寅 (慶応二) 五月十八日 切紙 一通

193 何書控 (田中善太夫他八名 出精に付御取立) (明治元) 閏四月五日 切紙 一通

194 何書控 (坂本小一郎当分裏判所出勤、住山貫次郎竹藏小物奉行) (明治元) 閏四月六日 切紙 一通

195 何書控 (田中幸介御飛脚頭へ、藤兵衛・岩藏苗字付に、三宅重内裏判所手伝に) (明治元) 閏四月七日 切紙 一通

196 何書控 (尾崎武左衛門・田中市郎右衛門、御目見仰付らる様) (明治元) 閏四月十一日 切紙 一通

197 何書控 (浜部儀八郎出精に付、御減少の御支配御返し) (明治元) 閏四月十四日 切紙 二通

198 何書控 (奥谷御廟所御番人林源十郎儀、貞実相勤候に付、御弓徒御繰上) (明治元) 閏四月十四日 切紙 一通

199 何書控 (三多屋昌次郎に苗字御免) (明治元) 閏四月十九日 切紙 一通

200 何書控 (田中市郎右衛門御小人小屋勤番御免、代り入江左一郎) (明治元) 閏四月廿一日 切紙 一通

201 何書案 (裏判下吟味役兩人に仰付らる様) 正月十一日 切紙 一通

202 鶴殿主水介逢書写 (河崎半内、中川佐左衛門罷帰る迄、同人触口支配請持) 二月廿五日 切紙 一通

203 何書控 (岡崎平内、元メ役并銀札場長役兼帯御免) 三月十一日 切紙 一通

204 何書控 (杉田小兵衛御賄負の内玄米耕直し違他により差控) 三月十四日 切紙 四通

205 何書控 (浜町御屋敷御小屋番國藏、砲兵下作廻へ) 四月廿三日 切紙 一通

206 何書控 (江戸表御暇の無頭足軽八人、京都表御召抱の願) 四月廿八日 切紙 一通

207 何書控 (下吟味役に田中市郎右衛門・小畑久馬介兩人仰付る) 五月三日 切紙 一通

208 何書控 (入江左一郎・三宅重内・中村源兵衛・白井伝次郎へそれぞれ役務) 五月七日 切紙 一通

209 何書控 (浦上村切支丹請取の役人) 五月七日 切紙 一通

210 何書控 (早道貞次郎・庄藏・分吉に御褒美金) 五月十二日 切紙 一通

211 何書控 (林善兵衛、病氣に付願の通役儀御免) 五月十四日 切紙 一通

212 何書控 (岩本屋由右衛門、日雇多人數御用の褒美として五人扶持) 五月十四日 切紙 一通

213 何書控 (野口助太夫、裏判數類定加役仰付らる様) 五月十八日 切紙 一通

214 何書控 (江戸御作事定下奉行諸鹿善次郎、位牌御返しに心附銀遣す) 五月十八日 切紙 一通

215 何書控 (杉田小兵衛・入江左一郎へそれぞれ役務) 五月廿一日 切紙 一通

216 何書控 (御弓徒岩田勝藏出精に付、御徒繰上) 五月廿一日 切紙 一通

217 何書控 (森田勝藏役儀当分其儀) 五月廿三日 切紙 一通

218 何書控 (田中民藏・五藤源之進・田武次郎・仕廻役久次郎へ役務) 五月廿六日 切紙 一通

219 何書控 (梅里与兵衛・仕込役庄一郎差控) 五月廿七日 切紙 二通

220 何書控 (清水乙允始十六士の面々帰参、しばらく浜坂民兵小屋) 六月十四日 切紙 一通

221 何書控 (歩兵仕出し賄御用開弁屋益次郎を御会所御看御用聞に) 六月廿四日 切紙 一通

222 何書控 (福嶋屋音藏当地へ引越、当分二人扶持) 六月廿四日 切紙 一通

223 何書控 (塩倉宇右衛門裏判下吟味役へ御役替) 七月三日 切紙 一通

224 何書控 (在下奉行源之助、早道へ場所替) 七月廿日 切紙 一通

225 何書控 (京都へ大工棟梁の内一人づつ交代で仰付ける様) 七月廿五日 切紙 一通

226 何書控 (小津善四郎他役務) 七月廿九日 切紙 一通

227 何書控 (京都へ以後御作事大工棟梁の内一人づつ一年交代) 八月三日 切紙 一通

228 何書控 (上京に付、早道瀧右エ門以下七名に新役) 八月三日 切紙 一通

229 何書控 (岡村惣右衛門、上御職負私役御免) 八月十日 切紙 一通

230 何書控 (御畳方下奉行清一、江戸御作事定下奉行善次郎にそれぞれ新役) 八月十日 切紙 二通

231 何書控 (御畳方下奉行仕人兼清一、不心得に付追込) 八月十四日 切紙 一通

232 何書控 (御荷物廻甚六・伊助の屈) 八月廿三日 切紙 一通

233 何書控 (山川弥兵衛御小人奉行に、住山貫次郎竹藏古物奉行に) 八月廿八日 切紙 一通

234 何書控 (早道定加役兩人召出される) 八月廿八日 切紙 一通

235 何書控 (牧野采温・同兵馬家断絶に付) 九月三日 切紙 一通

236 何書控 (米子鹿島伊右衛門、西國馬縄の節、本宮に相成り、褒美) 九月三日 切紙 一通

237 何書控 (御銀札場より先達で追込の二人御免) 九月七日 切紙 一通

238 何書控 (山本重三郎、ひきつづき差控) 十月七日 切紙 一通

239 何書控 (早道政次郎、京都表への道中仮苗字御免) 十月七日 切紙 一通

240 何書控 (山本重三郎差控御免) 十月七日 切紙 二通

241 何書控 (會計司人事移動) 十月十九日 切紙 二通

242 何書控 (山本甚三郎引越の事) 十一月十八日 切紙 一通

243 何書控 (下吟味役他任命と御免) 十二月十六日 切紙 一通

244 何書控 (田中善太夫他差控の屈) 十二月十八日 切紙 一通

245 何書控 (諸役人の処罰・任命) 十二月廿日 切紙 一通

246 何書控 (御小人小頭吉田四郎三郎不行届に付追込) 十二月廿四日 切紙 一通

247 何書控 (御小人小頭吉田四郎三郎追込御免) 十二月晦日 切紙 一通

248 何書控 (御小人四名、上中直り仰付る) 十二月 切紙 一通

249 何書控 (五藤源之進 數類御買使に、佐々木幾三郎本役同様御付る) 不明 切紙 一通

250 何書控 (御用方御徒、初詰京都の際、火事羽織修葺料・合羽料御渡) 不明 切紙 一通

251 何書控 (荒武市太郎所々出張粉骨に付褒美) 不明 切紙 一通

252 何書控 (御捍羽織を御捍の者に渡す) 不明 切紙 一通

253 何書控 (秋本仙十郎・田川藤市盗品買取不届) 不明 切紙 一通

254 何書控 (小沢善四郎・入江左一郎へそれぞれ新役) 不明 切紙 一通

255 何書控 (早道加役 仰付る) 不明 切紙 一通

256 何書控 (小山勝馬大坂御藏奉行仰付られ、引越料遣す) 不明 切紙 一通

257 何書控 (入江左一郎裏判下吟味役へ転役) 不明 切紙 一通

258 何書控 (山本儀左衛門に引続京都詰仰付る) 不明 切紙 一通

259 何書控 (荒木小右衛門、呉服紙奉行兼帯) 不明 切紙 一通

260 何書控 (服部村鉄砲製場御小人を定日役に) 不明 切紙 一通

261 達書 (田中幸六 詰延のこと) (軍事) 不明 切紙 一通

262 達書 (田中並之丞・仙石平内に討長軍通行のための使者仰付る) (慶応二) 六月五日 切紙 二通

263 達書 (討長軍差向の通行・雜人馬・止宿頼みの使者二名出足) (慶応二) 六月五日 切紙 一通

264 達書 (此度御出勢に付、右御人數の内勝手に人足にとらぬこと) (慶応二) 六月五日 切紙 一通

265 達書写 (御旗本、御出馬の用意すべきこと) (慶応二) 六月五日 切紙 一通

266 達書 (二番手御人數出立に付、御旗本の備御立置をしておくこと) (慶応二) 六月廿三日 切紙 一通

267 達書 (中本軍太夫内弟子門人九人討長御出勢に付、金渡す) (慶応二) 六月廿三日 切紙 一通

268 達書 (討長のため出張の御役人の名前申達すこと) (慶応二) 七月五日 切紙 一通

269 達書 (新長次郎・吉岡藤吉へ討長のため地理陣所等見分の事) (慶応二) 九月八日 切紙 一通

270 達書 (討長軍一の先来る十二日、一番手十五日出足) (慶応二) 七月 切紙 一通

271 達書 (此度一ノ先・沓番手御人數出張) (慶応二) 三日 切紙 一通

272 達書 (伏見変動につき警衛として京都に人數差出に付) (明治元) 正月七日 切紙 一通

273 達書写(御征討のため姫路表へ御人数差向) (明治元) 正月廿日 切紙 一通

274 達書(森田勝藏・山口篤藏・梅里与兵衛・岡村惣右衛門、征討のため姫路へ人数差出に付) (明治元) 九月十八日 切紙 一通

275 達書(上野戦争戦死者) (明治元) 九月十八日 切紙 一通

276 達書(新国隊入隊者に今度限り金一両御渡) 八月三日 切紙 一通

277 達書(淀江へ罷越おる新国隊、米子表へ) 九月十五日 切紙 一通

278 達書(新国隊来月より自分賄で日老人老升、月老人老兩渡され) 七月十八日 切紙 一通

279 達書(神衛隊・歩兵隊共越後出張、留守中拱海警衛のため大坂表へ) 七月朔日 切紙 一通

280 達書写(朝廷より拱海警衛のため大坂表へ義衛隊出張御付らる) 九月二日 切紙 一通

281 達書写(因伯歩兵稽古のこと) 不明 切紙 一通

282 達書写(京都御警衛増人数急差向) 不明 切紙 一通

283 伺書案(伏見辺の変動の趣に付、御警衛のため京都表へ人数差向) (明治元) 正月十一日 切紙 一通

284 伺書控(上野戦争の節討死の三名、格別に御評儀遣さる様) (明治元) 七月三日 切紙 一通

285 伺書控(上野戦争死者に香花料) (明治元) 七月十二日 切紙 一通

286 伺書控(新国隊伯州へ出張二付、生蠟を一夕に付拾匁渡す) 九月七日 切紙 一通

287 伺書控(新英隊解隊他) 正月九日より 切紙 一通

288 (宇都宮の戦いの報告) (明治元年) 切紙 一通

289 (人数書上)(鳥羽戦争への出兵人数か) 切紙 一通

290 (兵士書上)(新国隊十五名と他十一名) 切紙 一通

291 達書写(西園寺殿御通行の付添人名の廻状) 正月十一日 切紙 一通

292 達書(山陰道鎮撫使西園寺中将の旅程確認のため、早道の者を丹波路へ派遣) 正月十一日 切紙 一通

293 達書写(荒尾近江、西園寺殿御越三付御人数差出) 正月十二日 切紙 一通

294 達書(門脇少造・沖深三・松田正人迎えに出足、よろしく取斗いのこと) 正月十三日 切紙 一通

295 達書写(西園寺殿付添の面々学校へ罷出るよう廻状) 正月十四日 切紙 一通

296 達書(西園寺三位中将殿御迎え国方役人の在出宿料の賄についで) 正月十四日 切紙 一通

297 達書(西園寺殿御旅館乾小四郎宅下見立会のこと) 正月十五日 切紙 一通

298 達書(西園寺殿御越に付、学校へ旅館相成る) 正月廿日 切紙 一通

299 達書(西園寺殿山陰道鎮撫使として来鳥の事) 正月廿日 切紙 一通

300 達書(前田浅右衛門、西園寺殿御途中迄早追にて罷越候様) 二月廿二日 切紙 一通

301 達書(山陰道鎮撫使西園寺殿米子表逗留中の応接について) 二月十四日 切紙 一通

302 達書(山田孫兵衛・神戸左馬次郎を山陰道鎮撫使旅宿へ派遣) 二月廿五日 切紙 一通

303 達書(山陰道鎮撫使西園寺殿明後日鳥取を出発のこと) 二月十八日 切紙 一通

304 達書写(西園寺殿天気合に付出發延引) 二月十八日 切紙 一通

305 達書(河崎政之丞儀、西園寺殿の御用に付、旅宿まで罷越すこと) 二月廿五日 切紙 一通

306 達書(山陰道鎮撫使但馬路御迎の道中賄の事) 不明 切紙 一通

307 達書(御納戸定渡部屋頭常三郎、西園寺殿通行の付添御付) 不明 切紙 一通

308 達書(山陰道鎮撫使天候不順につき出立延期) 不明 切紙 一通

309 達書(学校、西園寺殿の旅宿からもの通りへ、よろしく取斗いのこと) 不明 切紙 一通

310 達書断簡(西園寺殿) 不明 切紙 一通

311 伺書控(西園寺殿御通行付添諸賄として以下の者御付) 正月十二日 切紙 一通

312 伺書案(中川左衛門、西園寺殿御付添に罷越すよう) 正月十四日 切紙 一通

313 伺書案(西園寺殿米子表へ御越に付、後藤武一郎他米子へ) 二月十六日 切紙 一通

314 届書控(後藤武一郎他西園寺殿米子逗留中御用向仕廻、罷掃) 三月十三日 切紙 一通

315 伺書案(田川久馬藏・佐々木幾三郎、西園寺殿御付添昨夜罷掃) 四月十四日 切紙 一通

316 伺書控(米子鹿嶋伊右衛門、西園寺殿御本宮に付、褒美つかわさる) 六月廿日 切紙 一通

317 伺書控(西園寺殿御迎のため但馬へ罷越す面々のこと) 不明 切紙 一通

318 西園寺侯旅中御料理に付伺書 不明 切紙 一通

319 某用状案(西園寺殿御立に付、乗駕籠・人足等のこと) 在御吟味役宛 二月十五日 切紙 一通

320 某用状案(西園寺殿御立に付、人足の事) 町奉行宛 二月十五日 切紙 一通

321 鶴殿用状写(西園寺殿御通行の付添を中川に) 正月十五日 切紙 一通

322 田中善太夫達書(御入湯中御出御用御供人夫等、此方より取作廻) 四月廿八日 切紙 一通

323 達書(宝隆院様御入湯二付) 四月廿八日 切紙 一通

324 達書(宝隆院様吉岡入湯二付、銀札遣わさる) 四月廿九日 切紙 一通

325 達書控(田中善太夫・佐々木幾三郎、宝隆院吉岡入湯関係) 閏四月五日 切紙 一通

326 達書(宝隆院様御入湯二付、裏判所手形を以て御渡) 閏四月十一日 切紙 一通

327 達書(岩井湯村へ御入湯の旨仰出らる廻状) 五月廿三日 切紙 一通

328 達書(岩井湯村御入湯二付、賄宜しく取斗うこと) 河崎政之丞宛 五月廿六日 切紙 一通

329 達書(御入湯御供の面々への人馬、俟約に付、一切渡さず) 五月廿六日 切紙 一通

330 達書(岩井湯村御入湯二付、関する廻状) 五月廿七日 切紙 一通

331 達書(湯村御入湯中の連絡) 五月廿七日 切紙 一通

332 達書(円城寺芳藏御湯許へ罷越すため駕籠御渡) 五月晦日 切紙 一通

333 達書(宝隆院様去春御入湯中の御払代銀、御渡し) 七月十日 切紙 一通

334 達書(入江左助・佐々木幾三郎他に宝隆院様御入湯御供の心附銀) 七月十日 切紙 一通

335 達書(宝隆院様吉岡へ御入湯二付、諸事変更) 不明 切紙 一通

336 達書(宝隆院様御入湯御供御雇) 不明 切紙 一通

337 達書(入湯中御上賄諸人用、裏判所管轄) 不明 切紙 一通

338 達書案(宝隆院様御入湯中の心附遣わす) 不明 切紙 一通

339 伺書案(湯村御入湯のこと) 五月廿八日 切紙 一通

340 伺書案(岩井湯村御入湯二付、裏判所当座手形渡す) 不明 切紙 一通

341 弁務達書(生野礼藏東京へ出張命令) 十二月十三日 切紙 一通

342 弁務達書(生野礼藏帰藩命令) 會計局宛 十二月廿九日 切紙 一通

343 弁務達書(政庁始) 會計局・兵制局・刑法局宛 正月四日 切紙 一通

344 弁務達書(林善八差控) 會計局宛 正月八日 切紙 一通

345 弁務達書(松田京都府大参事東下致すに付、屋敷取斗のこと) 會計局宛 正月十二日 切紙 一通

346 弁務達書(太政官達書の回覧) 會計局・兵制局・刑法局・総学局宛 正月十三日 切紙 一通

347 弁務達書(徒族・銃卒の身分について政庁通達) 會計局・兵制局 正月十七日 切紙 一通

348 弁務達書(香山御屋敷の件) 會計局宛 正月十七日 切紙 一通

349 弁務達書(松田京都府大参事此滞へ御預け) 正月十九日 切紙 一通

- 350 弁務達書(東西兩京詰のもの猥りに金銀を費し悪所へ参ること  
禁止) 正月廿日 切紙 一通
- 351 弁務達書(太政官達書の回覧) 正月廿二日 切紙 一通
- 352 弁務達書(藤岡俊成鳥取表へ帰国命令) 會計局宛 正月廿三日 切紙 一通
- 353 弁務達書(昨巴年上納金猶予願の事) 會計局宛 (その他) 正月廿四日 切紙 一通
- 354 政庁達書(藩中の面々へ屋敷地御定取割で渡す) 三月廿日 切紙 一通
- 355 政庁達書(徒族を廃し、士族・卒族をそれぞれ三等に分ける) 五月廿七日 切紙 一通
- 356 刑法局達書(御家政の諸凶事に關して) 五月廿九日 切紙 一通
- 357 行政官達書(國事諮詢のため隔日出仕のこと) 池田御官名宛 五月 切紙 一通
- 358 行政官達書(今般制度御改定に付、一先職務免ぜらる) 池田御官名宛 五月 切紙 一通
- 359 民政局・刑法局達書(士卒社寺の面々を始め、在住居中は郡司 觸口に) 閏十月十三日 切紙 一通
- 360 達書案(會計の大基本作成のための費用取調書の書き方) 正月五日 切紙 一通
- 361 達書(御用日初メの式の再開) 正月十七日 切紙 一通
- 362 達書(鳥羽伏見の役につき藩主統柄をもって恐入旨仰上たに付、 慎のこと) (明治元) 正月十七日 切紙 一通
- 363 達書(門脇彈正大弼殿、此藩へ御預) 會計局・刑法局宛 正月廿一日 切紙 一通
- 364 達書写(太政官布告・兵部省布告等の控) 正月廿四日 切紙 一通
- 365 達書(水樋道谷口百軒長屋辺、北御門近辺に箱番所出来、取斗 いたこと) 二月八日 切紙 一通
- 366 達書写(此度御隠居に付、万々用意あること) 二月廿四日 切紙 一通
- 367 達書写(松平出羽守よりの使者への対応) 三月十二日 切紙 一通
- 368 達書写(來ル十四日学校兩社祭祀例年の通執行) 三月十三日 切紙 一通
- 369 達書(九ノ内新番所の出番について) 辰三月十四日 切紙 一通
- 370 和田吉岐達書(毛利大膳大夫復位、前々の通り兩敬の事) 三月十八日 切紙 一通
- 371 達書写(池田彈正殿嫡子久米之助御忍にて來鳥、用意のこと) 三月十八日 切紙 一通
- 372 達書写(郡代他臨時出張の用意のあるように) 三月廿四日 切紙 一通
- 373 達書写(來る十七日の東照宮御祭禮御流れの廻状) 四月十五日 切紙 一通
- 374 達書(江戸表御屋敷内の稲荷一社、裏判所内へ勧進の願許可) 四月十八日 切紙 一通
- 375 達書写(着座始御機嫌伺のため、先づ登城及ばず) 閏四月十八日 切紙 一通
- 376 達書(京都より和蘭字彙一冊廻すように) 閏四月廿九日 切紙 一通
- 377 達書写(兩國制札場の制札に以後御謹相認む様仰出さる廻状) 五月三日 切紙 一通
- 378 達書(浦上の切支丹當藩に御預の事) 五月四日 切紙 一通
- 379 行政官達書写(池田御官名謹慎を仰付られ、末々まで諸事慎む 事) 五月九日 切紙 一通
- 380 達書写(中納言御謹慎御免仰らることの廻状) 五月十七日 切紙 一通
- 381 達書写(町人共へ品物代銀等相滞らざる様) 五月十八日 切紙 一通
- 382 達書(小人共役勘定の儀、その役場にて取斗うこと) 寅(慶応二) 五月廿四日 切紙 一通
- 383 達書写(京都松波三河守殿下女兩人御返しに付) 五月廿四日 切紙 一通
- 384 達書(藩治職制改正と当主嫡子庶子途中出會の節の挨拶) 五月廿六日 切紙 三通
- 385 達書写(休日今まで廿九日のところ朔日に立替の廻状) 五月廿八日 切紙 一通
- 386 達書写(銭相場、札老奴に付百文替の廻状) 六月十二日 切紙 一通
- 387 達書写(朝廷より陸軍兵隊御立置ならるに付、儉約と他借) 六月十七日 切紙 一通
- 388 達書写(朝命により御快方次第上京に付、用意の事廻状) 六月廿六日 切紙 一通
- 389 達書(邪教信仰の者御預を取消、そのため尾道出張の人数引取) 六月廿七日 切紙 一通
- 390 達書(儉約のため仕人役料減らす) 六月廿八日 切紙 一通
- 391 片桐元之進・三宅忠太夫達書(賄付人足式百人差出す様) 卯七月 切紙 二通
- 392 達書(毛利大膳大夫使者中山澄江、明日若殿様へ御目見) 七月十二日 切紙 一通
- 393 達書写(御上京格別の物入統、なるべく実用に基き取斗う様) 七月廿四日 切紙 二通
- 394 達書(御鉄砲足輕人数少なく差支に付、当表に御暇遣さる様) 七月廿七日 切紙 一通
- 395 達書(松平右近將監様の御方様御用四百兩御渡) 七月廿八日 切紙 一通
- 396 達書(御発駕來ル七日に付、御供の面々今日より休) 八月二日 切紙 一通
- 397 達書写(鉄砲足輕人少なく差支、なるたけ飛脚等減らす様) 八月二日 切紙 一通
- 398 達書(松平右近將監嫡子・奥方へ渡瀬猶之進居宅を御貸) 八月三日 切紙 一通
- 399 達書写(御上京御道途および御供の条目申し渡しについて) 八月三日 切紙 一通
- 400 達書写(京都詰の面々兼て取締方宜からず。關東出張の者奥羽 へ進軍) 八月五日 切紙 一通
- 401 達書写(明七日御発駕の処、雨天続に付、渡場に関する廻状) 八月六日 切紙 一通
- 402 達書写(諸道往來の節、裏判所印鑑受取事) 八月十日 切紙 一通
- 403 達書(松平右近將監奥方、住居整いかね、勝見へ其假逗留の事) 八月十三日 切紙 一通
- 404 達書(覺性院七回忌の法事に付、廻状) 八月廿日 切紙 一通
- 405 達書(御方より雲州安藤左京へ金子入洪紙包送る手配の事) 八月廿三日 切紙 一通
- 406 達書写(不時遣さる金銀・御祈禱料、以後割増なし) 八月三十日 切紙 一通
- 407 達書写(洪水後の復旧のこと) 九月朔日 切紙 一通
- 408 達書写(非常の御取構に付、格別に儉約すること) 九月朔日 切紙 一通
- 409 達書(朝廷より御達に付、往來の際印鑑裏判所より受取る事) 九月五日 切紙 一通
- 410 達書(松平右近將監奥方・嫡子の日用品は全て裏判所作廻) 九月七日 切紙 一通
- 411 達書写(宗門書上は今まで御目付宛のところ、以後刑法奉行宛) 九月七日 切紙 一通
- 412 達書写(智賢院様五拾回忌來ル十一日執行の廻状) 九月八日 切紙 一通
- 413 達書(戸田誠弥、松平出羽守様への使者に付、早道の者一人御 渡) 九月十五日 切紙 一通
- 414 達書控(儉約に付、御仕着の品々隔年御渡し) 九月十八日 切紙 一通
- 415 達書(兩御殿御用として毛振竹御渡) 十月七日 切紙 一通
- 416 達書(作州坂根村維持のため銀札二貫五百目拝借許可のこと) 十月十一日 切紙 二通
- 417 達書(中坂口御番所廃止) 十一月七日 切紙 二通
- 418 達書(戸塚文海老婦京につき) 十一月十八日 切紙 一通
- 419 小監察田中農夫達書案(鳥取から米子へ罷越す際の駕籠人足徴 発) 村々庄屋宛 十一月十九日 切紙 二通
- 420 達書写(京地の御挨拶のため煤払延期) 十二月十七日 切紙 一通
- 421 達書(當暮遣され候儀、伺の通承届候事) 十二月廿四日 切紙 一通
- 422 達書(來ル十四日学校兩社祭祀に付、諸參詣御免) 不明 切紙 一通
- 423 達書(智頭御番所の火鉢) 不明 切紙 一通
- 424 達書写(伊藤良造への歳末謝礼金) 不明 切紙 一通

- 350 弁務達書(東西兩京詰のもの猥りに金銀を費し悪所へ参ること  
禁止) 正月廿日 切紙 一通
- 351 弁務達書(太政官達書の回覧) 正月廿二日 切紙 一通
- 352 弁務達書(藤岡俊成鳥取表へ帰国命令) 會計局宛 正月廿三日 切紙 一通
- 353 弁務達書(昨巴年上納金猶予願の事) 會計局宛 (その他) 正月廿四日 切紙 一通
- 354 政庁達書(藩中の面々へ屋敷地御定取割で渡す) 三月廿日 切紙 一通
- 355 政庁達書(徒族を廃し、士族・卒族をそれぞれ三等に分ける) 五月廿七日 切紙 一通
- 356 刑法局達書(御家政の諸凶事に關して) 五月廿九日 切紙 一通
- 357 行政官達書(國事諮詢のため隔日出仕のこと) 池田御官名宛 五月 切紙 一通
- 358 行政官達書(今般制度御改定に付、一先職務免ぜらる) 池田御官名宛 五月 切紙 一通
- 359 民政局・刑法局達書(士卒社寺の面々を始め、在住居中は郡司 觸口に) 閏十月十三日 切紙 一通
- 360 達書案(會計の大基本作成のための費用取調書の書き方) 正月五日 切紙 一通
- 361 達書(御用日初メの式の再開) 正月十七日 切紙 一通
- 362 達書(鳥羽伏見の役につき藩主統柄をもって恐入旨仰上たに付、 慎のこと) (明治元) 正月十七日 切紙 一通
- 363 達書(門脇彈正大弼殿、此藩へ御預) 會計局・刑法局宛 正月廿一日 切紙 一通
- 364 達書写(太政官布告・兵部省布告等の控) 正月廿四日 切紙 一通
- 365 達書(水樋道谷口百軒長屋辺、北御門近辺に箱番所出来、取斗 いたこと) 二月八日 切紙 一通
- 366 達書写(此度御隠居に付、万々用意あること) 二月廿四日 切紙 一通
- 367 達書写(松平出羽守よりの使者への対応) 三月十二日 切紙 一通
- 368 達書写(來ル十四日学校兩社祭祀例年の通執行) 三月十三日 切紙 一通
- 369 達書(九ノ内新番所の出番について) 辰三月十四日 切紙 一通
- 370 和田吉岐達書(毛利大膳大夫復位、前々の通り兩敬の事) 三月十八日 切紙 一通
- 371 達書写(池田彈正殿嫡子久米之助御忍にて來鳥、用意のこと) 三月十八日 切紙 一通
- 372 達書写(郡代他臨時出張の用意のあるように) 三月廿四日 切紙 一通
- 373 達書写(來る十七日の東照宮御祭禮御流れの廻状) 四月十五日 切紙 一通
- 374 達書(江戸表御屋敷内の稲荷一社、裏判所内へ勧進の願許可) 四月十八日 切紙 一通
- 375 達書写(着座始御機嫌伺のため、先づ登城及ばず) 閏四月十八日 切紙 一通
- 376 達書(京都より和蘭字彙一冊廻すように) 閏四月廿九日 切紙 一通
- 377 達書写(兩國制札場の制札に以後御謹相認む様仰出さる廻状) 五月三日 切紙 一通
- 378 達書(浦上の切支丹當藩に御預の事) 五月四日 切紙 一通
- 379 行政官達書写(池田御官名謹慎を仰付られ、末々まで諸事慎む 事) 五月九日 切紙 一通
- 380 達書写(中納言御謹慎御免仰らることの廻状) 五月十七日 切紙 一通
- 381 達書写(町人共へ品物代銀等相滞らざる様) 五月十八日 切紙 一通
- 382 達書(小人共役勘定の儀、その役場にて取斗うこと) 寅(慶応二) 五月廿四日 切紙 一通
- 383 達書写(京都松波三河守殿下女兩人御返しに付) 五月廿四日 切紙 一通
- 384 達書(藩治職制改正と当主嫡子庶子途中出會の節の挨拶) 五月廿六日 切紙 三通
- 385 達書写(休日今まで廿九日のところ朔日に立替の廻状) 五月廿八日 切紙 一通
- 386 達書写(銭相場、札老奴に付百文替の廻状) 六月十二日 切紙 一通
- 387 達書写(朝廷より陸軍兵隊御立置ならるに付、儉約と他借) 六月十七日 切紙 一通
- 388 達書写(朝命により御快方次第上京に付、用意の事廻状) 六月廿六日 切紙 一通
- 389 達書(邪教信仰の者御預を取消、そのため尾道出張の人数引取) 六月廿七日 切紙 一通
- 390 達書(儉約のため仕人役料減らす) 六月廿八日 切紙 一通
- 391 片桐元之進・三宅忠太夫達書(賄付人足式百人差出す様) 卯七月 切紙 二通
- 392 達書(毛利大膳大夫使者中山澄江、明日若殿様へ御目見) 七月十二日 切紙 一通
- 393 達書写(御上京格別の物入統、なるべく実用に基き取斗う様) 七月廿四日 切紙 二通
- 394 達書(御鉄砲足輕人数少なく差支に付、当表に御暇遣さる様) 七月廿七日 切紙 一通
- 395 達書(松平右近將監様の御方様御用四百兩御渡) 七月廿八日 切紙 一通
- 396 達書(御発駕來ル七日に付、御供の面々今日より休) 八月二日 切紙 一通
- 397 達書写(鉄砲足輕人少なく差支、なるたけ飛脚等減らす様) 八月二日 切紙 一通
- 398 達書(松平右近將監嫡子・奥方へ渡瀬猶之進居宅を御貸) 八月三日 切紙 一通
- 399 達書写(御上京御道途および御供の条目申し渡しについて) 八月三日 切紙 一通
- 400 達書写(京都詰の面々兼て取締方宜からず。關東出張の者奥羽 へ進軍) 八月五日 切紙 一通
- 401 達書写(明七日御発駕の処、雨天続に付、渡場に関する廻状) 八月六日 切紙 一通
- 402 達書写(諸道往來の節、裏判所印鑑受取事) 八月十日 切紙 一通
- 403 達書(松平右近將監奥方、住居整いかね、勝見へ其假逗留の事) 八月十三日 切紙 一通
- 404 達書(覺性院七回忌の法事に付、廻状) 八月廿日 切紙 一通
- 405 達書(御方より雲州安藤左京へ金子入洪紙包送る手配の事) 八月廿三日 切紙 一通
- 406 達書写(不時遣さる金銀・御祈禱料、以後割増なし) 八月三十日 切紙 一通
- 407 達書写(洪水後の復旧のこと) 九月朔日 切紙 一通
- 408 達書写(非常の御取構に付、格別に儉約すること) 九月朔日 切紙 一通
- 409 達書(朝廷より御達に付、往來の際印鑑裏判所より受取る事) 九月五日 切紙 一通
- 410 達書(松平右近將監奥方・嫡子の日用品は全て裏判所作廻) 九月七日 切紙 一通
- 411 達書写(宗門書上は今まで御目付宛のところ、以後刑法奉行宛) 九月七日 切紙 一通
- 412 達書写(智賢院様五拾回忌來ル十一日執行の廻状) 九月八日 切紙 一通
- 413 達書(戸田誠弥、松平出羽守様への使者に付、早道の者一人御 渡) 九月十五日 切紙 一通
- 414 達書控(儉約に付、御仕着の品々隔年御渡し) 九月十八日 切紙 一通
- 415 達書(兩御殿御用として毛振竹御渡) 十月七日 切紙 一通
- 416 達書(作州坂根村維持のため銀札二貫五百目拝借許可のこと) 十月十一日 切紙 二通
- 417 達書(中坂口御番所廃止) 十一月七日 切紙 二通
- 418 達書(戸塚文海老婦京につき) 十一月十八日 切紙 一通
- 419 小監察田中農夫達書案(鳥取から米子へ罷越す際の駕籠人足徴 発) 村々庄屋宛 十一月十九日 切紙 二通
- 420 達書写(京地の御挨拶のため煤払延期) 十二月十七日 切紙 一通
- 421 達書(當暮遣され候儀、伺の通承届候事) 十二月廿四日 切紙 一通
- 422 達書(來ル十四日学校兩社祭祀に付、諸參詣御免) 不明 切紙 一通
- 423 達書(智頭御番所の火鉢) 不明 切紙 一通
- 424 達書写(伊藤良造への歳末謝礼金) 不明 切紙 一通



- 425 達書控(拝領屋敷の差上げ) 不明 切紙 一通
- 426 達書(大川御座船新造につき、作事手御小人増の件) 不明 切紙 一通
- 427 達書(御台所模様替について) 不明 切紙 一通
- 428 裏判達書(御座船新造作事船大工不足の事) 不明 切紙 一通
- 429 達書案(京都へ鉄砲薬を廻す) 不明 切紙 一通
- 430 達書案(備前清泰院御修復御用の件) 不明 切紙 一通
- 431 達書(松平加賀守様中納言様御代香大河原弥左衛門の取斗) 不明 切紙 二通
- 432 達書(左の馬 御国へ御廻し) 不明 切紙 一通
- 433 達書(藤田基左衛門拝領屋敷召上、代り地追て渡す) 不明 切紙 一通
- 434 達書(御鞍轡御国へ御廻し) 不明 切紙 一通
- 435 達書(御雇の無頭御鉄砲以下の御免来丑正月まで猶予) 不明 切紙 一通
- 436 達書(家の明け渡し命令) 不明 切紙 一通
- 437 達書(御船御用船大工作料内貸) 不明 切紙 一通
- 438 達書(公義より火之元の儀 仰出らるに付) 不明 切紙 一通
- 439 達書(主税様急御参府付、浜町御屋敷御拜借) 不明 切紙 一通
- 440 達書写(町方御用開割増金) 三月十四日 切紙 一通
- 441 達書添書(御礼節の次第別紙の通り) 不明 切紙 二通
- 442 達書添状(別紙の趣達すること) 不明 切紙 二通
- 443 何書案(京都表臨時出張の警衛詰の面々へ送る荷物の事) 閏四月廿四日 切紙 一通
- 444 何書控(格別の御候約に付、大破の外は修復せず) 閏四月廿八日 切紙 一通
- 445 何書案(御上京御道中、京都にて御待詰、且重陽御用の事) 閏四月廿八日 切紙 一通
- 446 何書控(御上京付、御供の面々の荷物等について) 七月廿八日 切紙 一通
- 447 何書案(諸役場休日、朔日に立替付、裏判所も同様) 八月三日 切紙 一通
- 448 三宅忠太夫届書写(田中幸六家に盗賊の届)(慶応二)正月廿日 切紙 一通
- 449 中本軍太夫届書(鉄砲足軽他取立に付、古本綿切他増請求) 卯(慶応三)三月 切紙 一通
- 450 重松久之返届書控(会見郡西外江村御小人佐兵衛行方不知) 卯(慶応三)十二月七日 切紙 一通
- 451 重松久之返届書控(小頭吉田四郎三郎に懐申付) (慶応三)十二月十四日 切紙 二通
- 452 重松久之返届書控(御小人平四郎へ御扶持方遣される様) (慶応三)十二月 切紙 一通
- 453 中井金之返届書(西洋流砲術稽古のための物品の請求) 卯(慶応三)十二月 切紙 一通
- 454 津坂丈之助・初鹿野権之進届書(出張付、炭御渡し願) 辰(明治元)正月 切紙 一通
- 455 中本軍太夫届書(西洋流砲術稽古のための物品、増二御渡しの願) 辰(明治元)正月 切紙 一通
- 456 中井金之返届書(西洋流砲術稽古のための物品拝借願) 辰(明治元)正月 切紙 一通
- 457 中井金之返届書(西洋流砲術稽古のための物品増二御渡しの願) 辰(明治元)正月 切紙 一通
- 458 某届書(小頭・足軽取立二付、品々請求) 辰(明治元)正月 切紙 一通
- 459 杉田小兵衛届書(御会所御門御吟味所他破損付、急に御繕相成る様) 辰(明治元)三月 切紙 一通
- 460 田中市郎右衛門届書(京都無頭足軽彦兵衛・藤七病氣付、暇願) (明治元)閏四月廿六日 切紙 一通
- 461 某届書控(小畑久馬介 当日帰着) 明治元年閏四月廿九日 切紙 一通
- 462 御鉄砲足軽与助届書(沖探三付添として京都行のころ一日遅れ到着) (明治元)五月三日 切紙 一通
- 463 某届書控(森田勝藏東山道出張より帰着) (明治元)五月廿日 切紙 一通
- 464 松下奉行兵右衛門届書控(江戸より当地に引越、且那寺大隣寺に) 辰(明治元)五月 切紙 一通

- 465 定下奉行富之助届書(江戸より当地引越、且那寺慶安寺に) 辰(明治元)五月 切紙 二通
- 466 池谷周兵衛届書控(江戸御添屋敷御小屋番若吉、道中において退身) 辰(明治元)五月 切紙 二通
- 467 竹蔵御番人左一郎届書控(親佐々木庄左衛門が勘当した俸秀平の勘当差免申したい) 慶応四年七月十日 切紙 一通
- 468 小浪御番所届書(御用紙を御渡遣されるように) 辰(明治元)十月 切紙 一通
- 469 角田捨藏届書案(来ル十六日東京へ罷越す) (明治二)十二月十四日 切紙 一通
- 470 角田捨藏・田中農夫届書案(今晩到着) (明治二)十二月廿八日 切紙 一通
- 471 猪口恭太郎届書控(父猪口寛治 火災にて死亡) 大賀準太郎・山口篤藏宛 午(明治三)三月廿八日 切紙 一通
- 472 小沢善四郎届書(田中農夫より御飛脚頭動中の勘定引継) 庚午(明治三)閏十月 切紙 一通
- 473 田中農夫届書(御飛脚頭動中の勘定、小沢善四郎へ) 庚午(明治三)閏十月 切紙 三通
- 474 平井忠次郎届書(米子にて金五百両盗まれ、犯人見つかる) 鳥取県宛 明治八年十一月十二日 切紙 二通
- 475 角田捨藏届書案(用向にて御門外つかまつる) 正月十四日 切紙 一通
- 476 古田品蔵届書(西洋流砲術稽古のため例年の通物品渡される様) 正月 切紙 一通
- 477 古田品蔵届書(品々書上) 正月 切紙 一通
- 478 古田品蔵届書(西洋流砲術稽古のための物品、増二御渡しの願) 正月 切紙 一通
- 479 萩野準人届書(西洋流砲術稽古のための紙類相応の増御渡し願) 正月 切紙 一通
- 480 喜一郎届書(江戸への道中人足貨勘定書) 田中宛 正月 切紙 三通
- 481 松本惣次郎届書控(高田幸作江戸より東海道筋帰着) 二月九日 切紙 二通
- 482 御早道届書(道中入用銀の請求) 田中宛 二月十八日 切紙 一通
- 483 御早道届書(人足賃銀) 田中宛 二月十九日 切紙 一通
- 484 御早道届書(人足賃銀) 田中宛 二月廿日 切紙 一通
- 485 新国隊届書(淀江精明寺へ転陣二付登二百老豊必要) 二月 切紙 一通
- 486 福田浅之助届書(帰国届) 三月十一日 切紙 一通
- 487 某届書控(伴庄作不束の儀仕り、差控) 三月十二日 切紙 一通
- 488 松下奉行源次郎届書案(暇願) 三月十八日 切紙 一通
- 489 御早道届書 四月二日 切紙 三通
- 490 森嶋左平太届書控(伯母死去二付、忌服請申したく) 四月十五日 切紙 二通
- 491 杉田小兵衛届書(御台所板元、仮板元出来る) 四月十八日 切紙 一通
- 492 御早道届書(御用部屋より差出しの書状覚) 四月十八日 切紙 一通
- 493 職人守田久兵衛届書(家内、江戸より罷越す) 四月廿日 切紙 四通
- 494 某届書案(森嶋左平太忌服御免、守田久兵衛・福嶋屋音蔵江戸より帰着) 四月廿一日 切紙 一通
- 495 森嶋左平太届書(病氣快方二付、明廿四日京都へ出立申したい) 四月廿三日 切紙 一通
- 496 江戸浜町御屋敷御小屋番小林国蔵届書(当表へ引越し、最勝院旦那に) 四月 切紙 一通
- 497 杉田小兵衛届書(御台所内御焼方所の流損じ、修復願) 五月七日 切紙 一通
- 498 三宅忠太夫・森田門次郎届書(備前清泰院御修復御用相済、夜前帰着) 五月十五日 切紙 三通
- 499 某届書(岩倉村順三郎、博奕に付召捕の届) 五月十六日 切紙 二通
- 500 御小人奉行住山貫次郎届書控(河村那片柴村周助欠落の届) 五月廿四日 切紙 一通
- 501 杉田小兵衛届書(御台所御膳所御清候品置水流しに相成様) 五月廿四日 切紙 一通

502	某届書(田中民蔵申達の二件届出)	五月廿八日	切紙	一通	522	御小人奉行住山貫次郎届書(久米郡下古河村御小人藤兵衛欠落)	八月廿八日	切紙	一通
503	御小人奉行住山貫次郎届書控(車尾村助三郎番所へ差置、謹慎 さす)	五月晦日	切紙	一通	523	羽山範左衛門・曾我豊平届書(大坂出張に付、物品渡し請求)	九月二日	切紙	一通
504	御早道届書(東京までの必要金請求) 田中宛	五月	切紙	一通	524	御小人奉行住山貫次郎届書(気多郡今市村御小人又右衛門欠落)	九月三日	切紙	一通
505	森嶋左平太届書案(東京より二日夜帰着)	六月二日	切紙	一通	525	無頭拾九番組長次郎届書(奥州相馬より九月十日帰る)	九月十日	切紙	一通
506	届書(小沢善四郎京都より夜前罷帰ったことの届)	六月二日	切紙	一通	526	甚六届書(到着遅延の届)	九月十日	切紙	一通
507	届書(徴兵渡り御小人越後新潟で賊徒討取により賞金)	六月四日	切紙	一通	527	届書控(山本甚三郎、母死去二付、忌服受たき段)	九月十三日	切紙	一通
508	御早道部屋頭小藤太届書(駄賃銀御渡し願) 田中宛	六月五日	切紙	一通	528	沢口武之丞届書(拝領屋敷受取申候)	九月十八日	切紙	一通
509	杉田小兵衛届書控(尾州神主平野左近廿二日到着の届)	六月廿四日	切紙	一通	529	吉田佐太夫・岩越弥兵衛届書(大駁組御用稽古のための道具類 請求)	九月廿一日	切紙	一通
510	裏判所下作廻當之助届書控(京都表へ罷越したい) 六月廿四日	六月廿四日	切紙	一通	530	杉田小兵衛届書(御台所内模様替の願)	九月	切紙	一通
511	筆墨年番五藤源之進届書(筆墨類の勘定の猶予願) 六月廿八日	六月廿八日	切紙	一通	531	杉田小兵衛届書(尾州神主平野左京、明八日出立)	十月七日	切紙	一通
512	古田品蔵届書(御鉄砲小頭・足輕共取立二付、物品の増御渡し 願)	六月	切紙	一通	532	三宅重内届書(山本重三郎恐入の届)	十月七日	切紙	一通
513	荻野隼人届書(御鉄砲小頭・足輕取立二付、紙類の増請求)	六月	切紙	一通	533	届書案(山本重三郎裏判所新物に過不足を生じたことの届)	十月七日	切紙	一通
514	扇御殿数類下作廻山田平吉届書(引越願)	六月	切紙	一通	534	小沢善四郎届書(橋尾清太夫去月廿六日帰國、腹痛にて私を以 て届書)	十月十五日	切紙	一通
515	中本軍太夫届書(御鉄砲小頭・足輕取立二付、物品増二御渡し 願)	六月	切紙	一通	535	山川弥兵衛届書(御小人治平出奔の件)	十月十九日	切紙	一通
516	御部屋御用達届書(六磨様御出の節の道具類)	七月	切紙	一通	536	杉田小兵衛届書(御台所々壁障子破損二付、急二御繕)	十月廿五日	切紙	一通
517	五藤源之進届書控(小畑久馬介江戸表勤番中の御勘定代勘定に ついて)	七月	切紙	一通	537	尾崎武左衛門届書控(上京届)	十月廿九日	切紙	一通
518	届書控(小畑久馬介京都出張)	八月三日	切紙	一通	538	山川弥兵衛届書控(御小人吉三郎の盗みの届)	十一月朔日	切紙	一通
519	五藤源之進届書(田中市郎右衛門代勘定の願)	八月五日	切紙	一通	539	森田江次郎届書案(備前清泰院御修復御用として明三日出足)	十一月二日	切紙	一通
520	無頭二番組元治郎届書控(備前岡山へ飛脚仰付らる)	八月十五日	切紙	一通	540	御女中奉行届書(是迄御女中へ渡し置の品物を損じた時、引替・ 御繕等は行わない)	十一月	切紙	一通
521	届書控(住山貫次郎、高草郡長谷村御小人儀左衛門欠落の届)	八月十八日	切紙	一通					
541	刑分局田中局掌届書案(米子詰として罷越す)	十一月	切紙	一通	563	御早道平太届書(兵庫駅での被番所とのやりとりの届)	不明	切紙	一通
542	梅里与兵衛届書(京都より帰着届)	十二月八日	切紙	二通	564	老番手届書控(御加勢の節、差支二付途中で差返す)	不明	切紙	一通
543	在御山奉行届書(所替にとまう引越駄賃銀の事)	十二月十四日	切紙	二通	565	届書(五藤源之進御勘定代勘定御断りの届)	不明	切紙	一通
544	数類下作廻浅井鈴太郎届書(扇御殿数類下作廻山田平吉差控)	十二月十七日	切紙	一通	566	某届書(大砲隊に御用紙御渡し遣さる様)	不明	切紙	一通
545	杉田小兵衛届書(宝隆院様十五日式日に田中善太夫小豆を失念 し差控)	十二月十七日	切紙	一通	567	某届書(鉄砲足輕西洋流砲術取立二付、品々拝借の願)	不明	切紙	一通
546	届書控(竹蔵奉行重松久之丞御勘定暫時猶予)	十二月廿四日	切紙	一通	568	某届書(鉄砲小頭足輕に西洋流砲術取立二付、紙類増請求)	不明	切紙	一通
547	届書控(杉田小兵衛、会所御勘定暫時猶予の願)	十二月廿五日	切紙	一通	569	届書(京都市の人と駕籠数)	不明	切紙	一通
548	田中農夫掃藩関係届書	十二月切紙仮綴一級			570	届書案(立川三丁目源六盗みの届)	不明	切紙	一通
549	杉田小兵衛届書(御会所負の品々御勘定猶予の願)	十二月	切紙	一通	571	角田捨藏時計拝借覚書 裏判御役所宛	卯(慶応三)	切紙	一通
550	籍船様御用達届書(籍船様御用の紙請求)	十二月	切紙	一通	572	會計局願書写(昨巳年凶作二付、上納金猶予願)(明治三)	正月	切紙	二通
551	山川弥兵衛届書(御小人の格式・扶持について)	十二月	切紙	五通	573	鳥取藩嘆願書案(巡察使の願)	不明	切紙	二通
552	朝倉財藏他届書写(拝借地長屋の建直し)	十二月	切紙	一通	574	鳥取藩嘆願書案(鑄銭の願)	不明	切紙	一通
553	山下豊三郎他届書写(拝領屋敷建直しの事)	不明	切紙	一通	575	鳥取藩嘆願書案(現米四万石返納猶予願) 弁官宛	不明	切紙	一通
554	伊木安太夫届書(此以後御達は、御勘定御吟味役を以申上度)	不明	切紙	一通	576	鳥取藩嘆願書案(古銅器を百文銭に鑄直す願)	不明	切紙	二通
555	荻野隼人・吉田品蔵分支給品書上(炭・紙・木綿等)	不明	切紙	一通	577	某願書(物産の大坂廻しを致したき願)	不明	切紙	一通
556	荻野隼人覚書(必要物品書上)	不明	切紙	二通	578	(願書回答写)(東西一般の恐慌に付、救助の御沙汰及ばず)	不明	切紙	一通
557	扇数類下作廻小谷周治郎届書(高田幸作御役御免の旨、承る)	不明	切紙	一通	579	坂根駅宿役人源四郎外拝借米願書(近來諸色高直二て宿方一統 難渋に付) 因州御裏判御役所宛	慶応三年六月	切紙	一通
558	重松久之丞届書控(山川弥兵衛上小屋勘番中不束の儀、差控の 届)	不明	切紙	一通	580	坂根駅宿役人源四郎外拝借米願書(近來諸色高直二付、宿 場困窮二付) 因州鳥取御裏判御役所宛	慶応三年八月	切紙	一通
559	重松久之丞届書(御小人不足人数書上)	不明	切紙	一通	581	坂根駅宿役人源四郎外拝借米願書(近來諸色高直二付、馬・人 足質高騰二付) 因州御裏判御役所宛	慶応三年十月	切紙	一通
560	米原某届書案(太田真喜蔵謹慎中、行衛知れずとなったこと報 告)	不明	切紙	一通	582	某願書(江戸から帰国七日延着につき、その費用をくれるよう)	辰(明治元)	切紙	一通
561	増太郎届書(延着の次第届出)	不明	切紙	一通	583	用度方下作廻池谷圃一願書(履歴と苗字付御取立願) 明治二年	切紙	一通	
562	早道信之助・定下奉行啓助帰着届	不明	切紙	一通	584	某願書(無役次郎吉跡相立候えは宜しく願上奉る) 十月廿三日	切紙	一通	
					585	御役所内一願書(御役所安全のための祈禱願)	不明	切紙	一通

586 岡村嘉米太郎洋学書拝借願 不明 切紙 一通

587 丑ノ暮諸願書目録(格式御取立他) 伊良子為之進・角田捨藏 丑十二月 切紙 四通

588 寅ノ暮諸願書目録(格式御取立他) 角田捨藏・林善兵衛 寅十二月 切紙 四通

589 卯ノ暮諸願書目録(格式御取立他) 河崎半内 卯十二月 切紙 二通

590 辰年諸願書目録(格式御取立他) 林善兵衛・河崎半内 辰四月 切紙 四通

591 願書目録 不明 切紙 四通

592 某願書 不明 切紙 一通

593 岩井郡矢谷村高江村山論裁許願 慶応三年六月 切紙 一通

594 諸役人宿料銀御渡願控 (用状) 不明 切紙 一通

595 (田中幸六・幸介・農夫・俊民宛) 古田佐七用状(左の紙宛送る) 田中幸六宛 五月七日 切紙 一通

596 谷田愛之助用状(国許からの油紙包受取り) 田中幸六宛 五月十四日 切紙 一通

597 谷田愛之助用状 田中幸六宛 五月十四日 切紙 一通

598 田辺市右衛門・谷田愛之助用状(在所表への用状よろしく取斗のこと) 田中幸六宛 五月廿四日 切紙 一通

599 広田清紀用状(飛脚今便で届けたもの) 田中幸六宛 (慶応元) 閏五月七日 切紙 一通

600 谷田愛之助用状(月並飛脚なるだけ定日差出すこと) 田中幸六宛 (慶応元) 閏五月十五日 切紙 一通

601 田辺市右衛門・谷田愛之助用状(在所よりの油紙包) 田中幸六宛 (慶応元) 閏五月晦日 切紙 一通

602 田辺市右衛門・谷田愛之助用状(国許よりの用状受取) 田中幸六宛 六月廿四日 切紙 一通

603 喜田村百二・神山八一用状(山田尚右エ門よりの紙包京都送り) 坂本小一郎・田中幸六宛 十月廿二日 切紙 一通

604 高田昇一用状(旧井よりの送り荷の取斗依頼) 田中幸六宛 十月廿二日 切紙 一通

605 高田昇一用状(旧井よりの送り荷の取斗依頼) 田中幸六宛 十一月九日 切紙 一通

606 高田昇一用状(旧井よりの送り荷の取斗依頼) 田中幸六宛 十二月廿九日 切紙 一通

607 高田昇一用状(延引していた賃金の支払) 田中幸六・坂本小一郎宛 十二月三十日 切紙 一通

608 中村八郎兵衛・石野藤左衛門用状(鳥羽屋源七より歳暮の祝儀) 田中幸六宛 廿七日 切紙 一通

609 高田昇一用状(旧井氏よりの送り賃金の控送付依頼) 田中幸介宛 正月十八日 切紙 一通

610 西村晴太用状(御状箱を廻す) 田中幸介・坂本小一郎宛 二月廿四日 切紙 一通

611 尾崎丈市用状(先度差上げた品々の代金請求) 田中幸介宛 八月十日 切紙 一通

612 小仕置方用状(紙包今便にて送ることの取斗依頼) 田中幸介宛 八月十日 切紙 一通

613 奥到來御用状(田中武之進他三名境行二付宜しく取斗) 田中幸介宛 八月十日 切紙 一通

614 小畑幸之進用状(紙包送り賃金の事) 田中幸介宛 八月廿三日 切紙 一通

615 土師又右衛門用状(御銀札場不寝番政蔵、裏判所仕人へ場所替) 田中幸介宛 九月七日 切紙 一通

616 忠太夫用状(七雄鷹様御逝去二付、八日より十日迄諸事物静に) 田中幸介宛 九月九日 切紙 一通

617 扇御殿下吟味役用状(御用紙受取手形御廻し) 田中幸介宛 九月十七日 切紙 一通

618 小仕置方用状(今便にて紙包送る) 田中幸介宛 九月廿三日 切紙 一通

619 小仕置方用状(江戸廻し物賃銀支払の事) 田中幸介宛 十月七日 切紙 一通

620 小仕置方用状(紙包送りの取斗依頼) 田中幸介宛 十月十日 切紙 一通

621 尾崎丈市用状(渋紙御廻し) 田中幸介宛 十月十二日 切紙 一通

622 小仕置方用状(旧井より江戸廻しの賃金の支払) 田中幸介宛 十月十四日 切紙 一通

623 尾崎丈市用状(銀・横炭御廻し) 田中幸介宛 十月十四日 切紙 一通

624 小仕置方用状(油紙包送り依頼) 田中幸介宛 十月廿五日 切紙 一通

625 土橋小助用状(江戸への御廻金の事) 田中幸介・坂本小一郎宛 十一月廿七日 切紙 一通

626 高田昇一用状(油紙包二つ今便にて送り、取斗依頼) 田中幸介宛 十一月廿九日 切紙 一通

627 山口篤藏・梅里与兵衛用状(老岐殿出立の荷物の取作廻金の取斗依頼) 田中幸介宛 十二月朔日 切紙 二通

628 高田昇一用状(旧井よりの送り荷の取斗依頼) 田中幸介宛 十二月十一日 切紙 一通

629 高田昇一用状(紙包の金のこと) 田中幸介宛 十二月十六日 切紙 一通

630 佐々木幾三郎用状(贈金を御早道追加役幸次郎に渡してくれる様) 田中幸介宛 十二月十八日 切紙 一通

631 佐々木幾三郎用状(飛脚東京へ到着の報告) 田中幸介宛 十二月十九日 切紙 一通

632 佐々木幾三郎用状(物入状箱相廻す) 田中幸介宛 十二月十九日 切紙 一通

633 高田昇一用状(旧井氏より紙包、取斗依頼) 田中幸介宛 三月廿八日 切紙 一通

634 石谷嘉平次用状(例の病二付、今日出勤御断) 田中農夫宛 四月廿五日 切紙 一通

635 荒尾衛次用状(参局御礼) 田中農夫宛 十一月廿二日 切紙 一通

636 尾崎鉄治用状(本内御小屋へ御出勤遣さるべく) 田中農夫宛 十二月朔日 切紙 一通

637 作州用状 田中農夫宛 十二月三日 切紙 一通

638 参事用状(出序命令) 田中俊民宛 十月廿八日 切紙 一通

639 広田清紀用状(御用状巻封廻す) 御飛脚頭宛 五月廿四日 切紙 一通

640 御務部屋用状(山本左守備前への使者の節の人足賃銀取斗のこと) 御飛脚頭宛 十二月廿日 切紙 一通

641 早道道中入用荒増積高覚書 田中宛 三月八日 切紙 一通

642 田中幸介用状(油紙包を送る賃金) 高田昇一宛 十一月廿九日 切紙 一通

643 田中幸介用状(紙包送り賃金) 小畑幸之進宛 十二月三日 切紙 一通

644 池田兵庫介用状(討長に向う軍の武器不足について) 角田捨藏宛 (慶応二) 六月十日 切紙 一通

645 池田兵庫介用状(討長御人数への渡し金老カ月分操上) 角田捨藏宛 (慶応二) 六月十一日 切紙 一通

646 池田兵庫介用状(討長御人数への渡し金老カ月分操上) 角田捨藏宛 (慶応二) 六月十二日 切紙 一通

647 池田兵庫介用状(二番手御人数来ル廿日出足) 角田捨藏・河崎半内宛 (慶応二) 六月十二日 切紙 一通

648 石野豊太郎用状(老万五千両の繰出しの件) 角田少参事宛 (明治三) 正月五日 切紙 一通

649 杉浦権大参事以下五名連名用状(巡察使の願取り下げ) 杉浦・沖・河崎・伊丹・鶴殿 角田小参事宛 (明治三) 正月十八日 切紙 一通

650 高田采女用状(大振御状箱を廻す) 角田捨藏宛 (慶応元?) 三月廿七日 切紙 一通

651 河田八助・木村左馬次郎用状(昨年出勢の市夫の交代について) 角田捨藏宛 四月二日 切紙 一通

652 河田八助・木村左馬次郎用状(軍夫の交代の手はずと費用の工面について) 角田捨藏宛 四月二日 切紙 一通

653 伊庭肇・渋谷甚左衛門用状(御国表明石増之亟への手紙取斗依頼) 角田捨藏宛 四月三日 切紙 一通

- 654 十河丹治用状(御状箱廻す) 角田捨藏宛 四月十二日 切紙 一通
- 655 山下判事用状(急用二付、白木状箱返してくれるよう) 角田捨藏・河崎六之助宛 四月廿二日 切紙 一通
- 656 高田采女用状(御拝借御筒類の処置について) 角田捨藏宛 五月廿六日 切紙 一通
- 657 高田采女用状(御用状巻ソ御廻し) 角田捨藏宛 五月廿七日 切紙 一通
- 658 十河丹治用状(拝借の武器御筒類) 角田捨藏宛 五月晦日 切紙 二通
- 659 十河丹治用状(武器・筒類調書の不足分取調) 角田捨藏宛 六月十五日 切紙 三通
- 660 田中熊之亟・津村鉄之亟用状(左の通鉄砲返納) 角田捨藏宛 六月十九日 切紙 一通
- 661 十河丹治用状(御手船参着承知) 角田捨藏宛 九月十日 切紙 一通
- 662 山部隼太用状(御繕御入用不足二付、銀を廻すよう依頼) 角田捨藏宛 十月九日 切紙 一通
- 663 角田少参事用状案(明廿八日東京着) 林少主簿・藤岡権少主簿宛 (明治二) 十二月廿七日 切紙 一通
- 664 角田捨藏用状案(昨日東京表到着) 中川大主簿宛 (明治二) 十二月廿九日 切紙 一通
- 665 角田捨藏用状案(費用取調書について) 大主簿宛 (明治三) 正月五日 切紙 一通
- 666 角田用状案(御手船の件) 十河丹治宛 九月十日 切紙 二通
- 667 角田捨藏用状案(繰出しの金子について) 求宛 十二月十三日 切紙 一通
- 668 宮崎鉄馬用状(月次飛脚の件承知) 河崎六之助宛 (慶応元) 四月晦日 切紙 一通
- 669 洞龍之輔用状(御奉文使八人前一汁三菜明朝六半時までに用意) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月朔日 切紙 一通
- 670 十河丹治用状(月次御飛脚) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月三日 切紙 一通
- 671 白井備後用状(瑞徳院様式拾五回忌法事) 河崎六之助宛 五月十一日 切紙 一通
- 672 山下判事用状(封状他差出) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月十七日 切紙 一通
- 673 尹野屋五兵衛用状(飛脚今使は林善八よりの書状巻通) 中村宗兵衛・田湖武右衛門・河崎六之助宛 (慶応元) 五月十六日 切紙 一通
- 674 岸算七郎用状(白木状箱廻し) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月十七日 切紙 一通
- 675 羽原伝蔵用状(半舎の者共へ夏着物二つ遣さる) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿日 切紙 一通
- 676 宮崎鉄馬用状(御国への月次御飛脚) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿三日 切紙 一通
- 677 十河丹治用状(御国への月次御飛脚) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿四日 切紙 一通
- 678 宮崎鉄馬用状(御状箱相廻す) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿四日 切紙 一通
- 679 喜多村李用状(御国へ別封一通廻すことの依頼) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿四日 切紙 一通
- 680 十河丹治用状(御状箱御廻し) 河崎六之助宛 (慶応元) 五月廿四日 切紙 一通
- 681 十河丹治用状(御状箱御廻し) 河崎六之助宛 (慶応元) 閏五月七日 切紙 一通
- 682 洞龍之輔用状(飛脚に持たせたもの) 河崎六之助宛 (慶応元) 閏五月七日 切紙 一通
- 683 宮崎鉄馬用状(御用状箱相廻す) 河崎六之助宛 (慶応元) 閏五月七日 切紙 一通
- 684 宮崎鉄馬用状(御用状箱相廻す) 河崎六之助宛 (慶応元) 六月廿日 切紙 一通

- 685 十河丹治用状(御用状箱相廻す) 河崎六之助宛 (慶応元) 七月五日 切紙 一通
- 686 池田兵庫介用状(式番手御人数廿四日出発の事) 河崎半内宛 (慶応二) 六月十七日 切紙 一通
- 687 池田兵庫介用状(十九日式番手の面々へ軍令・法令) 河崎半内宛 (慶応二) 六月十七日 切紙 一通
- 688 池田兵庫介用状(式番手御人数来ル廿四日まで出発猶予) 河崎半内宛 (慶応二) 六月十九日 切紙 一通
- 689 池田兵庫介用状(乾小四郎廿二日出立) 河崎半内宛 (慶応二) 六月廿日 切紙 一通
- 690 池田兵庫介用状(田村図書以下討長の繰出し仰出らる) 河崎半内宛 (慶応二) 六月廿八日 切紙 一通
- 691 鶴殿主水介用状(松平右近將監御開城二付、嫡子・奥方此方へ引取) 河崎半内宛 (慶応二) 七月廿四日 切紙 一通
- 692 池田兵庫介用状(田中小源次長屋日雇藤兵衛娘ひさ、去ル七日夜大風雨の際、押流され死亡) 河崎半内宛 (慶応二) 八月十日 切紙 一通
- 693 荒尾但馬用状(浜田御家内様の御贈、廿三日より向方御自分仕立) 河崎半内宛 (慶応二) 九月廿二日 切紙 一通
- 694 鶴殿主水介用状(御一新・御元服の大札あり、大赦の実施について) 河崎半内宛 (明治元) 二月八日 切紙 一通
- 695 神戸源内用状(奉書等の形式の改め) 林善兵衛・河崎半内宛 (明治元) 閏四月十一日 切紙 一通
- 696 石田作平用状(上野戦死の無頭八番組藤次郎二褒美) 河崎半内宛 (明治元) 七月九日 切紙 一通
- 697 鶴殿主水介用状(明廿三日登城のこと) 河崎半内宛 二月廿二日 切紙 一通
- 698 鶴殿主水介用状(中川佐左衛門帰着まで同人触口支配請持) 河崎半内宛 二月廿五日 切紙 一通
- 699 伊藤助之進用状(中村鯛之亟裏判下吟味役仰付らる) 林善兵衛・河崎半内宛 五月三日 切紙 一通
- 700 河崎政之亟用状(御城内祈禱の事) 林善兵衛・河崎半内宛 五月十四日 切紙 一通
- 701 池田正親介用状(触事今迄切紙にて徒役を以仕出し候分、書付にして文箱に入れて) 河崎半内宛 五月廿九日 切紙 一通
- 702 山田孫兵衛用状(塩倉宇右衛門裏判所下吟味役仰付らる) 河崎半内・村上友之進宛 七月三日 切紙 一通
- 703 山田孫兵衛用状(山田孫兵衛、御目付役場御改正二付、刑法奉行) 河崎半内・村上友之進宛 七月十五日 切紙 一通
- 704 伊藤助之進用状(岡村亀蔵・大谷藤太、此度直衝隊組御履) 河崎半内・村上友之進宛 七月廿四日 切紙 一通
- 705 角田捨藏用状(田誠弥松平出羽守への使者の節の賄取斗依頼) 河崎半内宛 九月廿五日 切紙 一通
- 706 荒尾但馬用状(前田平一來月より呉服奉行紙奉行) 河崎半内宛 九月廿九日 切紙 一通
- 707 鶴殿主水介用状(公儀御見舞戸塚文海老今日到着につき、取斗のこと) 河崎半内宛 十一月八日 切紙 一通
- 708 荒尾千葉之助用状(荒木小右衛門呉服奉行任命に付) 河崎半内宛 十二月廿日 切紙 一通
- 709 源蔵用状(京都表への飛脚差出に付、取調書付差出す事) 河崎半内宛 不明 切紙 一通
- 710 河崎半内用状(銀不足に付、なるたけ當繕見合せるよう) 山部隼太宛 十月十八日 切紙 一通
- 711 池田兵庫介用状(臨時他國へ出張の節の心得を触れること) 木村左馬次郎宛 (慶応二) 六月五日 切紙 二通
- 712 池田兵庫介用状(武器役所より武器請取出張之事) 木村左馬次郎宛 (慶応二) 六月六日 切紙 一通

713 荒尾駿河用状写(参勤街道御調の雛形、稲葉美濃守殿衆より廻  
達) 荒尾近江・鶴殿主水介・池田正親介・荒尾千葉之助  
宛 六月五日 切紙 一通

714 十河丹治用状(国元への荷物、御手船で) 岡野祿之丞宛 六月廿四日 切紙 一通

715 田畑征五用状(荷物送りの取斗依頼) 坂本小一郎宛十一月八日 切紙 一通

716 高田昇一用状(今便にて銀入紙包他江戸へ送る) 坂本小一郎宛 十月九日 切紙 一通

717 某用状案(御拝借御筒の件) 高田采女宛 六月三日 切紙 三通

718 荒尾近江用状写(京都守衛のため派兵の藩士の袖印・軍装につ  
いて) 中川佐左衛門宛 二月十四日 切紙 一通

719 鈴木萬之助用状(三倉九兵衛六歳への達の有無に対する回答)  
中村源兵衛宛 十月四日 切紙 一通

720 羽原伝蔵用状(御日記手入御用のため樟腦他差出す様) 中村宗  
兵衛宛 四月廿九日 切紙 一通

721 十河丹治用状(月並飛脚) 中村宗兵衛宛 五月十一日 切紙 一通

722 高田采女用状(月並飛脚) 中村宗兵衛宛 五月十一日 切紙 一通

723 洞龍之輔用状(左の通廻し、御国表へ相達す) 中村宗兵衛宛 五月十三日 切紙 一通

724 外山勇用状(左の通廻し、御国表へ相達す) 中村宗兵衛宛 五月十三日 切紙 一通

725 羽原伝蔵用状(空舎の者共へ左の通達せらる) 中村宗兵衛宛 五月十四日 切紙 一通

726 十河丹治用状(御国への御状箱) 中村宗兵衛宛 五月十六日 切紙 一通

727 小林左太郎用状(倉吉帰着に付、御用談出席下さるよう) 村岸  
才一・山口篤蔵宛 四月十九日 切紙 一通

728 (御上京入用品用意依頼) 藤岡兵太・山川弥兵衛宛 七月廿日 切紙 一通

729 (御上京入用品請取覚) 藤岡兵太 七月廿四日 切紙 一通

730 岡田幸之進用状(飛脚差出し、左の兩人へ申付) 横井庄太夫宛 四月十九日 切紙 一通

731 牧谷御番所用状(物品の請求) 十二月廿五日 切紙 一通

732 小浪御番士用状写(御用紙渡し催促) 巳(明治二)三月 切紙 一通

733 鳥取藩刑法局少参事用状控(但州美含郡下ノ浜村藤助、鳥取で  
盗みのため引き渡しの手続) 久美浜県宛 十二月 切紙 一通

734 判事補用状 聴訟課宛 不明 切紙 一通

735 副獄司海老沢某用状 断獄係宛 不明 切紙 三通

736 某用状案(拝借の武器筒類調書に欠けている品) 十河丹治宛 六月四日 切紙 一通

737 某用状(駄通御役所よりの達の回答) 不明 切紙 一通

738 用状下書 切紙 十通

739 用状下書級 (受取状) 十一月切紙復綴一綴

740 田中幸六・三宅忠次郎品々受取状 御張作廻池谷周兵衛宛 子(元治元)五月 一紙 三通

741 田中幸六用紙類受取状 御算用場宛 丑(慶応元) 切紙 一括

742 田中幸介受取状(京都への早道御使者の付添諸賄金) 田賀此右  
衛門宛 卯(慶応三)十二月 切紙 二通

743 田中幸介受取状(河毛文蔵・杉山定之進上京付添諸賄金) 田賀  
此右衛門宛 七月十四日 切紙 一通

744 田中農夫受取状(小羊毫一本・晋唐小楷一本受取) 庚午(明治三)閏十月廿九日 切紙 一通

745 小監察田中農夫人足受取状 江北庄屋・松神庄屋宛 午(明治三)十一月 切紙 四通

746 田中農夫銀子受取状(米子詰雑用銀) 午(明治三)十一月 切紙 一通

747 伊藤平太夫・森本惣藏年頭御礼銀受取状 田中幸介宛 明治元年九月 切紙 一通

748 野村善七郎金子受取状 田中俊民宛 正月廿六日 切紙 一通

749 横田弥兵衛代金受取状 田中宛 二月 切紙 一通

750 御早道増次郎道中所用銀精算書 田中宛 四月六日 切紙 二通

751 呉服蔵宛受取状一括 慶応元年 一紙 一括

752 定下奉行定吉受取状(当暮御支配金として) 森勝蔵宛 寅(慶応二)十二月 切紙 一通

753 定下奉行啓助受取状(当暮御支配金として) 森勝蔵宛 卯(慶応三)四月十二日 切紙 一通

754 坂本小一郎金箔受取状 山田平三郎・伊丹栄宛 辰(明治元)閏四月 切紙 二通

755 米屋宇三郎受取状(渋紙包銀入) 尾崎宛 辰(明治元)十月十三日 切紙 一通

756 徳屋清次郎木綿代銀受取状(江戸廻り御用として青谷木綿) 子十二月 切紙 一通

757 早道文吉精算書(受取高から所用賃金を引いた残り上納) 午四月 切紙 一通

758 中屋三郎左衛門代金受取状 八月廿七日 切紙 一通

759 松岡源三郎金銭受取証 黒河宛 八月廿七日 切紙 一通

760 早道紙包受取覚 七月 切紙 一通

761 早道道中所用銀精算書 不明 切紙 一通

762 早道代金請求書 不明 切紙 一通

763 三度賃銭(京都・大坂へ飛脚で金を送る際の手数料) 不明 切紙 一通

764 某受取状(荻野流の分として御小人・古木綿等) 不明 切紙 一通

765 某受取状控(郷中巡察人用として) 不明 切紙 一通

766 金子渡し状 不明 切紙 一括

767 金子渡手形一括 不明 切紙 一括

768 白木屋代金受取状 田中幸六宛 丑(慶応元) 切紙 二通

769 ぬし屋蓋口寛書(御切手四俵差上) 卯五月廿三日 切紙 一通

770 八百屋清吉代金受取状(太政官日誌等の代金) 田中宛 巳(明治二)正月 切紙 四通

771 八百屋清吉代金受取状(太政官日誌等の代金) 田中宛 巳(明治二)六月 切紙 一通

772 書籍代金書上 切紙 一通

773 東海道各宿旅籠代受取状(静岡宿万屋清三郎他) 巳(明治二)十二月 切紙 九通

774 料理代等代金受取状(東京にて福寿美等) 田中宛 午(明治三)正・二月 切紙 八通

775 宿泊・料理代等受取状(兵庫にてあかしや他) 十一月 切紙 九通

776 いせ屋文吉代金受取状(櫛の代金) 二月八日 切紙 一通

777 伊勢屋茂吉代金領収書 切紙 一通

778 糸屋半次郎下緒代金領収書 矢部宛 六月五日 切紙 一通

779 岩せ屋豊吉剃刀代金受取状 二月八日 切紙 一通

780 魚仙領収書(料理代) 田中宛 七月二日 切紙 二通

781 草津和太屋嘉兵衛受取状 十二月十六日 切紙 一通

782 新松本代金領収書 田中他五名宛 十二月十六日 切紙 四通

783 銭屋代金受取状(書籍代) 角田宛 切紙 一通

784 とらや太兵衛代金領収書 田中幸六宛 十二月 切紙 一通

785 とらや卯衛代金受取状 田中宛 切紙 三通

786 はり十覚書(芸者代金) 明石屋宛 十一月十日 切紙 一通

787 三俄代金請求書(芸者等) 田中宛 十二月 切紙 三通

788 山さき代金請求書(芸者代等) 十一月廿八日 切紙 二通

789 山城屋政吉請取状 田中宛 七月十八日 切紙 二通

790 山形屋喜兵衛他銀子受取状 田中宛 假綴 一綴

791 江戸芝明神前大和屋惣兵衛黒綿代受取状 正月四日 切紙 一通

792 若狭屋伊衛代金受取状 田中宛 二月 切紙 二通

793 店代金受取状 十一月晦日 切紙 一通

794 置屋大坂屋和吉遊び假段 切紙 一通

795 置屋芸子代金書上 切紙 三通

796 代金領収書一括 切紙 二七通

797	割勘定計算書 田中宛 (建白草稿)		切紙 五通
798	建白草稿(衣服・食事・家中変宅・家作、表札等のこと)	慶応四年三月廿六日	切紙 七通
799	建白草稿(他国河原非人取締のため両髪をそること)	慶応四年四月十二日	切紙 一通
800	建白草稿(御家中融通のため簡略場取建の事・家中退身の事)	慶応四年四月十三日	切紙 二通
801	建白草稿(若核・米子・倉吉御目付を御目見役場に仰付る)	慶応四年四月廿五日	切紙 一通
802	建白草稿(五方所出張御目付、町目付次二仰付候事)	慶応四年四月廿五日	切紙 一通
803	建白草稿(死刑を徒刑とし墨刑とすること等)	慶応四年四月廿五日	切紙 一通
804	町御目付願書草稿(衣服改正ではあるが平常衣服は無地紺木綿等として)	慶応四年四月	切紙 二通
805	建白草稿(在町出火非凶事の節、口書差出すこと)	慶応四年閏四月十四日	切紙 一通
806	建白草稿(儉約・追放人・家中家絶の処置他)	慶応四年閏四月十七日	切紙 十通
807	建白草稿(在中において変死人がでた場合のこと)	慶応四年閏四月廿一日	切紙 四通
808	建白草稿(根帳付の者と帳外の者の喧嘩取捌他)	慶応四年閏四月廿九日	切紙 六通
809	建白草稿(商人に免札・儉約について)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 二通
810	建白草稿(家中の罪人で子息に罪のない場合は家名相続を)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 二通
811	建白草稿(問者について)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 一通
812	建白草稿(不融通のため、質物を円滑に進める)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 一通
813	建白草稿(ぜいたく品禁止・ぜいたく品売買等について)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 五通
814	建白草稿(宗門改めの廃止等、御目付手関係)	辰(慶応四) 閏四月	切紙 一通
815	建白草稿(浪人・虚無僧取締り)		切紙 六通
816	建白草稿(衣服・葬式等の簡略化)		切紙 一通
817	建白草稿(商売について、正直段をつけること他) 信篤		切紙 一通
818	建白草稿(根帳付の者と無宿追放者の喧嘩の際には両成敗にしない)		切紙 一通
819	建白草稿(米子・倉吉揚り屋人候者共の口書の写しを近江・町目付へ廻さない)		切紙 一通
820	建白草稿(科人吟味手数省略・職人の規律等)		切紙 一通
821	建白草稿(御一新二付、大赦を)		切紙 一通
822	建白草稿(物価・衣服等のこと) 武久		切紙 一通
823	建白草稿(物価・割木炭売買、道徳に関して) 武久		切紙 一通
824	建白草稿(儉約のため難儀他無益の物の売買停止)		切紙 二通
825	建白草稿(火事・姓名・ぜいたく・鐘・酒等)		切紙 一通
826	建白草稿(家中儉約のこと他)		切紙 一通
827	建白草稿		切紙 一通
828	建白草稿(寺の畳の修葺等)		切紙 二通
829	杉平也建白(才木類抜ケ売について)		切紙 一通
830	某建白(拝領屋敷地差上の件二付)		切紙 一通
831	御為筋建白袋 (その他)		袋 一袋
832	御礼席之次第 桂氏	文化六年六月	横半帳 一冊
833	御礼席 田中	文政九年四月	横半帳 一冊
834	公私手控 田中	天保十五年十一月	横半帳 一冊
835	日用略記 田中	文久四年正月	横半帳 一冊
836	備忘録 田中	元治元年七月	横半帳 一冊
837	備忘録(後欠) 田中俊民	庚午(明治三)	十一月十九日 横半帳 一冊

刑 法 局

838	[明治初年鳥取藩職制人名表]		一紙 一枚
839	[施政局他職制階表]		一紙 一枚
840	矢谷村使口之覚(高江村との山論に付)	慶応三年六月	切紙 一通
841	米問屋願書	巳(明治二) 九月	切紙 一通
842	[御式台序列]		切紙 一通
843	[年頭御札の順序]		切紙 一通
844	[御小人居役御定]	嘉永四年十二月	切紙 一通
845	[御紙奉行勘定帳書損事項引継]	安政元年六月	切紙 一通
846	[才木・割木入用高書上]	慶応元年	切紙 一通
847	[家中拝借証文雛形] 岡野佐兵衛宛	慶応三年三月	切紙 一通
848	[辰ノ暮心付銀給付控]	辰(明治元) 十二月	切紙 一通
849	[卯年暮諸役料書上]		切紙 四通
850	[畳納方直段覚書]	万延二年より	切紙 二通
851	[畳表替え直段覚書]		切紙 一通
852	[諸物品代金書上]		切紙 二通
853	[年始御祝詞] 機務懸家令宛	正月五日	切紙 一通
854	[御入用衣類値段書上]		切紙 一通
855	[御入用衣類値段書上]		切紙 一通
856	[奥目付付へ御渡紙之覚]		切紙 一通
857	[諸入用品書上] (中本軍大夫・古田品蔵・荻野隼人分)		切紙 一通
858	[米子倉吉交代役人書上]		切紙 二通
859	[中本軍大夫取立御鉄砲小頭足軽人数書]		切紙 一通
860	[大雲院・龍峯寺修葺料書上]		切紙 一通
861	[中将様他御出御用同行人書上]		切紙 一通
862	[支給品書上] (炭・紙類)		切紙 一通
863	[近那村々松割木値段調べ]		切紙 二通
864	[在御番所御用紙書上]		切紙 一通
865	雑		切紙 六九通
866	刑法局判決案(卒吉村元蔵、家族邑吉諸寄贖銭札に関して)	五月四日	切紙 一通
867	刑法局判決案(正恒台内弟子山本幹雄、諸寄贖銭札作りの件)	五月四日	切紙 一通
868	刑法局判決案(卒四番 中嶋周蔵 弟平井莢、諸寄贖銭札の件)	五月四日	切紙 一通
869	刑法局判決案(卒二番 正木平次郎、養育の兄猪口友仙の在入願不束二付謹慎)	五月七日	切紙 一通
870	刑法局判決案(早道南部恒次郎 お渡しの印鑑盗まれ、届出もなく不束であるが、慎免せられる)	五月十五日	切紙 一通
871	刑法局判決案(士族塩見晋、遙拝の節 病氣御断の儀失念二付 謹慎)	五月十五日	切紙 一通
872	刑法局判決案(南條誠治、京都公用方において不束あり)	五月十五日	切紙 一通
873	刑法局判決案(卒五番 山田清五郎、出勤いたさず、不届二付 謹慎)	五月十五日	切紙 一通
874	刑法局判決案(卒三番 藤田外衛 伴泰摩、古海村むめの父を打擲)	五月十五日	切紙 一通
875	刑法局判決案(荒尾藤、浅田惣吾の頼を受けながら届方失念のため謹慎)	五月十七日	切紙 一通
876	刑法局判決案(士族浅賀丈男、叔父忠治出奔二付、謹慎)	五月廿二日	切紙 一通
877	刑法局判決案(刑法局による不埒の士族に対する判決の知事への伺)	五月廿三日	仮綴 六枚
878	刑法局判決案(岩井郡大羽根尾村とも、禁獄日数満期のため所返し)	(明治四年) 五月廿四日	切紙 一通

879	刑罰小使高田善吉、御用状落失二付、謹慎	五月廿四日	切紙	一通	900	前川嘉吉・山尾豊三郎前科記録	不明	切紙	一通
880	刑罰小使高田善吉、御用状落失、 余儀なき場合なので差控を免する	五月廿四日	切紙	一通	901	窃盗口書	不明	切紙	一通
881	刑罰小使高田善吉、御用状落失、 余儀なき場合なので差控を免する	(明治四年)五月廿五日	切紙	一通	902	岩本金五郎口書(御用状御用書物等請取役病気で差支)	不明	切紙	一通
882	刑罰小使高田善吉、御用状落失、 余儀なき場合なので差控を免する	(明治四年)五月廿七日	切紙	一通	903	〔犯罪に関する法令〕	明治二年正月四月	切紙	一通
883	刑罰小使高田善吉、御用状落失、 余儀なき場合なので差控を免する	五月廿九日	切紙	一通	904	〔民政局・刑罰局発令の法令〕	(明治三)年二月六日、五月廿九日	切紙	一通
884	谷口梅宇・渡辺兵吉への判決案	五月晦日	切紙	一通	905	刑罰小使高田善吉、御用状落失、 余儀なき場合なので差控を免する	二月五日	切紙	一通
885	午五月刑罰局御用番書類下書綴(盗・行倒れ・異宗門関係)	不明	切紙	一通	906	糾問人別(未九月廿三日出火の事)	未(明治四)九月廿四日	切紙	一通
886	口書文案(犯罪人の届の雛形)	午(明治三)五月	切紙	一通	907	〔司法省指令等〕	明治七年	切紙	一通
887	八東郡東村勇次郎取調書	七月	切紙	一通	908	刑事課田中通知 警察局宛	七月廿四日	切紙	一通
888	民政局御書(八東郡東村勇次郎一件に付、処置の伺)	不明	切紙	一通	909	河崎・村山・津田判事指示書(出火逃亡の口書結果の取扱いの 変更) 河崎十四等・村山十三等・津田権少尉口田中中属 宛	七月廿四日	切紙	一通
889	八東郡東村勇次郎口書(勇次郎盗みの次第)	七月廿六日	切紙	一通	910	富興行取締原則 刑事係	不明	切紙	一通
890	練兵塾七番小隊卒 高田友蔵取調書(博奕)	午九月	切紙	一通	911	改正七草(久米那ノ紛訟についての法)	不明	切紙	一通
891	気多郡西鹿奴廣三郎取調書(盗み)	九月十日	切紙	一通	912	〔地券証の詐取・質入等に関する条例案〕	不明	切紙	一通
892	中村蘇平取調書(にせ札作り)	十月廿四日	切紙	一通	913	他県盗賊送り状雛形	不明	切紙	一通
893	倉吉東中町熊蔵取調書(熊蔵盗みの取調)	不明	切紙	一通	914	虚無僧居所書上写 因伯虚無僧取締役隠岐平兵衛	不明	切紙	一通
894	法美郡上荒船村嘉平取調書(博奕にかかりなし)	不明	切紙	一通	915	〔盗物定価〕	不明	切紙	一通
895	士族景山桂取調書(攘夷の陰謀に関係)	不明	切紙	一通	916	〔御米屋宿米四郎牛を食す事〕	不明	切紙	一通
896	安場且蔵妻調書(夫の死後のこと)	不明	切紙	一通	917	〔備中国矢部村浅吉居所(博覧会ノ賊浅吉の行方調査)〕	不明	切紙	一通
897	庄司茂平他窃盗口書	不明	切紙	一通	918	矢谷村山論口上書(岩井郡矢谷村と高江村との山論につき矢谷 村の口上書) 矢谷村	不明	切紙	一通
898	岩井郡岩井宿龜龜田虎蔵他口書	不明	切紙	一通	919	新品治町佐治屋治三郎伴目安状案(景福寺後住の件ニ付不正有 り)	慶応三卯年六月	切紙	一通
899	岡田文三郎賊物書上	不明	切紙	一通	920	雑(刑事係関係)	不明	切紙	一通

IV 社 会

922	東照宮御勸請御幸御行列之次第	横半帳	一册	945	洪水記(明治四年五月十九日洪水覚書)	冊子	一册		
923	〔東照宮御勸請御幸御行列之次第〕	横半帳	一册	946	〔大御目付中より御達書上杉弾正大弼様衆より持廻り廻状写〕	冊子	一册		
924	〔天子の御事並ニ禁中の故実〕小林写	文化十一年七月	横半帳	一册	947	天朝公迎御建白書之写	開八月廿三日	横半帳	一册
925	撰書抄(宮中用語の解説)	文政五年七月写	横半帳	一册	948	〔江戸城芙蓉之間にて仰出らる趣写〕	戊辰	横半帳	一册
926	撰書抄(有職故実) 中村権之進写	文政五年九月	横半帳	一册	949	〔京都情勢書抜〕	十一月	横半帳	一册
927	秘録(田沼意知殺害一件)	天保二年八月写	冊子	一册	950	〔大小神社氏子取調規則〕 太政官	辛未七月刊	冊子	一册
928	名和神君碑銘 箕浦徳胤撰	天保六年八月	冊子	一册	951	崎陽茶話・邪教始末(天主教について)	不明	冊子	一册
929	会津要書録	天保十三年三月刊	冊子	一册	952	〔日本人ノ外国人暗殺ノ論〕	不明	冊子	一册
930	水府追鳥狩御次第見聞覚書写 小畑松太郎写	天保十五年三月二十二日	冊子	一册	953	〔張紙写〕(寅の御門外御勘定屋敷裏門前に張られた攘夷論)	不明	冊子	一册
931	泰平鑑	嘉永七年正月刊	冊子	一册	954	安民濟世の士	文久二年十月十日	切紙	一通
932	河村郡長瀬村文太と申者異国へ漂流一条申口聞取書 村瀬弥兵衛	嘉永七年十一月	横半帳	一册	955	〔京都来状写〕(長州追討令)	元治元年七月	切紙	一通
933	安政元年御家中、在中共都而被仰出控 橋尾元則	安政元年	横半帳	一册	956	〔小笠原友之丞他三名連名書状写〕(禁門の変の報告) 佐久間 幡五郎他五名宛	元治元年七月廿日	切紙	一通
934	〔安政五年御軍式御改諸家被仰渡御書付写他〕	安政五年八月七日	冊子	一册	957	〔長州追討令写〕	元治元年七月廿三日	切紙	一通
935	随聞隨記(風聞の記録)	安政五年	冊子	一册	958	〔高橋清八郎書状写〕(禁門の変の報告) 御世話役中・御同僚 中宛	元治元年七月廿六日	切紙	一通
936	〔筑前浪士献策〕平野二郎国臣	文久二年四月八日	冊子	一册	959	〔合衆国水師提督宛毛利大膳大夫書状写〕(下関戦争)	元治元年八月九日	切紙	一通
937	〔文久二年四月到来の書状写〕	文久二年	冊子	一册	960	〔京都来状写〕(戸田采女正家来書状他)	元治元年十二月	切紙	一通
938	農兵諭告 菊池海荘著	文久二年七月	冊子	一册	961	〔京都来状写〕(加賀中納言宛武田伊賀守書状)	元治元年十二月	切紙	一通
939	御内勅写	文久二年十一月	冊子	一册	962	〔池田慶徳和歌写〕(第一次長州戦争の際、田後村で詠む)	元治元年十二月	切紙	一通
940	〔池田慶徳上表他攘夷関係通達写〕	元治元年七月廿四日	冊子	一册	963	〔長州征伐関係通達書写〕	切紙	一通	
941	〔甲州玄法寺住職長防人込見聞記写〕	慶応元年七月	横帳	一册	964	〔禁門の変後の処置〕	切紙	一通	
942	西本願寺御家来西村芳三郎長防人込探索之書取写し	慶応元年九月	横帳	一册	965	〔長州追討中止令写他〕	元治二年	切紙	一通
943	貨幣取調書 太政官	慶応四年閏四月刊	冊子	一册	966	〔將軍進発関係通達書写〕	慶応元年四月	切紙	一通
944	奥州征討所々戦争死傷名前写	慶応四年七月より	横帳	一册	967	〔第二次長州戦争関係幕府御渡書写〕	慶応元年八月	切紙	一通

968	〔西園寺公望書状写〕(末藩家督出願の儀付) 荒尾近江宛	二月廿七日	切紙一通	994	京都大火場所附(瓦版)	一紙一枚
967	〔辰二月廿八日京三条大橋西詰南側正張紙写〕(薩賊への批難)	辰(明治元)	切紙一通	995	軍令條 田中俊民	横半帳一冊
970	〔宮原大輔・西村清五郎日光路探察報告〕 辰(明治元) 四月	切紙一通				
971	〔早御使者四宮要助付添金藏の持ちたる書状の荒増〕	(明治元) 閏四月廿日	切紙一通			
972	〔御触写〕	辰(明治元)	切紙一通			
973	〔河田佐久馬報告書写〕(配下山国隊の戦斗)	辰(明治元)	冊子一冊			
974	〔藩政関係日記〕	明治二年正月二月	切紙一通			
975	〔池田慶徳嘆願書写〕(凶作付押借願) 弁官宛	明治二年九月	切紙一通			
976	〔彦根藩則写〕	明治三年五月十二日	切紙一通			
977	〔縣庁より触置廻し通知〕	十月十四日	切紙一通			
978	〔諸通達写〕(太政官・民政局より)		切紙一通			
979	〔太政官通達〕(当年氣候不順に付、賞典の下賜の仕方)	十二月	切紙一通			
980	〔幕府達書写〕		切紙一通			
981	〔行政官通達書写〕		切紙一通			
982	〔前米国大統領格蘭多(グラント)上奏文写〕		切紙一通			
983	〔甲州勝沼宿より差越候来書写〕		切紙一通			
984	〔士族身分に関する報告書写〕		切紙一通			
985	〔某建白案〕(久米郡事件による条例改正の件)		切紙一通			
986	〔大名書上〕(存続の大名の名)		切紙一通			
987	〔當時横濱見聞〕		切紙一通			
988	〔周防長州大主毛利宰相事〕		切紙一通			
989	〔浮浪一件〕(大平山一揆)		切紙一通			
990	〔神有無ノ論ニ答〕	四月十四日	切紙一通			
991	〔落首連歌〕		切紙一通			
992	〔佐賀の乱主謀者辞世歌〕		切紙一通			
993	〔明治政府風刺書〕		切紙一通			

V 家・書状

(田中幸六・幸介・農夫・俊民書状)

996	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 四月十六日	切紙一通			
997	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 五月五日	切紙一通			
998	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 五月十二日	切紙一通			
999	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 五月廿日	切紙一通			
1000	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 五月廿七日	切紙一通			
1001	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 五月晦日	切紙一通			
1002	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 六月十五日	切紙一通			
1003	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 六月廿八日	切紙一通			
1004	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 七月六日	切紙一通			
1005	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 七月十三日	切紙一通			
1006	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 七月廿七日	切紙一通			
1007	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 八月六日	切紙一通			
1008	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 八月十四日	切紙一通			
1009	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 八月廿一日	切紙一通			
1010	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 八月廿八日	切紙一通			
1011	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 九月二日	切紙一通			
1012	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 九月十六日	切紙一通			
1013	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 十月八日	切紙一通			
1014	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 十月十八日	切紙一通			
1015	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 十一月十一日	切紙一通			
1016	田中幸六書状 妻幾宛	(元治元年) 十二月廿八日	切紙一通			
1017	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 二月六日	切紙一通			
1018	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 二月十六日	切紙一通			

1019	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 二月廿八日	切紙一通	1048	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 二月七日	切紙一通
1020	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 三月十七日	切紙一通	1049	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 二月廿四日	切紙一通
1021	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 三月廿五日	切紙一通	1050	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 三月十日	切紙一通
1022	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 四月三日	切紙一通	1051	田中幸六書状 妻幾宛	二月廿九日	切紙一通
1023	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 四月五日	切紙一通	1052	田中幸六書状 妻幾宛	五月廿八日	切紙一通
1024	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 四月十八日	切紙一通	1053	田中幸六書状 妻幾宛	六月十日	切紙一通
1025	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 四月廿一日	切紙一通	1054	田中幸六書状 妻幾宛	九月十七日	切紙一通
1026	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 五月七日	切紙一通	1055	田中幸六書状 妻幾宛	十月廿九日	切紙一通
1027	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 五月十七日	切紙一通	1056	田中幸六書状 妻幾宛	十一月七日	切紙一通
1028	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 五月廿四日	切紙一通	1057	田中幸六書状 妻幾宛	十一月廿二日	切紙一通
1029	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 閏五月七日	切紙一通	1058	田中幸六書状 妻幾宛	十一月廿五日	切紙一通
1030	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 閏五月廿日	切紙一通	1059	田中幸六書状 妻幾宛	十二月五日	切紙一通
1031	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 六月五日	切紙一通	1060	田中幸六書状 妻幾宛	十二月十五日	切紙一通
1032	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 六月廿日	切紙一通	1061	田中幸六書状 妻幾宛	十二月十四日	切紙一通
1033	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 七月五日	切紙一通	1062	田中幸六書状 妻幾宛	十二月十六日	切紙一通
1034	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 七月廿二日	切紙一通	1063	田中幸六書状 妻幾宛	(明治三) 正月廿七日	切紙一通
1035	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 八月七日	切紙一通	1064	田中幸六書状 妻幾宛	包紙一括	
1036	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 八月十六日	切紙一通	1065	田中幸六書状(番所通券の返進) 伝三郎宛	九月七日	切紙一通
1037	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 八月廿二日	切紙一通	1066	田中幸介書状(御作事定下奉行幸作の宗旨について) 宮崎安右	十一月二日	切紙一通
1038	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 九月七日	切紙一通	1067	(田中) 農夫書状(先年押借の年賦銀返済) 清衛宛	十月廿八日	切紙一通
1039	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 九月十六日	切紙一通	1068	田中農夫書状(白中濃紙巻束の値段の照介) 小沢善四郎宛	五月七日	切紙一通
1040	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 九月廿二日	切紙一通	1069	田中農夫書状(角田氏に御渡しの鉄砲足輕周次郎を格別に取斗	十一月三日	切紙一通
1041	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 十月十日	切紙一通		うよう依頼) 嶋田幸右衛門宛	明治二年十二月	切紙一通
1042	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応元年) 十月廿日	切紙一通		田中農夫吹聴状案(小監察仰付らる)	明治三年九月廿八日	切紙一通
1043	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 正月五日	切紙一通		田中農夫吹聴状案(一代士族仰付らる)		切紙一通
1044	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 正月七日	切紙一通				
1045	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 正月廿二日	切紙一通				
1046	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 正月廿五日	切紙一通				
1047	田中幸六書状 妻幾宛	(慶応二年) 正月廿五日	切紙一通				



〔吹聴廻り順番〕

1073 田中幾書狀包紙 切紙 一通

1074 田中俊民書狀 田賀保忠宛 二月廿六日 切紙 一通

1075 田中俊民書狀 (山根金造逃走の始末取調書の件) 海老沢康・世良知信宛 九月四日 切紙 一通

1076 田中俊民書狀 森田幹宛 (田中幸六・幸介・農夫・俊民宛書狀) 十一月八日 切紙 一通

1077 田中幾書狀 田中幸六宛 (元治元年) 九月廿二日 切紙 一通

1078 田中幾書狀 田中幸六宛 (慶応元年) 二月廿八日 切紙 一通

1079 田中幾書狀 田中幸六宛 (慶応二年) 三月廿三日 切紙 一通

1080 田中幾書狀 田中幸六宛 十月十七日 切紙 一通

1081 田中幾書狀 田中幸六宛 十二月廿八日 切紙 一通

1082 田中幾書狀 田中幸六宛 五月十一日 切紙 一通

1083 田中幾書狀 田中幸六宛 八月九日 切紙 一通

1084 田中幾書狀 田中農夫宛 十二月朔日 切紙 一通

1085 田中幾書狀 田中農夫宛 十二月十七日 切紙 一通

1086 田中幾書狀 田中農夫宛 十二月廿六日 切紙 一通

1087 田中幾書狀 田中農夫宛 正月五日 切紙 一通

1088 田中幾書狀 田中農夫宛 正月十日 切紙 一通

1089 田中幾書狀 田中農夫宛 正月十七日 切紙 一通

1090 田中幾書狀 田中農夫宛 正月廿八日 切紙 一通

1091 田中幾書狀 田中農夫宛 二月六日 切紙 一通

1092 田中幾書狀 田中農夫宛 二月七日 切紙 一通

1093 田中幾書狀 田中農夫宛 二月十七日 切紙 一通

1094 田中幾書狀 田中農夫宛 三月八日 切紙 一通

1095 田中幾書狀 田中農夫宛 三月十八日 切紙 一通

1096 田中幾書狀 田中農夫宛 三月十八日 切紙 一通

1097 田中幾書狀 田中農夫宛 (明治五) 十月八日 切紙 一通

1098 田中幾書狀 田中農夫宛 (明治五) 十月三十日 切紙 一通

1099 田中幾書狀 田中農夫宛 (明治五) 十一月六日 切紙 一通

1100 田中幾書狀包紙 包紙 一括

1101 伊良子為之進書狀 田中幸六宛 六月廿五日 切紙 一通

1102 御広式下作廻岩本勇次郎吹聴狀 田中幸六宛 正月廿二日 切紙 一通

1103 石谷勘二書狀 田中幸六宛 (慶応元) 正月十九日 切紙 一通

1104 石谷勘二書狀 田中幸六宛 (慶応元) 十二月十日 切紙 一通

1105 石谷勘二書狀 田中幸六宛 正月五日 切紙 一通

1106 岡村吉兵衛書狀 田中幸六宛 十一月廿五日 切紙 一通

1107 小沢善四郎書狀 田中幸六宛 十二月十日 切紙 一通

1108 小関彦兵衛書狀 田中幸六・石谷勘二宛 (文久二) 閏八月晦日 切紙 一通

1109 小畑久馬介吹聴狀 田中幸六宛 正月十日 切紙 一通

1110 小畑久馬介書狀 田中幸六宛 十二月十八日 切紙 一通

1111 小畑孫左衛門書狀 (鳥取の近況) 田中幸六宛 (元治元) 六月廿二日 切紙 一通

1112 小畑孫左衛門書狀 (鳥取の近況) 田中幸六宛 (元治元) 九月廿日 切紙 一通

1113 小畑孫左衛門書狀 (鳥取の近況) 田中幸六宛 (元治元) 十一月八日 切紙 一通

1114 小畑孫左衛門書狀 (鳥取の諸物備) 田中幸六宛 (慶応元) 正月廿日 切紙 一通

1115 小畑孫左衛門書狀 (近況) 田中幸六宛 (慶応元) 正月廿八日 切紙 一通

1116 小畑孫左衛門書狀 (近況) 田中幸六宛 (慶応元) 十月廿四日 切紙 一通

1117 小畑孫左衛門書狀 (近況) 田中幸六宛 (慶応二) 二月九日 切紙 一通

1118 小畑孫左衛門書狀 田中幸六宛 (慶応二) 五月廿七日 切紙 一通

1119 小畑孫左衛門書狀 (幸六江戸詰交代の事) 田中幸六宛 八月八日 切紙 一通

1120 小畑孫左衛門書狀 (鳥取の近況) 田中幸六宛 十二月十日 切紙 一通

1121 五藤源之進吹聴狀 (裏判数類追加役) 田中幸六宛 (慶応元) 閏五月十八日 切紙 一通

1122 五藤源之進書狀 (書狀御札) 田中幸六宛 六月八日 切紙 一通

1123 坂田伊平太書狀 (御廻銀遣されるよう) 田中幸六宛 十二月廿四日 切紙 一通

1124 八橋郡佐伯仁右衛門書狀 (大庄屋湯後の願) 田中幸六宛 六月七日 切紙 一通

1125 白井伝次郎吹聴狀 (数類当分加役) 田中幸六宛 六月八日 切紙 一通

1126 鈴木富藏書狀 (年始祝詞) 兄上様 (田中幸六) 宛 (慶応元) 二月十日 切紙 一通

1127 田川久馬藏書狀 (近況・在方役人のこと等) 田中幸六宛 (慶応元) 十二月十日 切紙 一通

1128 田中善六書狀 (時候と痛所の見舞) 田中幸六宛 六月廿二日 切紙 一通

1129 田中善六書狀 田中幸六宛 十二月十日 切紙 一通

1130 角田捨藏書狀 (人事のこと・買物の依頼) 田中幸六宛 (元治元) 正月五日 切紙 一通

1131 角田捨藏書狀 (依頼していた論議の端本の件) 田中幸六宛 (慶応元) 十月六日 切紙 一通

1132 角田捨藏書狀 (征長陣中より) 田中幸六宛 (慶応二) 九月廿二日 切紙 一通

1133 数類本役中村源兵衛吹聴狀 田中幸六宛 十二月十四日 切紙 一通

1134 汗入郡吹野伊兵衛書狀 (年賀のあいさつ) 田中幸六宛 正月五日 切紙 一通

1135 古田佐七書狀 (畳表の件の御札等) 田中幸六宛 十二月廿七日 切紙 一通

1136 村瀬八兵衛書狀 (先日願上候御交代吹聴狀の件) 田中幸六宛 八月八日 切紙 一通

1137 森下左平太吹聴狀 (御同役へ) 田中幸六宛 十二月廿八日 切紙 一通

1138 森田門三郎吹聴狀 (御役御免) 田中幸六宛 五月廿五日 切紙 一通

1139 横井庄太夫書狀 (呉服藏勘番中の目録の件) 田中幸六宛 九月八日 切紙 一通

1140 横井庄太夫書狀 (整物依頼の件) 田中幸六宛 十二月十三日 切紙 一通

1141 横田幸一吹聴狀 (栗谷口木藏御番人) 田中幸六宛 十二月十八日 切紙 一通

1142 小頭吉田四郎三郎寒中見舞狀 田中幸六宛 十二月十日 切紙 一通

1143 鈴木富藏書狀 (近況) 兄上様 (田中幸六) 宛 (元治元) 十一月九日 切紙 一通

1144 七三郎書狀 田中幸六宛 (元治元) 十一月七日 切紙 一通

1145 惠三郎書狀 田中幸六宛 慶応元年十一月廿三日 切紙 一通

1146 忠太夫書狀 (大和屋彦右エ門手形の件等) 田中幸六宛 (慶応元) 十二月十三日 切紙 一通

1147 御会所仕込役甚吉吹聴狀 田中幸六宛 正月廿二日 切紙 一通

1148 裏判所仕人忠次郎吹聴狀 田中幸六宛 正月廿二日 切紙 一通

1149 御掃除小頭助十郎吹聴狀 田中幸六宛 二月八日 切紙 一通

1150 章造書狀 (世上騒敷こと、依頼の誂物のこと) 田中幸六宛 七月五日 切紙 一通

1151 御掃除小頭袖下奉行兼市藏吹聴狀 田中幸六宛 七月九日 切紙 一通

1152 御勘定所文六書狀 (江戸より時候あいさつ) 田中幸六宛 十月廿三日 折紙 一通

1153 忠兵衛書狀 (時候見舞と詰越見舞) 田中幸六宛 十二月五日 切紙 一通

1154 定下奉行幸作吹聴狀 (此度帰切、来春詰江戸) 田中幸六宛 十二月十二日 切紙 一通

1155 麻生屋重次郎代金請取覚 田中幸六宛 子(元治元) 四月十三日 切紙 一通

1156 松井屋藤藏他書狀 (手代差登せのこと) 田中幸六宛 六月 切紙 三通

1157 岩本屋由藏吹聴狀 (諸国道中通シ日雇受負仲間加入) 御旦那様宛 切紙 一通

1158 年始挨拶狀 田中幸六宛 切紙 三通

1159 暑中見舞狀 (某元之進) 田中幸六宛 切紙 一通

1160 寒中見舞狀 (五藤源之進・中村源兵衛) 田中幸六宛 切紙 二通

1161 石野藤左衛門書狀 (当春江戸引揚げの節の賄金) 田中幸六宛 十二月十三日 切紙 一通

1162 井田伊三郎書狀 (東京より近況報告) 田中且那宛 (明治二) 五月十四日 切紙 一通

1163 奥村文右衛門吹聴状 (跡目取) 田中幸助宛  
 (明治元) 閏四月廿七日 切紙 一通  
 1164 尾坂岩次郎書状 (苗字付に取立られたこと) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿一日 切紙 一通  
 1165 尾崎丈市書状 (炭のこと) 田中幸介宛  
 (明治元) 十月十日 切紙 一通  
 1166 小沢善四郎書状 (京都の事情) 田中幸介宛  
 (明治元) 閏四月十三日 切紙 一通  
 1167 小沢善四郎書状 (京都の事情) 田中幸介宛  
 (明治元) 十月十七日 切紙 一通  
 1168 小沢善四郎書状 (欠席の届) 田中幸介宛  
 廿一日 切紙 一通  
 1169 小畑久馬介書状 (東京より交代の件) 田中幸介宛  
 四月廿一日 切紙 一通  
 1170 小畑久馬介書状 (東京の事情報告) 田中幸介宛  
 五月十日 切紙 一通  
 1171 小畑久馬介書状 (詰満後、帰鳥できるよう取斗依頼) 田中幸介宛  
 三月十三日 切紙 一通  
 1172 小畑久馬介吹聴状 (京都詰) 田中幸介宛  
 八月三日 切紙 一通  
 1173 木下富之助吹聴状 (東京御帳作廻) 田中幸介宛  
 四月廿四日 切紙 一通  
 1174 高垣又三郎書状 (苗字付に取立られたこと) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿一日 切紙 一通  
 1175 高田幸作吹聴状 (来春まで詰越) 田中幸介宛  
 四月廿日 切紙 一通  
 1176 高田幸作吹聴状 (江戸御作事大工棟梁家業) 田中幸介宛  
 八月廿七日 切紙 一通  
 1177 田中市郎右工門書状 (年頭御礼) 田中幸介宛  
 正月五日 切紙 一通  
 1178 田中市郎右工門書状 (東京より諸事情報告) 田中幸介宛  
 五月朔日 切紙 一通  
 1179 長野伝之丞書状 田中幸介宛  
 切紙 一通  
 1180 中村頼之丞書状 (京都の状況) 田中幸介宛  
 (明治二) 切紙 一通  
 1181 野田喜一郎書状 田中幸介宛  
 十一月十一日 切紙 一通  
 1182 野々村作藏書状 (関東の事情) 田中幸介宛 (明治元) 四月廿日 切紙 一通  
 野々村作藏書状 田中幸介宛 (明治二) 切紙 一通  
 1183 野々村作藏書状 田中幸介宛 (明治二) 切紙 一通  
 1184 藤田誠喜書状 (右の扇子云々) 田中幸介宛  
 五月廿八日 切紙 一通  
 1185 前田重次郎書状 (東京より) 田中幸介宛  
 四月廿五日 切紙 一通  
 1186 三宅忠太夫書状 (福嶋屋安次郎東京出張日延願) 田中幸介宛  
 五月廿九日 切紙 一通  
 1187 三和兵太夫書状 (智頭御番所の費用の件) 田中幸介宛  
 六月廿七日 切紙 一通  
 1188 山本莊之助書状 (東京着のあいさつ) 田中幸介宛  
 五月廿二日 切紙 一通  
 1189 吉沢鉄之助書状 (京都の事情) 田中幸介宛  
 四月廿四日 切紙 一通  
 1190 吉田八郎右衛門書状 (苗字付取立の報告) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿一日 切紙 一通  
 1191 御早道定加役長七書状 (御早道本役昇進) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿五日 折紙 一通  
 1192 御早道定加役勤兵衛書状 (御早道本役昇進) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿五日 折紙 一通  
 1193 御早道定加役喜多郎書状 (御早道本役昇進) 田中幸介宛  
 (明治元) 六月廿五日 折紙 一通  
 1194 小一郎書状 田中幸介宛  
 (明治二) 七月十九日 切紙 一通  
 1195 武之丞書状 貫次郎・武一郎・幸介宛  
 二月十日 切紙 一通  
 1196 頭之丞書状 田中幸介宛  
 二月廿二日 切紙 一通  
 1197 左平太忠之書状 (金子預り証文のこと) 田中幸介宛 六月廿四日 切紙 一通  
 1198 与兵衛書状 (暑中見舞) 田中幸介宛  
 六月廿六日 切紙 一通  
 1199 与兵衛書状 (与兵衛の身分について依頼) 田中幸介宛  
 六月廿六日 切紙 一通  
 1200 為之進書状 田中幸介宛  
 七月十日 切紙 一通  
 1201 武左衛門書状 (京都辺町々で乱舞) 田中幸介宛 十一月十三日 切紙 一通  
 1202 萬屋長右衛門書状 (東京より御機嫌伺) 田中幸介宛 五月十五日 切紙 一通  
 1203 松野屋次郎七書状 (京都着御礼) 田中幸介宛 四月廿三日 切紙 一通  
 1204 某書状 (今便の御早道で京都への包を送ってくる様) 田中幸介宛  
 四月五日 切紙 一通

1205 達書 (田中幸介を会計司筆生に) 田中幸介宛  
 (明治二) 九月廿日 切紙 一通  
 1206 石野勝市書状 (時候あいさつ・京都の状況) 田中農夫宛  
 (明治二) 五月廿五日 切紙 一通  
 1207 小沢善四郎書状 (白中美濃紙の値段) 田中農夫宛  
 五月九日 切紙 一通  
 1208 小沢善四郎書状 (留守中の様子) 田中農夫宛  
 十一月八日 切紙 一通  
 1209 小沢善四郎書状 (夫銀他そちらへ廻す) 田中農夫宛  
 (十二月) 廿九日 切紙 一通  
 1210 小沢善四郎書状 (御役料御廻し) 田中農夫宛  
 十二月晦日 切紙 一通  
 1211 加納頼郎書状 (河崎参事帰藩後の情勢) 田中農夫宛 六月廿四日 切紙 一通  
 1212 木下富太郎書状 (改名の報告) 田中農夫宛  
 十月廿日 切紙 一通  
 1213 中村俊夫書状 (京都での近況報告と帰郷の歎) 田中農夫宛  
 三月二日 切紙 一通  
 1214 中村俊夫書状 田中農夫宛  
 十二月三日 切紙 一通  
 1215 中村俊夫書状 (お金を廻す) 田中農夫宛  
 十五日 切紙 一通  
 1216 西川織衛書状 (士族に列せられた報告) 田中農夫宛  
 十二月廿八日 切紙 一通  
 1217 吉本剛一書状 (時候伺と、近々帰藩のこと) 田中農夫宛  
 七月朔日 切紙 一通  
 1218 孫衛書状 (留守中相変らずのこと) 田中農夫宛  
 十月九日 切紙 一通  
 1219 傍作書状 (近況報告) 田中農夫宛  
 十一月十一日 切紙 一通  
 1220 夫平書状 (出張帰着の届、よろしく取斗うように) 田中農夫宛  
 九月晦日 切紙 一通  
 1221 軍州屋留五郎書状 (前欠) 田中農夫宛 午(明治三)二月廿三日 切紙 一通  
 1222 某書状 (のしめ仕立料のこと) 田中農夫宛  
 切紙 一通  
 1223 角田捨藏書状 (無頭御鉄砲周次郎を格別に取斗うよう) 会計司  
 十一月三日 切紙 一通  
 1224 岩越忠衛書状 田中俊民宛  
 一月六日 切紙 一通  
 1225 岩越忠衛書状 田中俊民宛  
 二月五日 切紙 一通  
 1226 宇野龍磨書状 田中俊民宛  
 八月十六日 切紙 一通  
 1227 宇野忍古彦書状 田中大人宛  
 六月廿五日 切紙 一通  
 1228 梅田信善書状 (地稅上納帳のこと) 田中俊民宛  
 一月廿九日 切紙 一通  
 1229 梅田信善書状 (借入金受取のこと) 田中俊民宛  
 五月廿六日 切紙 一通  
 1230 梅田信善書状 (別紙お廻し、取斗い依頼) 田中俊民宛  
 九月廿七日 切紙 一通  
 1231 梅田信善書状 (家禄米受取のこと) 田中俊民宛  
 十一月六日 切紙 一通  
 1232 海老沢廉書状 田中俊民宛  
 十一月十二日 切紙 一通  
 1233 海老沢廉書状 (高田次郎平調書認直の事) 田中俊民宛  
 十一月十二日 切紙 一通  
 1234 奥田力書状 田中俊民・仁熊厚資宛  
 明治八年一月一日 切紙 一通  
 1235 河崎清郎書状 田中俊民宛  
 四月廿日 切紙 一通  
 1236 河越金右工門書状 (拜命の札状) 田中俊民宛  
 二月十五日 切紙 一通  
 1237 河越金右工門書状 田中俊民宛  
 十日 切紙 一通  
 1238 河越金右工門書状 (出動下さるよう) 田中農夫宛  
 十四日 切紙 一通  
 1239 河越金右工門書状 田中宛  
 一月六日 切紙 一通  
 1240 木下莊平書状 田中俊民宛  
 二月 切紙 一通  
 1241 野田懐之書状 (京都より近況報告) 田中俊民宛  
 五月卅日 切紙 一通  
 1242 熊水・仁熊書状 (増田判事来県のこと等) 田中宛  
 廿七日 切紙 一通  
 1243 黒河大属書状 仁熊・田中小属宛  
 三月三十一日 切紙 一通  
 1244 小谷古蔭書状 田中俊民宛  
 四月一日 切紙 一通  
 1245 城野正興書状 (歌添削のお礼) 田中宛  
 十月十二日 切紙 一通  
 1246 杉山反章書状 (病氣にて不参の連絡) 田中俊民宛 十二月十四日 切紙 一通  
 1247 鈴木正矩書状 田中御兄宛  
 十月廿八日 切紙 一通  
 1248 世良和信書状 田中俊民宛  
 十月十五日 切紙 一通  
 1249 仙石某書状 (幸楽会社の法の拝借を願う) 田中宛  
 三月二日 切紙 一通  
 1250 角田安処書状 田中俊民宛  
 三月六日 切紙 一通  
 1251 角田安処書状 田中俊民宛  
 三月六日 切紙 一通

1252 松江監罪裁判所西郷支庁書記永岡清八書状 田中俊民宛 明治十九年五月三十一日 切紙 一通

1253 仁熊厚資書状(吉永判事のこと等) 田中宛 六月七日 切紙 一通

1254 仁熊厚資書状 田中宛 正月三日 切紙 一通

1255 平田八郎書状(本日病気に付欠勤) 田中俊民宛 正月九日 切紙 一通

1256 平田八郎書状 田中宛 三月一日 切紙 一通

1257 広田嘉平書状(雲縣の短尺御廻しの件) 田中先生宛八月廿四日 切紙 一通

1258 広田嘉平書状(夏・初秋の禄についての願) 田中宛六月廿四日 切紙 一通

1259 堀利三書状 田中俊民宛 五月五日 切紙 一通

1260 堀利三書状(大坂到着の知らせ) 田中俊民宛 四月三日 切紙 一通

1261 堀利三書状(隠岐国判事補時代) 田中俊民宛 四月三日 切紙 一通

1262 松浦藤藏書状(隠岐での礼状) 田中俊民宛 四月三十日 切紙 一通

1263 三田智周書状 田中俊民宛 九月四日 切紙 一通

1264 三田智周書状(新年の賀状) 仁熊・田中宛 一月十一日 切紙 一通

1265 三田智周書状 仁熊・田中宛 一月三十日 切紙 一通

1266 三田智周書状(近況報告) 田中俊民宛 十一月十二日 切紙 一通

1267 三田智周書状(田中・河崎出張中の縣庁内の状況) 田中・河崎宛 六月二日 切紙 一通

1268 都田義知書状 田中俊民宛 六月三日 切紙 一通

1269 村上正雄書状 田中俊民宛 三月五日 切紙 一通

1270 矢部潔書状 仁熊中属・田中中属宛 明治八年三月二日 切紙 一通

1271 矢部潔書状 長鬚先生宛 明治七年四月五日 切紙 一通

1272 矢部潔書状(訴訟規則) 愛石先生宛 十二月廿九日 切紙 一通

1273 吉田文保書状(上等警部補拜命の御礼) 田中宛 十一月廿九日 切紙 一通

1274 岡田や嘉七書状(注文の新葉集品切) 田中・三宅宛 廿日 切紙 一通

1275 含章書状 田中君宛 十二月十一日 切紙 一通

1276 武生書状 田中俊民宛 八月十日 切紙 一通

1277 武生書状 田中俊民宛 三十一日 切紙 一通

1278 某賢次郎書状(田中昇役の祝) 田中宛 明治八年二月三日 切紙 一通

1279 飯田俊子書状(近況報告) 大塚尚志・田中俊民宛 六月廿一日 切紙 一通

1280 貞幹書状断簡 田中俊民宛 二月廿二日 切紙 一通

1281 貞幹書状 田中俊民宛 十一月廿日 切紙 一通

1282 信春書状(御当家印形を返す) 田中俊民宛 十一月廿日 切紙 一通

1283 鈴木正矩書状 田中俊民宛 明治五年十一月二日 切紙 一通

1284 安田義三・小畑義三年始挨拶状 田中俊民・鳥越勝治宛 一月五日 切紙 一通

1285 田中俊民宛書状一括 明治十九年 切紙 一通

1286 田中俊民宛書状一括 明治十八年 切紙 一通

1287 用度方下執役木下留太郎書状(帰着の御款) 田中宛 三月五日 切紙 一通

1288 小林龍三郎書状(細川村山論裁許について) 田中宛 六月八日 切紙 一通

1289 塩倉某書状 田中宛 十四日 切紙 一通

1290 鈴木正矩書状 田中御兄様 六月十六日 切紙 一通

1291 田中幸治書状(会計局賄役御付らることの報告) 田中宛 二月六日 切紙 一通

1292 田中某書状(病気の報告と御礼) 田中宛 八月十一日 切紙 一通

1293 南條卯一郎書状(御帰着の御款) 田中宛 三月五日 切紙 一通

1294 定下奉行福田久作書状(御帰着の御款) 田中宛 三月五日 切紙 一通

1295 森田幹書状(昨日申付の書面の事) 田中宛 八月 切紙 一通

1296 萬屋長右工門・午五郎書状断簡 田中宛 三月八日 切紙 一通

1297 浅之助書状 田中宛 十月廿三日 切紙 一通

1298 貞美書状(御歌始の御題のこと) 田中大人宛 十二月三十日 切紙 一通

1299 貞美書状(月次会のこと) 田中大人宛 十一月九日 切紙 一通

1300 貞美書状(柿本大神尊像御表装出来) 田中大人宛 一月二十一日 切紙 一通

1301 某書状 田中宛 五月四日 切紙 一通

1302 五藤源之進吹聴状(格式御取立) 田中幸六宛 正月五日 切紙 一通

1303 尾崎清兵衛吹聴状(在御目付へ役替) 田中幸六宛十二月十三日 切紙 一通

1304 喜太郎書状(御地滞在中の懇命感謝) 先生宛 十二月 切紙 一通

1305 平四郎書状(父の八十才の祝・水田弥兵衛の事) 且那樣宛 切紙 一通

1306 東京甲州屋富五郎書状断簡 切紙 一通

1307 某書状(奥羽戦争への出兵のための金策) 八月十五日 切紙 一通

1308 某書状(小林万亀五郎・同数右エ門物入状、取調べ関東へ廻す) 十一月廿四日 切紙 一通

1309 某書状写(東京での新軍隊の賄金について) 切紙 一通

1310 某書状添書 切紙 一通

1311 (田中家族宛書状) 切紙 一通

1312 国造書状(立川同窓会のこと) 田中瑞穂宛 一月十一日 切紙 一通

1313 田中瑞穂宛書状一括 切紙 一通

1314 野々村母書状 田中やえ宛 切紙 一通

1315 (他家書状) 切紙 一通

1316 石田作平書状(無頭八番組藤次郎上野戦争にて討死二付) 河崎半内宛 七月二日 切紙 一通

1317 石田作平書状(京都番所御人増に付) 林善兵衛宛 三月廿九日 切紙 一通

1318 稲村たつ書状(欲びのため檣一荷他を送る) 田中幸治宛 一紙 一通

1319 大谷元忠大尉書状(満州着のこと、戦況のこと) 堀綿潔宛 明治三十五年三月二十九日 封書 一通

1320 奥田力書状封筒 仁熊厚資宛 十一月廿七日 封書 一通

1321 神戶源内書状(聖堂への入塾御付らる) 多賀屋金次郎宛 十一月廿七日 封書 一通

1322 杉平也書状(屑木の処理について) 為之進宛 十二月七日 切紙 一通

1323 津田保太夫書状(御小人旅籠昼遣いの支給) 中川佐左衛門宛 十月廿日 切紙 一通

1324 津田権少属書状 村山・川崎宛 十二月十三日 切紙 一通

1325 角田捨藏書状下書(一万五千兩の金札繰出しの件) 戸次・山口小主簿宛 七月十七日 切紙 一通

1326 仁熊厚資書状(病気に付、今日明日出頭お断) 山口宛 七月十七日 切紙 一通

1327 藤某書状 田中和夫宛 切紙 一通

1328 山本屋甚右衛門書状(前田の二男養子の件) 北村御後室宛 五月八日 切紙 一通

1329 御小屋番吉岡磯右衛門書状(東京での生活) 森田勝藏宛 二月五日 切紙 一通

1330 御小屋番吉岡磯右衛門書状(時候あいさつ) 森田勝藏宛 二月廿日 切紙 一通

1331 御小屋番吉岡磯右衛門書状(御支配御廻しの礼) 森田勝藏宛 四月廿六日 切紙 一通

1332 御帳作廻周兵衛書状(大難洪に付、当春支配の事) 森田勝藏宛 十二月十日 切紙 一通

1333 御帳作廻周兵衛書状(御廻金御礼) 森田勝藏宛 七月廿三日 切紙 一通

1334 定下奉行磯右衛門書状(御支配に關する御礼) 森田勝藏宛 十二月廿八日 切紙 一通

1335 定下奉行定吉書状(御廻金の願) 森田勝藏宛 四月廿二日 切紙 一通

1336 定下奉行定吉書状(当春御支配の世話の御礼) 森田勝藏宛 十一月廿三日 切紙 一通

1337 大坂佐渡屋伝兵衛書状(御種人參、外国人と取引のこと) 清谷屋甚兵衛宛 四月廿七日 切紙 一通

1338 芸州広島屋藤右衛門書状(淀江村厩吉と広島町人との金銭出入) 汗入郡大庄屋田中六郎兵衛宛 十月朔日 切紙 一通

1339 財藏書状(參着の報告) 幸市宛 十二月廿三日 切紙 一通

1340 雜書状下書等(家 族) 明治廿二年 切紙 一通

1341 金銭出納簿 多奈加 明治廿二年 切紙 一通

1342 金銭出納簿 多奈加 明治廿二年 切紙 一通

1343 金銭出納簿 多奈加 明治廿二年 切紙 一通

1344 明治二拾二年通信日記 田中瑞穂 明治廿二年 切紙 一通

1344	明治三十三年通信日記	田中瑞穂	明治三十三年	冊子	一通
1345	明治二十拾四年通信日記	田中瑞穂	明治廿四年	冊子	一通
1346	命名書(瑞穂長男氏)	田中俊民	明治廿九年十二月十日	一紙	一通
1347	命名書(瑞穂次男氏)	田中俊民	明治三十二年一月廿九日	一紙	一通
1348	鳥取県第六課領収証	田中俊民宛	明治九年七月廿六日	一紙	一通
1349	明治三十五年東北凶作救恤金裏状	田中瑞穂宛	明治三十八年十月一日	算紙	一通
1350	納税額通知書領収書等		明治三十八年十月一日	算紙	一通
1351	即位式大典奉祝賀表加名紀念状	田中瑞穂宛	大正四年十月十七日	一紙	一通
1352	皇典講究分所長通知	田中瑞穂宛	昭和五年十月十八日	封書	一通
1353	書道講習会修了証書	大阪市教育会・学書会	昭和五年八月七日	一紙	一通
1354	宿泊料領収証	氣高郡正得村松田清吉	鳥取県立第一中学校田	五月十二日	一紙
1355	問柄姓名(親類より祝い品の書上他)			一紙	一通
1356	田中やえ関係書類一括			一括	一通
<b>VI 学校教育</b>					
1357	鳥取高等小学校女子部第三学年生徒氏名(市郡別表)		明治廿五年四月	仮綴	一通
1358	女子部第三学年級日誌	田中瑞穂	明治廿五年九月	冊子	一通
1359	第三学年付長名簿	田中瑞穂	明治廿九、三十年	冊子	一通
1360	鳥取高等小学校卒業文集「忘れかたみ」		明治三十一年四月	冊子	一通
1361	鳥取高等小学校関係書類綴		明治三十三年度	冊子	一通
1362	高等小学校算術教科書(第一学年用)			冊子	一通
1363	高等小学校算術教科書(第二学年用)			冊子	一通
1364	高等小学校算術教科書(第三学年用)			冊子	一通
1365	訓読録(生徒に対する注意)		明治二十九年九月	仮綴	一通
1366	校地開墾報告書、附農業生徒答書		明治三十一年三月	冊子	一通
1367	作文教案(第一学年用)	田中瑞穂	明治三十一年度	冊子	一通
1368	受持学科試験問題集・採点一覽表	田中瑞穂	明治二十七年	冊子	一通
1369	試験問題及採点表	田中瑞穂	明治廿八年度	冊子	一通
1370	受持学科試験問題及採点表	田中瑞穂	明治廿九年度	冊子	一通
1371	受持学科試験問題及採点表	田中瑞穂	明治三十年度	冊子	一通
1372	鳥取高等小学校明治三十一年三月卒業生名簿			冊子	一通
1373	受持学科試験問題及採点表	田中瑞穂	明治三十一年度	冊子	一通
1374	受持学科試験問題及採点表	田中瑞穂	明治三十二年	冊子	一通
1375	受持学科試験問題及採点表	田中瑞穂	明治三十三年度	冊子	一通
1376	試問案及成績表(第四学年)	田中瑞穂	明治卅四年五月	冊子	一通
1377	第四年級第二回臨時試験試問案	田中瑞穂	明治卅四年十一月	冊子	一通
1378	因幡鳥取高等小学校受持学科臨時試験試問案	田中瑞穂	明治卅五年度	冊子	一通
1379	女子部第三学年試験問題集		明治廿五年	冊子	一通
1380	池田侯来校ノ際生徒習字ノ語句		明治卅二年七月	仮綴	一通
1381	女子部第一回臨時試験日割		明治三十三年七月	算紙	一通
1382	四学年一ノ組身体検査表		明治三十三年十一月	仮綴	一通
1383	鳥取高等小学校教員身体検査統計表		明治三十四年一月	算紙	一通
1384	第四学年受持生徒に関する事項引続書		明治三十四年三月	算紙	一通
1385	明治廿五年七月因幡高等小学校生徒夏期休業中脩身日課			印刷	一通
1386	第三十回卒業証書授与式順序(卒業生名簿)			印刷	一通
1387	鳥取高等小学校校拾四回紀念式順序			印刷	一通
1388	鳥取高等小学校卒業式式辭原稿			仮綴	一通
1389	鳥取高等小学校生徒名書上			算紙	一通
1390	鳥取高等小学校基本財産造出長期予算表			印刷	一通
1391	鳥取高等小学校生徒日本画		明治三十三年	一括	一通
1392	生徒日本画			一括	一通
1393	鳥取女学校開校の祝文	鳥取婦人会員加藤ちか女	明治二十一年十一月	仮綴	一通
1394	鳥取私立高等女学校第四回紀念式祝辭	田中俊民	明治二十五年十一月	一紙	一通
1395	鳥取私立高等女学校校舍配置図			印刷	一通
1396	祝鳥取女学校第一回開校紀念会歌			印刷	一通
1397	鳥取高等女学校第四回紀念式祝辭			仮綴	一通
1398	紀念式順序(鳥取高等女学校カ)			印刷	一通
1399	小学校・女学校卒業写真			二枚	一通
1400	第三学年丙学級学業成績表		大正四年度	一枚	一通
1401	国文法試験問題(第三学年)		大正六年六月	印刷	一通
1402	第廿九回卒業生氏名			印刷	一通
1403	第二十二回卒業生氏名			印刷	一通
1404	鳥取中学校生徒習字			五枚	一通
1405	平田裁縫学舎船遊びの時の歌		明治二十二年十一月	印刷	一通
1406	鳥取県尋常師範学校移転式の祝歌		明治四十二年	印刷	一通
1407	吉川経家の歌			印刷	一通
1408	立太子礼奉祝唱歌歌詞			印刷	一通
1409	山陰鉄道開通祝賀の歌			印刷	一通
1410	立志小学校天長節歌			一紙	一通
1411	旧藩祖池田光仲卿二百年祭頌徳歌	鳥取高等小学校	明治二十二年一月	印刷	一通
1412	鳥取女学校教員小沢かめ祝辭		明治二十二年一月	印刷	一通
1413	八東郡教育会長渡辺要賀表(今上天皇大婚二十五年の大典)		明治二十七年三月	一通	一通
1414	四種の図(動詞活用表) 山陰国語学会		明治二十九年	折本	一通
1415	河北高等小学校授業料領収書	柴木ミヨ宛	明治三十五年	一紙	一通
1416	幸江先生謝恩会委員報告書		明治四十三年五月	印刷	一通
1417	賞状 鳥取中学校学芸品展覧会会長	本校宛	明治四十三年九月	印刷	一通
1418	修立小学校新入生案内		大正三年四月	印刷	一通
1419	開路の旅(鳥城) 掲載用原稿		大正六年	原稿用紙三枚	一通
1420	金時計贈呈目録	鳥取第一中学校同窓会	田中瑞穂宛		一通
1421	国語答案		大正十一年十月	二枚	一通
1422	国語漢文提出研究問題			印刷	一通
1423	国語試験用紙			印刷	一通
1424	初メテ野球ヲ見ル人ノ為ニ			印刷	一通
1425	立川同窓会関係書類			七枚	一通
1426	申込人名簿・前金申込記入簿・代価領収簿	韻陽会数学叢志宛		七点	一通
1427	攻脩会講習員名簿		明治廿一年四月	冊子	一通
1428	攻脩会費領収簿		明治廿三年四月	冊子	一通
1429	東京堂取引書籍誌明細簿	攻脩会	明治廿四年、廿五年	冊子	一通
1430	国語講習会設立弘告	鳥取市東町共立学舎内	明治廿六年	印刷	一通
1431	受験予備講習会送納簿		明治廿七年十二月	冊子	一通
1432	幾何教科書写	田中瑞穂写	明治十五年十月	冊子	一通
1433	数学叢林第壹輯(数学問題集)	田中瑞穂写	明治二十一年三月	冊子	一通
1434	国家教育号外(帝國議會開院之頌及兒童樂譜)	東京明治館	明治二十三年十一月	冊子	一通
1435	鳥取県偉人伝 私立鳥取県教育会		大正二年	冊子	一通
1436	(農業論)(教材研究用)			冊子	一通
1437	習字手本			二点	一通
1438	第二学年図画教授案	田中瑞穂		仮綴	一通
1439	小学日本画初歩付録			印刷	一通
1440	絵画手本			印刷	一通
1441	歴史教材(写真)			印刷	一通
1442	耐忍之論 公立立川小学校生徒田中瑞穂			仮綴	一通
1443	鳥取中学校田中通信簿		明治四十四年	一枚	一通
1444	嶋根原下小学生徒秀才文抄			冊子	一通

VI 和歌

(田中俊民和歌)

1445	詠草	安政六、文久元年	冊子 一冊	1470	稲葉集姓名録	冊子 一冊
1446	蓬園集	文久元年	横半帳 一冊	1471	池田光仲御遺歌	冊子 一冊
1447	蓬園集	文久元年仲夏	冊子 一冊	1472	旧鳥取藩主池田慶徳公十年祭歌集	冊子 一冊
1448	瑠璃牛鳴菟瑜	文久元年十一月	冊子 一冊	1473	飯田年平歌碑建設の義捐金并詠歌募集廣告	明治二十年 冊子 一冊
1449	壬戌詠草	文久二年	横半帳 一冊	1474	奥田信実小伝 土肥実匡	己丑(明治二十二年)九月 印刷 一枚
1450	発亥詠草	文久三年	横半帳 一冊	1475	小林登美子米寿祝賀会和歌	田中俊民写 明治二十四年十二月 冊子 一冊
1451	蓬園詠草	文久三、明治三年	冊子 一冊	1476	小林登美子米寿祝の歌会案内	明治二十四年二月 印刷 一枚
1452	詠草	文久四、慶応二年	横半帳 一冊	1477	故小谷古蔭翁十年祭歌会案内	明治二十五年四月 印刷 一枚
1453	長月の記	明治四年九月	横半帳 一冊	1478	小谷古蔭翁十年祭典次第	明治二十五年四月廿四日 一紙 一枚
1454	蓬園詠草	明治四年、五年	冊子 一冊	1479	小谷古蔭伝	明治二十八年六月 野紙 一綴
1455	隠岐の藻屑	明治五、七年	冊子 一冊	1480	小谷古蔭略履歴	明治二十八年六月 野紙 一綴
1456	隠州視聽合記 鳥後	明治六年十一月	冊子 一冊	1481	(小谷古蔭追悼歌集)	冊子 一冊
1457	(和歌綴)	明治七年正月	冊子 一冊	1482	(小谷古蔭追悼歌集)	冊子 一冊
1458	(和歌綴)	明治九年四月十一日	切紙 一枚	1483	桜任蔵主贈位寿会辞	田中俊民 明治二十五年六月十日 一紙 一通
1459	鳥取の城壊ちし跡を見て作る歌	明治二十五年、二十七年	冊子 一冊	1484	桜任蔵伝 小林辰蔵	野紙 一枚
1460	蓬園詠草	明治二十五、三十二年	冊子 一冊	1485	新貞老「歌道を振起して国体を維持し、人道を匡正する理由の概略」	明治二十六年十二月 印刷 一枚
1461	蓬園詠草	明治二十八、三十二年	冊子 一冊	1486	船越寛一翁ノ三十三年祭ヲ催スノ趣意書	明治二十九年九月 印刷 一枚
1462	蓬園詠草	明治三十一年一月一日	一紙 一枚	1487	加納柿園大人四十年霊祭	明治三十年五月 印刷 一枚
1463	(和歌)	明治三十三年	冊子 一冊	1488	竹内知行小伝 田中俊民	明治三十三年一月 野紙 一綴
1464	蓬園詠草	明治三十三年	冊子 一冊	1489	臼井治堅伝	野紙 一枚
1465	病中詠草	明治三十三年	冊子 一冊	1490	小林大茂伝	野紙 一枚
1466	蓬園集	明治三十三年	冊子 一冊	1491	衣川広滋の事きき	野紙 一枚
1467	蓬園詠草	明治三十三年	冊子 一冊	1492	詠草(討長の際御大将へ提出)	一政 切紙 一通
1468	蓬園雜抄	明治三十三年	冊子 八冊	1493	鶴殿長慶徳御を偲ぶ歌	懐紙 一枚
1469	名所和歌集二編作者姓名録		冊子 一冊	1494	福羽美静和歌	印刷 一枚
1470				1495	鳥取市制実施三十年祝賀の歌	野紙 一枚

1498	十三番歌合	午二月	冊子 一冊	1527	某詠草	冊子 一冊
1499	第一十五番歌合	午正月	冊子 一冊	1528	言の葉(某詠草)	冊子 一冊
1500	十七番歌合(撰者臼井治堅)		冊子 一冊	1529	浦富日記浦乃潮浴 典久	冊子 一冊
1501	十八番歌合		冊子 一冊	1530	鷲中日記 生起	冊子 一冊
1502	第二十二番歌合(撰者小谷古蔭) 杉垣内社中		冊子 一冊	1531	(和歌集)	冊子 一冊
1503	二十六番歌合		冊子 一冊	1532	(詠草)	冊子 一冊
1504	三十番歌合		冊子 一冊	1533	(和歌懐紙)	一括
1505	第二会三十二番歌合(評者新貞老)		冊子 一冊	1534	(和歌短冊)	一括
1506	月次歌集明治二十年、二十二年 田中俊民写		冊子 一冊	1535	青木宏造 和歌短冊(出雲松江藩)	短冊 二枚
1507	(明治二十二年月次兼題)		冊子 一冊	1536	秋田安房様御内宜御儒様 和歌短冊	短冊 一枚
1508	明治二十四年月次和歌集 田中俊民写		冊子 一冊	1537	秋本正一郎安氏 和歌短冊(姫路藩)	短冊 二枚
1509	明治二十五年月次和歌集 田中俊民写		冊子 一冊	1538	足立権太夫弘訓 和歌短冊(伊勢国)	短冊 一枚
1510	六家月次歌集(俊民・冬雄・通昭・秀直・貞老・寛) 田中俊民写		冊子 一冊	1539	新貞老 和歌短冊	短冊 一枚
1511	臼井治堅詠草		冊子 三冊	1540	安倍良亭普 和歌短冊	短冊 一枚
1512	真木園詠草 新貞老		冊子 二冊	1541	飯田岳翁 和歌短冊(公儀御師範家)	短冊 一枚
1513	(詠草)(新貞老憲法法布の日思いつづけたる長歌他)		冊子 一冊	1542	飯田十郎母 和歌短冊	短冊 一枚
1514	蓬園の歌 新貞老		一紙 一枚	1543	伊王野冬雄 和歌短冊(倉吉在住)	短冊 十枚
1515	五松詠草 勝部静男		冊子 一冊	1544	井川貞善 和歌短冊(松江市松江)	短冊 二枚
1516	小倉篤齋歌集		冊子 一冊	1545	石川直方 和歌短冊(松江市母衣町)	短冊 一枚
1517	小倉桂友和歌日記		冊子 一冊	1546	伊藤博教 和歌短冊(松江市)	短冊 一枚
1518	松井通昭詠草		冊子 一冊	1547	稲岡秋平 和歌短冊(山崎藩)	短冊 一枚
1519	小谷芳蔭詠草		冊子 一冊	1548	井中重義 和歌短冊(立川四丁目)	短冊 四枚
1520	湯本文彦詠草		冊子 一冊	1549	井上景明 和歌短冊(大阪市北浜五丁目)	短冊 二枚
1521	小野節詠草		冊子 一冊	1550	井上豊顕 和歌短冊	短冊 一枚
1522	常陸磯浜町海井光政詠草		冊子 一冊	1551	井上又次郎友明 和歌短冊	短冊 一枚
1523	高宮操詠草		冊子 一冊	1552	伊吹正臣 和歌短冊(旧宮津藩)	短冊 一枚
1524	湯本仲子詠草		冊子 一冊	1553	今園国英 和歌短冊(土師神社祠官)	短冊 一枚
1525	しのふくさ(榎本清蔭詠草)		冊子 一冊	1554	岩成すな保 和歌短冊	短冊 八枚
1526	河瀬惣詠草		冊子 一冊			

1611	熊谷勘解由直麟	和歌短冊(赤穂藩)	短冊	一枚	1642	城野市次郎秀保	和歌短冊	短冊	二枚
1612	熊谷清右衛門	和歌短冊	短冊	三枚	1643	鈴木薫	和歌短冊(鳥取市元魚町二丁目)	短冊	一枚
1613	熊谷直安	和歌短冊(秋田県能代港町士族)	短冊	一枚	1644	鈴木源太郎	和歌短冊(鳥取市湯所町士族)	短冊	三枚
1614	黒川善右工門推直	和歌短冊(紀藩住江戶)	短冊	一枚	1645	鈴木敏夫	和歌短冊(邑美郡美保村吉成)	短冊	一枚
1615	小出榮	和歌短冊(宮内省在勤)	短冊	一枚	1646	住田長美	和歌短冊(会見八幡神主)	短冊	一枚
1616	小来鶴三郎	和歌短冊(因幡)	短冊	一枚	1647	鈴木半太郎中葉	和歌短冊(邑美郡吉成村)	短冊	二枚
1617	小寺良叔妻	和歌短冊	短冊	一枚	1648	鷲見解助由安歌	和歌短冊	短冊	一枚
1618	小林龍三郎義以	和歌短冊	短冊	一枚	1649	杉浦利平	和歌短冊(大阪東区瓦町三丁目)	短冊	一枚
1619	近藤泰世	和歌短冊(倉吉町)	短冊	五枚	1650	清照寺日見	和歌短冊	短冊	一枚
1620	小山宜行	和歌短冊(鳥取市大工町頭住)	短冊	三枚	1651	瀬見善水	和歌短冊(紀伊日高郡江川村)	短冊	一枚
1621	小谷芳藤	和歌短冊	短冊	三枚	1652	千家尊福	和歌短冊(出雲国造)	短冊	一枚
1622	小泉系子	和歌短冊	短冊	一枚	1653	仙田守夫	和歌短冊(出雲松江)	短冊	一枚
1623	近藤守孝	和歌短冊	短冊	一枚	1654	瀬戸連一郎	和歌短冊	短冊	一枚
1624	佐伯昇平隆磨	和歌短冊(八橋郡赤碓町)	短冊	二枚	1655	高柳秀成	和歌短冊(新潟県三嶋郡相原郡北郡)	短冊	一枚
1625	佐伯扇次郎	和歌短冊	短冊	一枚	1656	龍川伝右衛門昌興	和歌短冊	短冊	一枚
1626	桜木太夫	和歌短冊(京島原遊女)	短冊	一枚	1657	武田信城	和歌短冊(淡路国津名郡物部村)	短冊	二枚
1627	佐々木英雄	和歌短冊(鳥取市立川町四丁目)	短冊	一枚	1658	多田政雄	和歌短冊(鳥取市栗谷住士族)	短冊	二枚
1628	佐藤貞五郎萬春	和歌短冊(隱岐西郷中町)	短冊	一枚	1659	橘元輔冬照	和歌短冊(平戸藩士)	短冊	一枚
1629	澤草之亟母	和歌短冊	短冊	一枚	1660	田中一郎春房	和歌短冊	短冊	一枚
1630	真田源子(助十郎母)	和歌短冊(姫路)	短冊	一枚	1661	田中原次郎政春	和歌短冊	短冊	三枚
1631	佐野君郷	和歌短冊	短冊	九枚	1662	田中俊民	和歌短冊	短冊	三枚
1632	三枝真洞	和歌短冊	短冊	一枚	1663	田中尚	和歌短冊(鳥取県士族)	短冊	五枚
1633	塩谷源三郎宗彦	和歌短冊	短冊	一枚	1664	田中甚八郎周道	和歌短冊(邑美郡古市村)	短冊	二枚
1634	重松美喜子	和歌短冊	短冊	一枚	1665	田中廣夫政芳	和歌短冊(田中一郎父)	短冊	三枚
1635	慈光寺有仲	和歌短冊	短冊	一枚	1666	田中瑞穂	和歌短冊	短冊	七枚
1636	鳥兵庫	和歌短冊(出雲国杵築)	短冊	一枚	1667	田中やえ	和歌短冊(鳥取市下魚町士族芳次郎長女)	短冊	一枚
1637	潮崎祥齋	和歌短冊(紀伊国東牟婁郡那智村)	短冊	一枚	1668	谷村幸正雲陽	和歌短冊(鳥取市新蔵町一丁目)	短冊	一枚
1638	実相寺日孝	和歌短冊	短冊	一枚	1669	榎井九右衛門守城	和歌短冊(山崎藩)	短冊	一枚
1639	神市之助	和歌短冊	短冊	一枚	1670	彈琴緒	和歌短冊(大阪高麗橋第三街)	短冊	四枚

1583	岩本愛子	和歌短冊(鳥取市吉方町士族)	短冊	九枚	1584	小栗直助広伴	和歌短冊(遠州)	短冊	一枚
1584	池田久平瓢箪	和歌短冊(隠岐国西郷西町)	短冊	一枚	1585	小原千野	和歌短冊(津山徳守宮神主)	短冊	一枚
1585	入江喜兵衛義信	和歌短冊	短冊	一枚	1586	小原頼高	和歌短冊(美作国県社大隅神社祠官)	短冊	一枚
1586	飯田輝子	和歌短冊	短冊	四枚	1587	奥田半三郎莫光	和歌短冊	短冊	一枚
1587	飯田秀雄	和歌短冊	短冊	一枚	1588	小沢さき	和歌短冊(鳥取市吉方町)	短冊	一枚
1588	伊能七左衛門	和歌短冊(下総)	短冊	一枚	1589	太田垣知足	和歌短冊	短冊	二枚
1589	上島為幸	和歌短冊(鳥取市瓦町)	短冊	三枚	1590	大谷季英	和歌短冊	短冊	一枚
1590	上田平太兵衛穰	和歌短冊	短冊	一枚	1591	大谷季尚	和歌短冊	短冊	二枚
1591	上田貢	和歌短冊(松江北郷)	短冊	一枚	1592	大田原良当	和歌短冊	短冊	四枚
1592	植松敬次郎有経	和歌短冊	短冊	一枚	1593	大野秀子	和歌短冊	短冊	四枚
1593	鶴殿長	和歌短冊	短冊	二枚	1594	大橋きぬ	和歌短冊	短冊	七枚
1594	内野たつ子	和歌短冊(鳥取市栗谷町士族)	短冊	三枚	1595	鹿嶋伊七郎重好	和歌短冊	短冊	二枚
1595	梅里哲二	和歌短冊(鳥取市立川町一丁目士族)	短冊	一枚	1596	加藤ちか子	和歌短冊	短冊	一枚
1596	植松庄左衛門茂岳	和歌短冊	短冊	一枚	1597	神吉老鬼弘範	和歌短冊	短冊	一枚
1597	海野遊翁	和歌短冊(江戸)	短冊	一枚	1598	河上松太郎周之	和歌短冊	短冊	三七枚
1598	榎本寛	和歌短冊(鳥取市立川三丁目)	短冊	三枚	1599	河崎政子	和歌短冊	短冊	一枚
1599	円可	和歌短冊(法美郡杉崎村深相寺)	短冊	四枚	1600	河島兼松	和歌短冊(鳥取市士族)	短冊	一枚
1600	大賀正信	和歌短冊(鳥取市立川三丁目)	短冊	二枚	1601	河尻重太郎	和歌短冊(鳥取市東町士族)	短冊	一枚
1601	大谷文次郎	和歌短冊	短冊	一枚	1602	河田景与	和歌短冊	短冊	一枚
1602	大野竹窓	和歌短冊	短冊	一枚	1603	河田直	和歌短冊	短冊	二枚
1603	岡大側平保	和歌短冊	短冊	一枚	1604	河島清石	和歌短冊(八上郡曳田村)	短冊	一枚
1604	岡通直直道	和歌短冊(岡山市石岡町権中教正)	短冊	三枚	1605	垣本貞	和歌短冊	短冊	一枚
1605	小笠原助之進久時	和歌短冊(姫路藩)	短冊	一枚	1606	紀直俊尚	和歌短冊(紀伊名草郡村)	短冊	一枚
1606	岡本真毘等	和歌短冊(赤穂郡赤穂町天神社)	短冊	一枚	1607	久松八十之助祐之	和歌短冊(江戸)	短冊	一枚
1607	小川猪左工門利貞	和歌短冊(姫路)	短冊	一枚	1608	喜多村菊子	和歌短冊(鳥取市西町)	短冊	二枚
1608	沖直義	和歌短冊(鳥取市吉方村士族)	短冊	一枚	1609	木下宗賀	和歌短冊	短冊	二枚
1609	岡本幸八潮	和歌短冊	短冊	二枚	1610	木下芳安	和歌短冊	短冊	一枚
1610	奥田俊平御牧	和歌短冊(江戸)	短冊	一枚	1611	衣川長秋	和歌短冊	短冊	一枚
1611	小倉篤二	和歌短冊(鳥取市東町士族)	短冊	七枚	1612	久保宗範道光	和歌短冊(鳥取藩士)	短冊	一枚

1671	竹内慶之亮知敬	和歌短冊(鳥取市茶町)	短冊 一枚	1700	平野左京文矩	和歌短冊(尾州)	短冊 一枚
1672	竹内藤右工門知速	和歌短冊	短冊 一枚	1701	平野屋為次郎	和歌短冊	短冊 一枚
1673	竹内知良	和歌短冊	短冊 一枚	1702	平松敦齋忠行	和歌短冊	短冊 一枚
1674	戸田敬一郎則素	和歌短冊(美作津山産岡山地方裁判所)	短冊 一枚	1703	広江和太兵衛喜盛	和歌短冊	短冊 一枚
1675	戸田則命	和歌短冊(美作国津山二階町)	短冊 一枚	1704	藤岡好古	和歌短冊(大教正)	短冊 一枚
1676	土肥乙子	和歌短冊	短冊 一枚	1705	古屋菅賢	和歌短冊(紀井和歌山藩榑園門人)	短冊 一枚
1677	内藤真洲美	和歌短冊(会見宗像神主内藤次男)	短冊 一枚	1706	福長源藏将貴	和歌短冊	短冊 一枚
1678	永江則恒	和歌短冊	短冊 一枚	1707	藤田誠喜	和歌短冊(鳥取)	短冊 一枚
1679	中島宜門	和歌短冊	短冊 一枚	1708	堀直右衛門延年	和歌短冊(姫路)	短冊 一枚
1680	中津美園	和歌短冊	短冊 一枚	1709	前田水穂	和歌短冊(紀藩)	短冊 一枚
1681	中西龍見	和歌短冊(江崎町七三番地)	短冊 一枚	1710	牧田尚賢	和歌短冊(大阪東区瓦町二丁目)	短冊 一枚
1682	中村良顕	和歌短冊(大坂榑園門人)	短冊 一枚	1711	松井儀平	和歌短冊(伯耆八橋郡逢東村)	短冊 一枚
1683	西橋景實	和歌短冊(鳥取県士族)	短冊 一枚	1712	松井耕藏永賢	和歌短冊(大阪北区五丁目)	短冊 一枚
1684	濃川春雄	和歌短冊(網干)	短冊 一枚	1713	松浦荷則	和歌短冊(隠岐国吉那西郷港東町)	短冊 一枚
1685	野津茂一郎秋村	和歌短冊(出雲今市町)	短冊 一枚	1714	松岡屋右一郎藤見	和歌短冊	短冊 一枚
1686	野田隼太	和歌短冊	短冊 一枚	1715	丸山主水胤条	和歌短冊	短冊 一枚
1687	野々村こと子	和歌短冊	短冊 一枚	1716	松原熊之助中和	和歌短冊	短冊 一枚
1688	野々村八重子	和歌短冊(鳥取市立川町三丁目住)	短冊 一枚	1717	松田典久	和歌短冊	短冊 一枚
1689	野田喜一郎懐之	和歌短冊(鳥取藩士)	短冊 一枚	1718	松本与平莫德	和歌短冊	短冊 一枚
1690	波多野常来	和歌短冊(筑前国里崎大宮司)	短冊 一枚	1719	松山園子	和歌短冊(湯所町住鹿兒島県士族)	短冊 一枚
1691	原田有秋	和歌短冊(氣高郡砂見村住士族)	短冊 一枚	1720	三浦正道	和歌短冊(隠岐国水若酢神社司)	短冊 一枚
1692	原屋太平忠敬	和歌短冊(広瀬縣下)	短冊 一枚	1721	三木秋平世修	和歌短冊(八上郡山手村)	短冊 一枚
1693	橋本斧藏守雄	和歌短冊	短冊 一枚	1722	宮原積	和歌短冊(鳥取藩士從五位)	短冊 一枚
1694	林淇園	和歌短冊	短冊 一枚	1723	三宅卷子	和歌短冊	短冊 一枚
1695	原田永寛	和歌短冊	短冊 一枚	1724	三輪敬太	和歌短冊(周防右田)	短冊 一枚
1696	日置兼次	和歌短冊	短冊 一枚	1725	村上縫殿忠通	和歌短冊(京下立売住)	短冊 一枚
1697	日比新	和歌短冊(立川町三丁目住)	短冊 一枚	1726	村田鋼八長誼	和歌短冊(龍野藩中)	短冊 一枚
1698	平田重胤	和歌短冊	短冊 一枚	1727	森寿平可道	和歌短冊(津山東新内医業)	短冊 一枚
1699	平田寿子	和歌短冊(栗谷町住士族)	短冊 一枚	1728	森田栄次	和歌短冊(姫路家中)	短冊 一枚

1729	毛利福成	和歌短冊(江戸)	短冊 一枚	1758	小谷古蔭	和歌短冊	短冊 五枚
1730	森岡助三郎途長	和歌短冊	短冊 一枚	1759	池田吉泰(天祥院)	画	一枚
1731	本居内縁妻ふち	和歌短冊	短冊 一枚	<b>Ⅷ 武 道</b>			
1732	安井善明	和歌短冊(立川町二丁目住)	短冊 一枚	1760	北辰一刀流兵法箇条目録	千葉定吉 野々村彦三郎宛	短冊 一卷
1733	安井朗安	和歌短冊(大阪東区北浜三丁目)	短冊 一枚	1761	北辰一刀流兵法箇条目録	清水小十郎 野々村紛吉宛	短冊 一卷
1734	安田庸	和歌短冊(鳥取市吉方町三〇八番地)	短冊 一枚	1762	北辰一刀流兵法中目録	千葉定吉	短冊 一卷
1735	山縣白英	和歌短冊(大阪北浜二丁目)	短冊 一枚	1763	北辰一刀流切紙目録	千葉定吉	短冊 一卷
1736	山下安詳	和歌短冊(出雲松江市母衣町)	短冊 一枚	1764	北辰一刀流兵法本目録極意	千葉周作	短冊 一卷
1737	山下哲次	和歌短冊	短冊 一枚	1765	北辰一刀流兵法本目録極意	千葉周作	短冊 一卷
1738	山田嘉米	和歌短冊(鳥取市吉方村住)	短冊 一枚	1766	北辰一刀流剪紙	清水小十郎宣道 野々村紛吉宛	短冊 一卷
1739	山田貞助季	和歌短冊	短冊 一枚	1767	北辰一刀流剪紙	野々村彦三郎忠義 森本利三郎宛	短冊 一卷
1740	山田貞造	和歌短冊	短冊 一枚	1768	北辰一刀流剪紙	野々村彦三郎忠義 中野直次郎宛	短冊 一卷
1741	矢田部公典	和歌短冊(紀伊日前郡懸神官祿宣)	短冊 一枚	1769	北辰一刀流剪紙	野々村彦三郎忠義 中野直次郎宛	短冊 一卷
1742	山本のぶ子	和歌短冊	短冊 一枚	1770	北辰一刀流劍術起請文	安政二年十二月 慶應元年五月	短冊 一卷
1743	山本武 正雄	和歌短冊(龍野藩)	短冊 一枚	1771	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1744	山内口樹	和歌短冊(紀州)	短冊 一枚	1772	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1745	湯本文彦	和歌短冊	短冊 一枚	1773	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1746	吉田造平	和歌短冊	短冊 一枚	1774	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1747	吉田利兵衛業忠	和歌短冊(大阪道修町)	短冊 一枚	1775	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1748	横田勇平清彦	和歌短冊	短冊 一枚	1776	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1749	米原次右工門豊秋	和歌短冊	短冊 一枚	1777	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1750	米原豊廣	和歌短冊	短冊 一枚	1778	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1751	若林又兵衛忠久	和歌短冊	短冊 一枚	1779	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1752	和田喜志子	和歌短冊(鳥取市栗谷町士族)	短冊 一枚	1780	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1753	姓名不明	和歌短冊	短冊 一枚	1781	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1754	姓名不明	和歌短冊	短冊 一枚	1782	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1755	變斗・水引付祝歌	和歌短冊	短冊 一枚	1783	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1756	印刷和歌短冊(本居宣長・東宮殿下・妃殿下)	和歌短冊	短冊 一枚	1784	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷
1757	園本道男	和歌短冊	短冊 一枚	1785	北辰一刀流極意秘伝手控	文久四年正月	短冊 一卷

1780	武門要鑑抄十備押伝写	弘化二年十月写	冊子	一冊
1781	武門要鑑抄十一陣取伝写	弘化二年十一月写	冊子	一冊
1782	武門要鑑抄十二城取伝写	弘化二年十一月写	冊子	一冊
1783	武門要鑑抄十三写	弘化二年二月写	冊子	一冊
1784	武門要鑑抄十三備立伝写	弘化二年二月写	冊子	一冊
1785	武門要鑑抄十四手配伝写	弘化二年二月写	冊子	一冊
1786	武門要鑑抄十六防戦伝写	弘化二年二月写	冊子	一冊
1787	武門要鑑抄十九地戦伝写	弘化二年二月写	冊子	一冊
1788	不時御合図式	弘化二年二月写	冊子	一冊
1789	武教全書開見録	安政三年四月	冊子	一冊
1790	武教全書開書	田中俊民	冊子	一冊
1791	奇正転化之策略	田中俊民	冊子	一冊

IX 書画・絵図・瓦版・曆等

1792	池田齊稷和歌写	軸装	一幅
1793	池田慶徳和歌額	額装	一額
1794	池田伸律書(増田定之助拜領)	軸装	一幅
1795	暮春白河尚歯会和歌	卷子	一卷
1796	阿弥陀経の六字名号	軸装	一幅
1797	六字名号	軸装	一幅
1798	「二河誓」小川独笑書	軸装	一幅
1799	針水元旦試筆	軸装	一幅
1800	柿本人麻呂像	軸装	一幅
1801	柿本人麻呂像	軸装	一幅
1802	本居宣長像	一紙	一枚
1803	扇面(白井治堅・正垣適処・元旦・長秋・墨園堂)	一紙	一枚
1804	徳川家康像並遺訓	一紙	一枚
1805	勝海舟翁遺墨	印刷	一枚
1806	寿鶴亀の書	一紙	一枚
1807	錦絵 芳瀧画	一紙	一枚
1808	英一蝶絵(鳥取新報付録)	一紙	一枚
1809	新聞付録地図・絵画	一紙	一枚
1810	不明軸	軸装	一幅
1811	不明扇	扇	一
1812	久米那弓原村人別屋敷構(間取絵図)	一紙	一枚
1813	気多郡湯村家間取全図	一紙	一枚
1814	気多郡浜村家間取全図	一紙	一枚
1815	河村郡図	一紙	一枚
1816	久米郡図	一紙	一枚
1817	八橋郡図(南欠)	一紙	一枚
1818	日野郡図	一紙	一枚
1819	松河原村出作并理道絵図	一紙	一枚
1820	本牧略図	一紙	一枚
1821	隠岐国四郡六拾壹村縮図	一紙	一枚
1822	〔西宮・明石間道のり図〕	一紙	一枚
1823	〔播磨国千本より道のり図〕	一紙	一枚
1824	伯耆国三十三ヶ所霊場絵図 倉吉小倉屋専助・御座屋儀右工門	一紙	一枚
1825	草木撰種録男女之図 因州鳥取鹿野街道十二支堂	木版	一枚
1826	芝居番付(鳥取で上演されたもの)	木版	一枚
1827	相撲番付(尾車文五郎より送られたもの)	木版	一枚
1828	別格官幣社名和神社図面	木版	一枚
1829	神宮教第二拾二教区因幡国鳥取本部教会所之図	木版	一枚
1830	鳥取市実測全図 著作藤原梅若・発行島田亀蔵	印刷	一枚
1831	鳥取城・米子城古図と史談 横山敬次郎	印刷	一枚
1832	〔日本全図〕中島翠堂著	印刷	一枚
1833	新改御江戸絵図 西村屋与八	印刷	一枚

江戸名所一覽及六二代広重画

1834	文久改工新撰京絵図 京三条通寺町西入竹原好兵衛	木版	一枚
1835	鎌倉徳園江嶋金沢遠景 鎌倉雪之下戸川	木版	一枚
1836	〔東海道宿場間距離早見表〕東海道富士川岩瀬藤田藤右工門	木版	一枚
1837	横浜地番図 横浜石川口商組頭取増田万吉	木版	一枚
1838	諸国大名御固附	木版	一枚
1839	御免軍中慶応録	木版	一枚
1840	金比羅宮祭礼図 丸亀板元成功堂	木版	一枚
1841	桶峽弔古碑	木版	一枚
1842	河内国道明寺土師神社全図	木版	一枚
1843	知恩院大谷寺洪鐘之図	木版	一枚
1844	古戦一覽 風詠亭主人編・山城屋政吉	木版	一枚
1845	浪花そっくりぶし 八丁堀滝辨	木版	一枚
1846	鳥づくししやれ文 書林兼卿紙屋	木版	一枚
1847	(忠臣蔵見立曆)	木版	一枚
1848	安政新刻年数早見	木版	一枚
1849	多賀城古趾の図 発行者菊地蔵之助	木版	一枚
1850	松嶋塩竈真景全図 宮城県盛光堂蜂屋十馬	印刷	一枚
1851	日光二荒山中宮祠真図	印刷	一枚
1852	府県表 村上勘兵衛他二人	印刷	一枚
1853	最新大日本地圖 大阪朝日新聞社	印刷	一枚
1854	宮津町五方分一地圖 大日本帝國陸地測量部	印刷	一枚
1855	平城宮大内裏跡坪割之図 北浦定政	印刷	一枚
1856	日露精練新図 博文館	印刷	一枚
1857	朝鮮案内 朝鮮総督府	印刷	一枚
1858	日本重要輸出入品番付	印刷	一枚
1859	文久二年九月	木版	一枚
1860	文久二年九月	木版	一枚
1861	明治六年太陽曆 鳥取新報社	木版	一枚
1862	明治七年甲戌太陽略曆 大阪頒曆商社	木版	一枚
1863	明治七年甲戌略曆 大阪松浦善右衛門	木版	一枚
1864	年令早見表	木版	一枚
1865	明治九年太陽曆 大阪頒曆商社	木版	一枚
1866	明治十一年太陽略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1867	明治十二年太陽略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1868	明治十三年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1869	明治十四年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1870	明治十五年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1871	明治十六年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1872	明治十七年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1873	明治十八年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1874	明治十九年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1875	明治二十年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1876	明治廿一年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1877	明治廿二年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1878	明治廿三年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1879	明治廿四年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1880	明治廿五年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1881	明治廿六年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1882	明治廿七年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1883	明治廿八年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1884	明治廿九年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1885	明治三十年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1886	明治三十一年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1887	明治三十二年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1888	明治三十三年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1889	明治三十四年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1890	明治三十五年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1891	明治三十六年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1892	明治三十七年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1893	明治三十八年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1894	明治三十九年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1895	明治四十年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1896	明治四十一年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1897	明治四十二年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1898	明治四十三年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1899	明治四十四年略本曆 頒曆商社	木版	一枚
1900	明治四十五年略本曆 頒曆商社	木版	一枚



1888 明治三十五年略本曆 神宮神部署  
 1889 明治三十六年略本曆 神部署  
 1890 明治三十六年廿八宿吉凶表  
 1891 明治三十六年方位便覽 京都府平民寺田清助  
 1892 明治三十七年略本曆 神部署  
 1893 明治卅八年廿八宿吉凶表 大坂市八杉正一  
 1894 明治三十九年農商記 奈良県郡山奥田直吉  
 1895 (明治四十年吉宝)(表紙欠) 大坂市宮崎八十八  
 1896 明治四十壹年吉凶表 大坂市馬場鹿  
 1897 明治四十二年農家便覽 兵庫県明石町杉浦直次郎  
 1898 大正二年毎朝壹覽表 東京市野村平太郎  
 1899 大正四年九星早見 京都市春山素喜  
 1900 大正九年略本曆 神宮神部署  
 1901 大正九庚申年九星日割かかみ 神宮寺菊之助  
 1902 大正九庚申年吉宝 宮崎八十八  
 1903 雜(曆冊子)

X 書籍

(郷土・地誌)  
 伯耆之卷  
 因幡志廿九古城ノ部  
 因幡叢書因幡年表巻五(研志塾蔵版)  
 古跡由来記(安德天皇流亡伝説)  
 名和氏紀事 乾・坤(尚徳館蔵版)  
 船上山遺事 正端薫原著・佐伯元吉校補  
 船上山史 鳥取県教育会  
 名和長年公 松葉新報記者小松原真琴著  
 瓊子内親王の御事蹟御園の白菊 三島吉太郎著  
 瓊子内親王 時山久蔵・勇・美則共著

1903 山中幸盛伝 出雲広瀬山口美道君従(幸五郎)著  
 1913 吉川経家公事蹟 瀬川秀雄著  
 1914 因幡二十士伝 青木寿光著  
 1915 社烈二十士 前鳥取中学鈴木徳治著  
 1916 鳥取二十士概念 田淵應次郎著  
 1917 旧鳥取藩士殉難録 鳥取県士族石原節節  
 1918 日野郡義民伝野田三社巴形 坪倉米山作  
 1919 鳥取県御大札記録 鳥取県  
 1920 鳥取縣御管内郡村名  
 1921 石齋小稿 土肥実匡著  
 1922 伊奈夫(松下伊那夫追悼文集)  
 1923 須知中佐(日露戦争戦死須知源次郎)加藤房蔵著明治三十七年  
 1924 原田愛中佐(日支事変戦死)生駒義博編輯  
 1925 足立少尉(日露戦争戦死足立美堅)中郷秋香著  
 1926 郷土読本 鳥取第一中学校太中貞一編  
 1927 郷土読本(増補版)鳥取第一中学校太中貞一編  
 1928 鳥取県資鑑 全因幡篇 高取秀博著  
 1929 鳥取案内記 鳥取市教育会吉田八得編輯  
 1930 鳥取案内 鳥取市役所編さん  
 1931 鳥取案内 鳥取市役所編さん  
 1932 大正の鳥取市案内 鳥取市役所編さん  
 1933 鳥取案内 松陽新報支局荒木義雄編  
 1934 鳥取市勢要覽 鳥取市役所  
 1935 鳥取市勢要覽 鳥取市役所  
 1936 鳥取市勢要覽 鳥取市役所  
 1937 鉄道開通山陰の葉 宮地猛男著  
 1938 山陰鉄道開通式協賛記要 鳥取市役所  
 1939 山陰鉄道名勝案内 奥原福市編

2095 悠久帖(佐伯友光遺曆祝賀歌集) 赤崎佐伯友光発行 明治二十三年 印刷 一冊

1996 瀧の白玉(津和野瀧口隆吉遺曆祝賀歌集) 明治二十四年 印刷 一冊

1997 六杉園集(小谷古蔭歌集) 小谷芳蔭編 明治二十四年 印刷 二冊

1998 しなの露(池田輝知臨時祭記念歌集) 吉田八得発行 明治二十四年 印刷 二冊

1999 老木のはな(小林登美子米寿祝賀歌集) 小林辰蔵発行 明治二十五年 印刷 三冊

2000 万葉集摘英新訳天 新貞老著 明治二十六年 印刷 一冊

2001 浪路日記 榎本清藤著 榎本寛発行 明治二十六年 木版 一冊

2002 松屋集 小林大茂著 小林辰蔵発行 明治二十七年 木版 二冊

2003 蜻蛉集(倉吉) 進藤泰世編輯 明治二十六年 印刷 一冊

2004 蜻蛉集二編(倉吉) 進藤泰世編輯 明治二十七年 印刷 三冊

2004 蜻蛉集三編(倉吉) 進藤泰世編輯 明治二十九年 印刷 二冊

2006 しなの露(池田光仲二百年祭記念光仲歌集) 明治二十六年 印刷 一冊

2007 おきなくさ(和田義保古稀祝賀歌集) 明治二十七年 印刷 一冊

2008 大國隆正先生著書出版にかかれるをことほぎてくさ、 出雲国野津秋村 明治二十八年 印刷 一冊

2009 二葉の国 第壹輯(雅友会関金宿遠藤千浪編輯) 明治二十八年 印刷 一冊

2010 四種の図解 井上真智著 明治二十九年 印刷 一冊

2011 海字遺珠(宮原積歌集) 田中登編 明治三十年 印刷 一冊

2012 大願道人草稿(柿園門人・新貞老序) 明治三十年 印刷 一冊

2013 稲葉の露(池田慶徳二十年祭記念歌集) 明治三十年 印刷 二冊

2014 秋の八千草(石田宗一父一周年祭歌集) 明治三十一年 印刷 一冊

2015 不二百首(小林茂雄歌集) 明治四十四年 印刷 一冊

2016 飯田年平翁詠草拾遺 時山勇編 大正十五年 印刷 一冊

2017 記念歌集日時計 鳥取市川端町村田薫吉編輯 曠野短歌会発行 大正十五年 ガリ版 一冊

2018 榜の下蔭(池田慶徳五十年祭記念歌集) 昭和三年 印刷 二冊

2045 鳥城第九号明治三十五年修学旅行記 鳥取県立第一中学校校友会 明治三十五年九月 印刷 一冊

2046 鳥城第四拾壹号林校長拾年勳績祝賀記念号 鳥取中学校校友会 大正十一年三月 印刷 一冊

2047 鳥城第四十五号 鳥取第一中学校校友会 大正十四年九月 印刷 二冊

2048 狂言六種 鳥取第一中学校太中貞一編輯発行大正十五年十一月 印刷 一冊

2049 移転改築記念 鳥取市立因幡高等女学校 昭和十二年六月 印刷 一冊

2050 極光会会報第壹号 日露協会学校極光会(哈爾濱) 大正十三年二月 印刷 一冊

2051 極光 日露協会学校極光会 大正十一年十二月 印刷 一冊

2052 極光第四号 日露協会学校極光会 大正十二年 印刷 一冊

2053 創立十周年回顧録 天徳学院(鳥取市湯所町) 昭和十四年六月 印刷 一冊

2054 学道第四号第壹回卒業記念号 天徳学院校友会 昭和八年 騰写版 一冊

2055 学道第八号 天徳学院校友会 昭和十年三月 騰写版 一冊

2056 鵬 創刊号 鳥取第一中学校太中貞一編輯発行大正十五年十月 騰写版 一冊

2057 鵬 第五号 鳥取第一中学校太中貞一編輯発行 大正十五年十二月 騰写版 一冊

2058 鵬 第三増刊新春号 鳥取第一中学校太中貞一編輯発行 大正十六年 騰写版 一冊

2059 晩翠 第二号 鳥取県立米子高等女学校校友会 明治四十五年 印刷 一冊

2060 鳥取市教育会会報第二十一号第三回聯合教育大会記録大正九年 印刷 一冊

2061 鳥取県偉人伝 私立鳥取県教育会 大正二年 印刷 二冊

2062 鳥取県久松会記事(県出身陸軍将校の団体) 大正九年頃 印刷 二冊

2063 鳥取市学事一覽表 鳥取市役所 昭和十三年年度印刷折本 一冊

2064 鳥取市学事一覽表 鳥取市役所 昭和十四年度印刷折本 二冊

2065 松菊 第拾八号(静修女学校(私立鳥取女学校) 同窓会会報) 大正九年三月 印刷 一冊

2066 大正七年入学試験問題集(嶋根県鳥取県各種学校) 横山書店発 大正七年 印刷 一冊

2019 喬松先生遺稿文集(森本喬松) 晩成塾同窓会編輯 昭和六年 印刷 一冊

2020 歌集雲は翔ける 森本直象著 昭和九年 印刷 一冊

2021 故飯田年平翁五十年祭記念遺徳顕彰会紀要 故飯田年平翁遺徳 昭和十二年 印刷 一冊

2022 石舎歌集(中村寿彌正親歌集) 顕彰会編 昭和十二年 印刷 一冊

2023 縣社長田神社歌集第一集 長田神社歌集 昭和十二年 印刷 一冊

2024 情脈 一九三二年五月号 鳥取短歌会発行 昭和七年 印刷 一冊

2025 口笛 第一輯(鳥取県立米子商養学校同人誌) 昭和八年 印刷 一冊

2026 樟齋翁消息短歌乃論(写本) 写本 一冊

2027 樟齋翁消息短歌乃論(写本) 写本 一冊

2028 六杉園拾遺(小谷古蔭歌集) (写本) 写本 一冊

2029 六杉園集(小谷古蔭歌集) (写本) 写本 一冊

2030 白井治堅詠草(写本) 写本 一冊

2031 銀杏の落葉(白井治堅歌集) (写本) 写本 一冊

2032 因伯歌人姓名録 写本 一冊

2033 俳道片言 吹萬堂大蕪著 門人忘言齋竹麻呂校 (郷土・学校教育) 野紙飯綴一冊

2034 鳥取県立第一中学校一覽 明治三十三年度 印刷 一冊

2035 鳥取県立第一中学校一覽 明治三十五年度 印刷 一冊

2036 鳥取県立第一中学校一覽 明治三十六年度 印刷 一冊

2037 鳥取県立第一中学校一覽 明治三十七年度 印刷 二冊

2038 鳥取県立第一中学校一覽 明治三十八年度 印刷 一冊

2039 鳥取県立第一中学校一覽 明治四十年度 印刷 一冊

2040 鳥取県立鳥取中学校一覽 明治四十四年十月 印刷 一冊

2041 鳥取県立鳥取中学校一覽 大正三年三月 印刷 二冊

2042 鳥取県立鳥取中学校一覽 大正五年三月 印刷 一冊

2043 鳥取県立鳥取中学校教育方針 鳥取県立鳥取中学校 明治四十二年 印刷 一冊

2044 鳥取県立鳥取中学校教育方針 明治四十二年 印刷 一冊

2067 因伯教育 第四六〇号 鳥取県教育会 昭和七年 印刷 一冊

2068 因伯教育 第五〇九号 鳥取県教育会 昭和十二年 印刷 一冊

2069 因伯教育 臨時増刊 但馬聖人 鳥取県教育会 昭和十二年 印刷 一冊

2070 因伯教育 第五二二号 鳥取県教育会 昭和十三年一月 印刷 一冊

2071 因伯教育 第五二五号 鳥取県教育会 昭和十三年二月 印刷 一冊

2072 因伯教育 第五三〇号 鳥取県教育会 昭和十三年五月 印刷 一冊

2073 因伯教育 第五三〇号 鳥取県教育会 昭和十三年十月 印刷 一冊

2074 中等教育研究 創刊号 鳥取県中等教育研究会 昭和十二年 印刷 一冊

2075 中等教育研究 第三号 鳥取県中等教育研究会 昭和十五年 印刷 二冊

2076 鶴水 第三号 鳥取鶴水会(鳥取遊泳会の有段者組織) 大正六年九月 印刷 一冊

2077 (郷土・その他)

2078 如々文集 第壹輯 鳥取市立川町岩田勝市著作発行大正十三年 印刷 一冊

2079 如々文集 第二輯 鳥取市立川町岩田勝市著作発行大正十三年 印刷 一冊

2080 山陰毎日新聞明治四拾一年新年号(山陰毎日新聞付録) 昭和九年九月 印刷 一冊

2081 大因伯 第十四卷第四号 東京因伯社 昭和九年九月 印刷 一冊

2082 大因伯 第十四卷第五号 東京因伯社 昭和九年十月 印刷 一冊

2083 大因伯 第十五卷第三号 東京因伯社 昭和十年三月 印刷 一冊

2084 大因伯 第十五卷第五号 東京因伯社 昭和十年五月 印刷 一冊

2085 大因伯 第二十一卷一月号 東京因伯社 昭和十五年一月 印刷 一冊

2086 大因伯 第二十二卷二月号 東京因伯社 昭和十五年二月 印刷 一冊

2087 大因伯 第二十三卷三月号 東京因伯社 昭和十五年三月 印刷 一冊

2088 日本海時代 創刊五月号 涌島義博編輯発行 昭和九年五月 印刷 一冊

2089 山陰史蹟 創刊号 東京民友社・米子山陰史蹟協会の発行 大正十四年四月 印刷 一冊

2090 乙部養蚕巡回教師吉田多吉演説筆記 鳥取県農商課編さん 昭和二十年三月 印刷 一冊

2091 風月社第壹回煎抹茗筵録(傷み甚大) 明治二十五年 印刷 一冊

2091 粟溪雅會略誌(正隆通処靈祭の記録) 牧野静脩・前田真郷編 明治十一年三月 印刷 一冊

2092 松のみかけ(正四位池田輝知君一年靈祭詞) 明治二十四年八月 印刷 一冊  
(漢文学)

2093 毛伝詩経 尚徳館点三・四 木版 二冊

2094 詩経毛伝補義六・七・八・九・十 木版 四冊

2095 標箋孔子家語三・四・五・六・七・八・九・十 木版 四冊

2096 補義莊子因一・二・三・四(全六冊の内) 寛政八年 木版 四冊

2097 詩経集註一 木版 一冊

2098 箋注蒙求上・中 木版 二冊

2099 古逸書(古逸目録・周文・周文楚文・秦文漢文・漢文・宋文南宋文)(全十二冊の内) 木版 八冊

2100 草書韻会上・下 慶安四年 木版 二冊

2101 經典餘師 中册 嘉永五年 木版 一冊

2102 唐詩選掌故一・二・三(四巻のうち) 明和元年序 木版 三冊

2103 訳文笠翁一六(往來先生秘授) 文化九年 木版 六冊

2104 近思録一・二・三・四 木版 二冊

2105 菜根譚上・下 明遺初道人著 木版 二冊

2106 鴨東四時雜詞 文政九年序 木版 一冊

2107 唐宋八大家文讀本一(全十六冊のうち) 文久二年 木版 一冊

2108 盡簞社古文偶評上 天保五年 木版 一冊

2109 詩語碎金 内藤政陽序 天保五年 木版 一冊

2110 幼学詩韻 明治十七年 木版 一冊

2111 鰲頭句解古文孝経講義 春日仲瀧 明治十七年 木版 一冊

2112 小文規則 頼山陽撰 明治十一年 木版 一冊

2113 老子解義上・下 虚舟簡野道明著 大正十三年 印刷 二冊

2114 詩法詳論上・下 明治十八年 木版 二冊

2115 萬葉集略解一・二・三上・三下・四上・四下・五・六・七・八  
・九・十上・十下・十一上・十一下・十二上・十二下・十三上・十三下・十四上・十四下・十五・十六・十七上・十七下・十八・十九上・十九下・二十上・二十下・二十一上・二十一下・二十二上・二十二下・二十三上・二十三下・二十四上・二十四下・二十五・二十六・二十七上・二十七下・二十八・二十九上・二十九下・三十上・三十下・三十一上・三十一下・三十二上・三十二下・三十三上・三十三下・三十四上・三十四下・三十五・三十六・三十七上・三十七下・三十八・三十九上・三十九下・四十上・四十下・四十一上・四十一下・四十二上・四十二下・四十三上・四十三下・四十四上・四十四下・四十五上・四十五下・四十六上・四十六下・四十七上・四十七下・四十八上・四十八下・四十九上・四十九下・五十上・五十下  
萬葉山常百首 本居大平 文政三年 木版 一冊

2116 萬葉山常百首解 享和元年 木版 一冊

2117 萬葉集佳調拾遺 本居宣長 写本 一冊

2118 新撰朗詠集下 木版 一冊

2119 懷風藻 寛政五年 木版 一冊

2120 百人一首案のかけはし上・下 衣川大人著 明治二十三年 木版 二冊

2121 古今和歌集上・下 天和三年 木版 二冊

2122 古今集遠鏡一 木版 一冊

2123 冠辞考二・七 橘枝直(宝曆七年) 木版 二冊

2124 頭書古今和歌集遠鏡三・五 嘉永五年 木版二組四冊

2125 類題武蔵野集上・下 仲田顯忠輯 安政四年 木版 二冊

2126 類題武蔵野集上・下 仲田顯忠輯 安政四年 木版 二冊

2127 類題武蔵野集上・下 仲田顯忠輯 安政四年 木版 二冊

2128 類題武蔵野集上・下 仲田顯忠輯 安政四年 木版 二冊

2129 類題武蔵野集上・下 仲田顯忠輯 安政四年 木版 二冊

2130 新紅塵和歌集類題上・下 元治元年 木版 二冊

2131 風雅和歌集(元尚徳館藏書) 嘉永六年 木版 二冊

2132 詠史歌集上・下 長沢伴雄編 嘉永二年 木版 二冊

2133 近世名家遺文集覽 萩原広道撰 文政十年 木版 一冊

2134 (あさち)(案翁歌集) 嘉永元年 木版 二冊

2135 葉山のしをり 萩原茂治著 嘉永元年 木版 二冊

2136 なみののはな(俳諧集・末尾に太田垣運月和歌) 戊辰(明治元年) 木版 一冊

2137 水穂會年々集 初巻 明治二十二年 印刷 一冊

2138 ささくさ 彈琴緒編 明治二十七年 印刷 一冊

2139 夢のなこり 落合直成編輯發行 明治二十七年 印刷 一冊

2140 家核集(今井良綱七十年賀) 彈琴緒編輯發行 印刷 一冊

2141 石鹿集(猪狩琴風還曆賀) 滋賀県猪狩義友 明治二十六年 印刷 二冊

2142 いさり火 大和田建樹作 明治二十一年 印刷 一冊

2143 浦のしほ貝(熊谷直好歌集) 名古屋市川瀬代助發行 明治二十五年 木版 一冊

2144 浦のしほ貝拾遺(熊谷直好歌集) 名古屋市川瀬代助發行 明治二十五年 木版 一冊

2145 瀧のしら玉(長慶院法皇歌集) 東京谷森善臣著 明治二十五年 印刷 一冊

2146 類題近世和歌集上・下 上田維曉編輯 明治二十五年 木版 二冊

2147 親愛六々和歌集 武田信城編 明治二十七年 印刷 一冊

2148 和歌浦集初編上巻 前田水穂編輯 明治二十六年 印刷 一冊

2149 熱田神宮歌集 熱田神宮宮庁編輯發行 昭和十二年 印刷 一冊

2150 熱田神宮歌集 熱田神宮宮庁編輯發行 昭和十三年 印刷 一冊

2151 明治神宮歌集第九輯 明治神宮社務所發行 昭和九年 印刷 一冊

2152 明治神宮歌集第十輯 明治神宮社務所發行 昭和十年 印刷 一冊

2153 明治神宮歌集第十一輯 明治神宮社務所發行 昭和十一年 印刷 一冊

2154 明治神宮歌集第十三輯 明治神宮社務所發行 昭和十三年 印刷 一冊

2155 邦光社歌会第三集 京都遠藤千胤發行 明治二十三年 木版 一冊

2156 邦光社歌会第四集 京都遠藤千胤發行 明治二十四年 木版 一冊

2157 鞆の浦集 第二編第壹集 広島縣鞆町中島博光發行 明治二十五年 印刷 一冊

2158 みよのはな 第七輯 彈琴緒編輯發行 明治二十四年 印刷 一冊

2159 新撰長歌集 東京岸本宗道發行 明治二十五年 印刷 一冊

2160 詠歌したためふり(天保八年城戸千楯著) 明治二十五年 印刷 一冊

2161 源氏物語抄 写本 一冊

2162 鎌倉右大臣家集抄 加茂真淵翁批点 写本 一冊

2163 閑草新釈一・二(徒然草写本) 写本 二冊

2164 縣門遺稿(寛政六年五月) 写本 一冊

2165 歌かたり 平春満(文化五年) 写本 一冊

2166 十符のすかこも 近藤芳樹著 田中俊民写 明治二十一年 写本 一冊

2167 虚字詠格 橘守部輯(弘化元年) 写本 一冊

2168 萬紫千紅 初集 太田蜀山人 写本 一冊

2169 萬紫千紅 太田蜀山人(文化十五年) 写本 一冊

2170 和文軌範卷之二 里見義著 明治十五年 木版 二冊

2171 催馬楽註秘抄 綾小路有隣著(延徳二年) 安倍山山写昭和九年 写本 一冊

2172 誹諧口伝書 写本 一冊

2173 二十五ヶ条十七句法昼錦抄(元禄二年) 写本 一冊

2174 景感道(誹道の秘書) 東山人写 安永三年 写本 一冊

2175 祝詞正訓 安政五年 木版 一冊

2176 天津祝詞考 平田篤胤著 文化十二年 木版 一冊

2177 古事記伝略一・二・三・四・五・六・七 久我建通著(明治十八年) 田中俊民写 写本 七冊

2178 仮字本末上巻・下巻 写本 二冊

2179 平家物語講義今泉定介講述一・二・五・六 明治四十二年 印刷 四冊

2180 振気篇詩文上 帝尾山人原輯 春莊元史補輯 明治二年 木版 一冊

2181 興風集(松下村塾藏版) 明治二年 木版 一冊

2182 興風集(松下村塾藏版) 田中俊民写 写本 一冊

2183 無声詩姐 金井島洲著 明治八年 木版 一冊

2184 増補正誤歌枕秋のねさめ 木版 一冊

2185 紫文製錦 七巻 寛政七年 木版 一冊

2186 西遊記 全五巻 南谿子著 木版 五冊

2187 西遊記後篇一四(五巻のうち) 南谿子著 木版 四冊

2188 東遊記 全五巻 南谿子著 木版 五冊

2189 東遊記後篇全五巻 南谿子著 木版 五冊

2190 江戸繁昌記一六 静軒居士著 天保五年 木版 六冊

2191 花紅葉都囀上・下(京師大火の記録) 天明八年 木版 二冊

2192 東洋之佳人 東海散士著 明治二十一年 写本 一冊

2193 佳人之奇偶六一七 東海散士著 明治二十年 木版 二冊

2268	すまのかいさし(習字手本) 茅宜園大人書	文化八年	木版	一冊
2267	皇国州名歌(習字手本) 米庵先生撰書	文化十三年	木版	一冊
2266	くさまくら 京城公立女子高等普通学校校友会学芸部昭和五年	昭和四年	印刷	一冊
2265	会報第八号 京城女子技芸学校芳蘭会・校友会	大正十五年	印刷	一冊
2264	校友会誌 新校舍移転記念号 撫順高等女学校校友会	昭和三年	印刷	一冊
2263	学校と環境 旅順師範学堂付属公学堂	昭和四年	印刷	一冊
2262	校友会誌第六号 撫順高等女学校	明治四十四年	印刷	一冊
2261	地理教科書附外国 賜水鉄五郎著	明治四十一年	印刷	一冊
2260	中等地理 本邦篇 大関久五郎著	明治四十四年	印刷	一冊
2259	普通教育外国地図 山崎直方著	大正十五年	印刷	一冊
2258	日本服飾史参考図	大正十四年	印刷	六冊
2257	普通衣服裁方 小原のぶ編 鳥取上村印刷	明治四十四年	印刷	一冊
2256	普通衣服裁方 小原のぶ編 鳥取上村印刷	明治四十四年	印刷	一冊
2255	普通衣服裁方 小原のぶ編 鳥取博進堂発行	明治四十四年	印刷	一冊
2254	改訂兵要日本地理小誌三 中根淑著 鳥取横山安治郎出版	明治三十二年	木版	一冊
2253	国文学史教科書 鈴木暢幸著 富山房	明治三十八年	印刷	一冊
2252	国語巻七 岩波書店	昭和十六年	印刷	一冊
2251	小学女子読本巻三 埼玉県士族福垣千頼編輯	明治十八年	印刷	一冊
2250	小学読本字引巻五之部 名和喜七輯著	明治十九年	印刷	四冊
2249	高等小学算術書巻一四 鳥取市田淵達巳代・田中瑞穂編さん	明治三十四年	印刷	一冊
2248	御一代記開書(蓮如上人御一代記・実如著)	明治三十六年	印刷	一冊
2247	祖師親 但馬国瀧本善助・瀧野彦次郎編さん発行明治四十三年	明治三十五年	印刷	三冊
2246	京田りょうの略伝(但馬国の念仏者) 小川独笑著明治三十五年	明治三十五年	印刷	三冊
2245	信者の書簡 第二集 近江国蚊野仙次郎編さん発行	明治三十九年	印刷	一冊
2244	藤樹先生 滋賀県高島郡教育会編さん	大正八年	印刷	一冊
2243	脩身談上 石井光致述	文政十一年	木版	一冊
2242	害事論 石井光致述	文政十一年	木版	一冊
2241	官位俗訓 花・鳥・風・月(全四冊) 逸生軒著	享保十一年	木版	四冊
2240	泰西勸善訓蒙上・中・下 箕作麟祥訳述	明治八年	木版	三冊
2239	東京新繁昌記一六 服部誠一著	明治七十九年	印刷	一冊
2238	校正標註神皇正統記	明治七十九年	印刷	一冊
2237	乘槎筆記(航清日記)	写本	一冊	
2236	立憲政体略 加藤誠之著	写本	一冊	
2235	立志社建白書写 片岡健吉(明治十年)	写本	一冊	
2234	新論上	写本	一冊	
2233	本朝名臣言行録上・下 梅沢肅著(安永五年)	写本	二冊	
2232	殉難後草 青雲閣蔵版	慶応四年	木版	一冊
2231	殉難前草 青雲閣蔵版	慶応四年	木版	一冊
2230	政談 巻四 梅里某写	天保十三年写	写本	一冊
2229	日本政記字引 高橋四郎編輯	明治十年	印刷	二冊
2228	日本外史一(頼氏蔵版)	明治十六年	木版	一冊
2227	日本外史八(十二)	明治十六年	木版	一冊
2226	訂正統々皇朝史略五・六 石村貞一編	木版	二冊	
2225	統々皇朝史略六・七 長門石村貞一編	木版	二冊	
2224	皇朝史略三・四 水府青山延于著	木版	四冊	
2223	統国史略一四 谷寛得原撰・小笠原勝修補	木版	二冊	
2222	柳橋新誌 何有仙史著(歴史)	写本	一冊	
2221	報徳記 富田高慶述(農商務省蔵版)	明治十九年	印刷	一冊
2220	国民小訓 徳富蘇峰著 民友社発行	昭和二年	印刷	一冊
2219	国民小訓 徳富蘇峰著 民友社発行	大正十四年	印刷	一冊
2218	標註折たく柴の記 内藤耻叟校正	明治二十五年	印刷	一冊
2217	因明大意 三河雲英晃羅著	明治十四年	印刷	一冊
2216	円光大師伝(法然上人行状画図) 一一四十八	木版	三冊	
2215	勅修円光大師御伝縁起・勅修円光大師御伝目録	木版	一冊	
2214	円光大師法語(知恩院蔵版)	木版	一冊	
2213	大蔵経抜法語集一十六(卷之二若美郡国府村白井定十郎編)	明治四十四年	印刷	一冊
2212	経釈抜法語集 卷之十七及び付録	明治三十五年	印刷	去冊
2211	念仏相続要文拾集 卷上・卷下(編さん者の中に白井定十郎)	明治三十五年	印刷	二冊
2210	御伝鈔法話上・中・下 渥美契華師説・藤谷忠燈編輯明治二十四年	木版	三冊	
2209	龍樹讚法話 椿原真福寺法話・野世深真了師編輯明治二十七年	木版	一冊	
2208	信心念仏略鈔 広島県黒田弥吉郎編さん発行	明治三十六年	印刷	一冊
2207	浄土真宗四廢立 小川独笑著	明治四十年	木版	一冊
2206	蓮如上人御一代記開書略解一五 実行院僧朗師講述・香川葆	明治二十六年	木版	五冊
2205	勸行御和讃 京都府水田調兵衛編集	明治十三年	木版	一冊
2204	釈教玉林和歌集 浄林坊弁恵編輯	明治十五年	木版	一冊
2203	懐中御文章 大阪府藤岡恵日編さん	明治三十三年	木版	一冊
2202	仏法一片専修略鈔 小川独笑 京都市松田善六編明治三十三年	印刷	一冊	
2201	浄土見聞集抜鈔 京都市松田善六編 明治三十四年再版	印刷	一冊	
2200	蓮如上人御病床御物語 京都市松田甚左衛門編輯発行	明治三十年	印刷	一冊
2200	芳野道の記(習字手本) 松花堂	寛政五年	木版	一冊
2200	月なみ消息(習字手本) 千藤大人書	文政七年	木版	一冊
2200	故人諸名家印章大成	嘉永元年	木版	八冊
2200	印章大成	嘉永元年	木版	一冊
2200	茶経 元・貞 唐陸鴻漸著	宝暦六年	木版	二冊
2200	煎茶仕用集	寛政六年	木版	一冊
2200	清風瑣言(煎茶書) 上田秋成著	寛政六年	木版	一冊
2200	青湾茶会図録天・地・人 田能村直入著	文久三年	木版	三冊
2200	煎茶小述 田中俊民写	写本	一冊	
2200	酒茶問答 平安三五園主人著(天保十二年) 田中俊民写	写本	一冊	
2200	売茶翁偈語(肥前柴山月海伝)	写本	一冊	
2200	青山御流活花手引種一四	木版	四冊	
2200	正風遠州水揚口伝活花独稽古	天保十三年	木版	一冊
2200	懐宝道中図鑿	(嘉永再刻)	木版	一冊
2200	懐中道中記	木版	一冊	
2200	藩銘録 荒木氏編輯	明治二年	木版	一冊
2200	(吉原細見) 玉屋山三郎蔵版	文久三年	木版	一冊
2200	みやこ路源氏名寄(東海道往来)	木版	一冊	
2200	女消息往来	木版	一冊	
2200	茨城常磐公園攬勝図誌乾・坤 水戸市松平俊雄編集明治十八年	木版	二冊	
2200	殿島宮路之枝折 村田良穂著	明治十七年	印刷	一冊
2200	日光山沿革略記 彦坂謙照編さん	明治三十四年	印刷	一冊
2200	嵐山花鬘討(あらしやまはなのあだうち) 柳下亭種員作・一勇	嘉永五年	木版	二冊
2200	齋園芳画	嘉永五年	木版	一冊
2200	復讐宮城野信夫(孝女白石嘯) 玉麿園雪住作・一盛齋芳直画	明治十八年	木版	一冊
2200	戯作四書京伝余師 山東京伝	明治十八年	木版	一冊
2200	俗語集(鳥取県立第一中学校跡紙)	写本	一冊	

2296	方記(薬湯のこと) 石井氏写			写本	一冊
2297	明要付録(仏和辞書) 村上英俊著(尚徳館蔵書印あり)				
2298	尺読諺解(書札札解説書)	明治三年	木版	一冊	
2299	発字便蒙解 源黄龍・大宰春台監訂	延宝八年	木版	一冊	
2300	服忌令捷徑 田中俊民写	寛政七年	木版	一冊	
2301	新刻看命一掌金和解 馬場信武和解	写本	一冊		
2302	楽訓上下 貝原益軒著	宝永二年	木版	一冊	
2303	好察適言 赤城先生著	宝永八年	木版	一冊	
2304	〔冠位通考〕石原正明述(文化二年)	文政二年	木版	一冊	
2305	但馬丹後震災画報 大阪毎日新聞社	大正十四年	印刷	一冊	

XI 歴史資料

2306	雛人形他	一箱
2307	陣笠	
2308	陣笠	
2309	陣笠	
2310	胸当	
2311	胸当	
2312	子供用羽織	
2313	織	
2314	脚絆	
2315	足袋	
2316	陣羽織	
2317	児童学生服 上下	
2318	子供用袴	
2319	羽織	
2320	指示棒	
2321	毛織物敷物	

解題

ここに取り上げた「旧鳥取藩士田中俊民家資料」は、旧鳥取藩士田中家に伝わり、子孫である田中裕氏から当館に寄託いただいたという資料群をいう。

◎田中俊民家について

鳥取藩士としての田中家は、初代与一兵衛が元禄元年(一六八九)に御徒として召出されたことに始まる。それ以前については全く不明である。その後の歴代について、当館の所蔵する「田中俊民家譜」により概観する。

初代与一兵衛は、元禄元年に石原市右衛門の願により召出され、十八俵三人扶持を給された。御児小姓横目・御台所横目を務め、二十八年間にわたって奉公した。

二代善七は、与一兵衛の子で、正徳五年(一七一五)に御徒が不足していたために新規に召出された。御買使・大坂下目付・御台所目付を勤め、後に下吟味役を勤めた。宝暦六年(一七五六)には願により御役御免となり、明和七年(一七七〇)には伴太七郎が代番勤をするようになったが、太七郎は安永四年(一七七五)に病死し、ついで善七も安永七年(一七七八)に病死した。

三代七之丞は、善七の実子で、先の太七郎の弟である。父善七の死後跡式を相続したが、十二才の幼少であったため、支配米のうち五俵を削られ、十三俵三人扶持を給された。天明二年(一七八二)奉公を始め、五俵を返された。しかし、天明五年(一七八五)になっ

て、病氣により引籠る内に急に出奔し行方知れずとなり、田中家はこの時一旦断絶した。

その後、老母の歎願により、寛政十一年(一七九九)に七之丞の弟重之助が御掃除坊主御雇に召出され、清務と改名して田中家四代となった。しかし清務も病弱で、文化四年(一八〇七)には病氣のため詰江戸を断らざるをえず、支配米を減額され、ついに文化六年(一八〇九)再び田中家は断絶となった。

五代幸八は、四代清務の弟で、文政元年(一八一八)、兄と同様に御掃除坊主として召出され、初名勝之丞を幸以と改め、二人扶持銀一枚を給された。その後、天保十二年(一八四二)に還俗を仰付られ、翌年には幸八と改名して十八俵三人扶持の御徒となった。そして、三年の詰江戸を経て、嘉永四年(一八五二)病氣のため伴に振替(相続)を願い、許された。

六代俊民は、初名幸六(慶応三年迄)・幸介(明治二年九月迄)・農夫(明治五年頃迄)を名乗り、嘉永四年に父の跡を継いだ。田中家に残る資料は、この六代俊民以降のもので、それ以前の資料は二度の断絶のため全く残っていない。俊民の履歴を年表風に列挙すると以下のとおりである。

嘉永四年(一八五二)	十二月	御根帳役当分加役
同 六年(一八五三)	二月	同 本役
安政元年(一八五四)	九月	在下吟味役当分加役
同 二年(一八五五)	三月	同 定加役
同 三年(一八五六)	五月	同 本役
同 五年(一八五八)	五月	在御目付
同 六年(一八五九)	二月	在中産物取調懸り兼帯

元治元年(一八六四) 正月 裏判所下吟味役  
 慶応元年(一八六五) 閏四月 定御目見(江戸)  
 明治元年(一八六八) 閏四月 数類御飛脚頭  
 同二年(一八六九) 七月 当分会計司執事筆生の御用向兼  
 同 年( ) 九月 会計司筆生用度方御用懸  
 同 年( ) 同月 同 会計懸  
 同三年(一八七〇) 三月 刑政局小監察  
 同四年(一八七二) 九月 鳥取県史生  
 同 年( ) 十月 同 権少属(民事掛)  
 同五年(一八七二) 正月 同 聴訟課出仕  
 同 年( ) 九月 隱岐国在勤

「田中俊民家譜」によりわかる俊民の経歴は以上であるが、藩政時代及び明治初期の俊民の職務は大きく四期に分けられる。すなわち、一期御根帳役時代(安政元年迄)、二期在方時代(元治元年迄)、三期裏判所・会計局時代(明治三年迄)、四期刑政局・聴訟課時代である。俊民は藩政と初期県政の様々な分野で働いているが、この間元治元年(一八六四)から二年間江戸詰を命じられ、また明治三年(一八七〇)には精勤により一代士族を命じられている。藩制機構の中では一八俵三人扶持と、父より相続した支配米の額は変わっていないが、その後の史生、権少属の役職(職階)は、大参事・小参事・大属・少属に次ぐ位であり、現在に比較するならば、史生を係長、権少属を課長補佐相当と考えてよからうから、御徒から出発した俊民にとっては、かなりの「出世」と見てよいだろう。

俊民のその後については、県立鳥取図書館蔵『鳥取県歴史』に明治七年(一八七四)までの履歴があり、それによれば、明治七年一

月に少属となり、同年十一月に権中属に昇進している。職務は聴訟課のうち聴訟掛、のち断獄掛、さらに監獄掛兼務と変わっている。そして、本資料の中から、明治十八年(一八八五)に松江始審裁判所西郷支庁の判事補として隠岐にいたことがわかり、明治五年に隠岐での勤務を命ぜられて以来、隠岐で裁判・訴訟関係の職務に携わっていたものと思われる。明治十九年には公職を退き、鳥取へ帰ったようで、以後は和歌に専念したようである。明治三十三年(一九〇〇)に亡くなっている。

俊民には、妻幾とすみ・のぶ・瑞穂の子供があった。妻幾は本資料に残された書状から藩士小畑孫左衛門の娘と思われる。

俊民の息子瑞穂については、鳥取西高等学校にその履歴が残っている。それによれば、瑞穂は明治二年(一八六九)七月二十三日に生まれ、公立立川小学校・公立鳥取中学校に学び、明治十九年(一八八六)に卒業、同二十四年(一八九二)五月に小学校読書作文地理習字科及び算術科教員免許状を取得し、同年九月より鳥取市久松尋常小学校授業方嘱託となり、翌二十五年(一八九二)四月より因幡高等小学校教授方、二十六年(一八九三)より鳥取高等小学校訓導を勤めている。同三十四年(一九〇二)、鳥取女子高等小学校訓導、そして同年九月より鳥取県立第一中学校教諭心得となる。大正十一年(一九二二)中等学校国語科免許状を取得し、正式に教諭となり、昭和四年(一九二九)四月の退職まで同校に勤務した。国語・漢文を教え、大正三年には同校の校歌を作詞するなど、父譲りの文才を発揮し、学校教育の発展に勤めている。昭和二十二年(一九四七)八月二十九日に亡くなっている。また、妻やえは、旧鳥取藩士野々村家の出身で、明治二十六年(一八九三)から三十六年(一九〇五)

まで、岩美郡面影尋常小学校(現鳥取市)に勤めている。

### ◎田中俊民家資料について

田中俊民家資料のほとんどは、六代俊民に関わるものである。それ以前の歴代に関わるものは全く残っていない。また、俊民に関しても、安政元年(一八五四)以前の御根帳役時代の資料もない。

そのような資料の残存状況から、田中家資料のうち、まず俊民の公務に関わる資料を、I在方(在下吟味役・在目付時代)、II裏判所・会計局(裏判下吟味役・飛脚頭・会計筆生時代)、III刑政局に分類した。

I在方の資料は、安政元年(一八五四)から文久三年(一八六三)の間の資料で、山論の裁許などのための在出(現地への出張)の日記類、文久二年(一八六二)に計画された藩主の御泊鷹野のための準備に関する資料、在方役人の名前や在方役人としての諸心得等が含まれている。俊民にとっては、在方役人の仕事はおもしろいものであったようで、裏判所に転じた後も、在方に帰職することを願う気持ちがあった。また、在方役人時代からの農民との関係も、その後まで続いたものもある。

公務関係の中で最も点数が多く、本資料の中心をなしているのがII裏判所・会計局である。これは元治元年(一八六四)から明治三年(一八七〇)までの資料である。このほとんどが切紙で、反古としていくつかに括られていたものである。本来残すべくして残されたものでなく、不要になった書類を再利用するべく括られていたため、逆に幕末維新期の行政手続を知る上で興味深い資料となっている。俊民が勤めた裏判所は、城内の一切の用度を司る役所で、具

体的には呉服・紙・武具・畳等を扱っていた。裏判所の長は文久元年以前は裏判吟味役と称していたが、その後勘定吟味役と改称した。おそらく国事多端となり、裏判所の重要性が増してきたためであろう。そして明治二年の藩制改革により勘定方と合同して会計司となり、さらに会計局となっている。

IIの中の資料は、その性格によって(達書・伺書)・(届書)・(願書)・(用状)・(受取状)・(建白草稿)・(その他)に分類した。(達書・伺書)に分類したのは、上級からの決定通知(達書)と、それに至る際に上級に向けて提出された伺書の控である。達書は祐筆の手で書かれ、伺書控は俊民の手になるものがほとんどと思われる。いずれも黄紙の切紙である。内容によりさらに(飛脚関係)(出張・帰還関係)(道中賄金関係)(人事・賞罰)(軍事)(山陰道鎮撫使関係)(御入湯関係)(弁務達書)(その他)に分類した。(届書)は同役あるいは下級役人からの諸届である。届の内容は様々であり、俊民を通じてさらに上級へ伝達されたのであろう。(願書)は藩が中央政府に宛てたものと、下級役人が格式取立を願ったものなどがあり、案文の作成や上司への取りなしに俊民がかかわったものである。(用状)は手紙の形式により仕事を依頼したもので、(田中幸六・幸介・農夫・俊民宛)(田中幸介用状)(角田捨藏関係用状)(河崎六之助・半内関係用状)(その他)に分類した。田中宛の用状の他に、角田捨藏・河崎半内宛の用状がかなり残っており、両者はともに勘定吟味役であり、俊民の上司にあたる。角田・河崎は自分に届けられた用状を俊民に渡し、俊民が代わって用状の趣を実行していたのであろう。(受取状)は、俊民ら裏判所の役人が用立てた金品の受取と俊民らが支出した代金等の受取である。(建白草稿)

は、ほとんど俊民の手になるものと思われる。慶応四年(明治元年)に集中しており、月に何通もの建白を書いていることから、写かも考えられる。

Ⅲ 刑罰局は、明治三年(一八七〇)に刑罰局の小監察を勤めた時期の資料である。数量は少ないが、866、888の刑罰局判決案は、切紙に判決案を書いたものの端裏に、慶徳(池田)・徳定(池田)・長通(鶴殿)・正脩(岡嶋)・成章(荒尾)などの名前の丸印が押されており、藩知事や大参事・少参事が承認の印を与えている。今日の稟議の原型のような史料である。

Ⅳ 社会に分類したのは、Ⅱ・Ⅲの資料と一括されていた切紙のうち、社会情勢や風聞などを書き留めたものである。職務に直接関わるものではないが、江戸や京都大坂、さらに他国の情報が下級藩士のもとまで届いていたこと、そして俊民らも社会の動きに強い関心を示していたことを伝える資料であろう。

Ⅴ 家・書状は、私的だと判断される書状と田中家関係の近代の史料である。家関係の資料は、本資料中には非常に少ない反面、書状がかなり残っている。中でも、俊民の詰江戸中に妻幾宛に出された書状がほとんど残っており、当時の夫婦関係や考え方がわかり、様々な視点から読みとることができる好資料である。また、武家の日常的な交際がわかる他家からの書状も豊富である。

Ⅵ 学校教育は、主に田中瑞穂に関わるもので、鳥取高等小学校・鳥取県立第一中学校関係資料が中心である。Ⅹ書籍の中の郷土学校教育に分類した図書とあわせて、近代学校教育資料として貴重である。当時の試験問題など興味はつきない。

Ⅶ 和歌は、本資料の大きな特徴の一つで、明治期の鳥取歌壇の中

暦は明治六年以後大正期までほぼ毎年のものが残されている。

Ⅹ 書籍は、郷土とそれ以外に分け、郷土は(地誌)(和歌)(学校教育)(その他)に分類し、その他を(漢文学)(国文学)(歴史)(宗教)(教育)(その他)に分類した。俊民・瑞穂父子の収集による書籍は、今日では手に入れることができない貴重な書籍が数多く含まれている。また、目録に載せなかったが、この他にもまだ書籍を寄託していただいているが、資料的価値を考えて記載を省略した。

Ⅺ 歴史資料は、紙・文書以外の歴史的な資料である。俊民が使用したと思われる陣笠や家来につけさせたであろう胸当、また明治期の児童用学生服などである。

以上、分類順に従って田中俊民家資料の概略についてふれたが、資料の内容が多岐にわたっており、様々な角度からアプローチできる好資料といえる。さらに細かい分析や研究が必要であるが、現段階では、そこまで立ち入ることができないため、分類した各項目についての以上の説明で解題とさせていただきます。

心人物の一人であった田中俊民が残した大量な資料である。これを(田中俊民和歌)(鳥取歌壇)(和歌短冊)に分類した。俊民が若い頃から和歌の創作を行っていたことは、本資料中に安政五年(一八五八)の詠草が残されていることからわかり、蓬園と号して、生涯のうちに数多くの詠草を残している。また後進の指導や郷土の歌人の顕彰にも力を尽くし、飯田年平・小谷古蔭といった先人を追悼する諸行事を行うと同時に、月次会や歌合などを行っている。俊民の和歌は、鳥取藩の和歌の主流であった飯田年平ら柿園(加納諸平)派の流れに属していたと考えられる。和歌短冊は、おそらく俊民が催した歌会の際に作られたものである。地元の歌人たちにまじって、枚数は少ないが他国の歌人の短冊もかなり含まれており、俊民の交際の広さがうかがわれる。

Ⅷ 武道には、伝書と兵法書がある。伝書については、田中家の誰かに宛てられたものではなく、野々村姓の人物に宛てられたものがあることから、田中瑞穂の妻やえの実家である野々村家に伝わったものと推測される。俊民と武道との関わりはわからないが、兵法書は写本を残しており、武家の当然の教養として学んでいたであろう。Ⅸ 書画・絵図・瓦版・暦等は、それぞれ性格の異なるものであるが、点数が多くないので一つの分類とした。書画では、藩主関係のものや、和歌に関わる柿本人麻呂像などがある。絵図では、在方役人時代に必要であった藩内の郡図、あるいは江戸詰の際の道中図などがある。瓦版は、事件をあつかったものはほとんどなく、名所案内に類するものがほとんどである。旅行などの際に買い求め、自然に集まったものであろう。また明治初年に鳥取で上演された芝居の番付一一六枚があり、地方文化を考える上で興味深いものである。

## あとがき

本報告書は、田中裕氏から当館が寄託を受けている「旧鳥取藩士田中俊民家資料」についての調査報告である。寄託いただいた際に一応の仮目録を作成していたが、本報告書作成のための再整理により全面的に改めた。

目録作成にあたっては、原表題のあるものはそれを取り資料名とし、内容のわかりにくいと思われるものは括弧( )で補った。また、表題のないものは、冊子については「」で資料名をつけ、切紙等は、差出人が判明するものについては、○○達書、○○届書、○○書状というような形で資料名をつけた。また、記載の順は、資料名・(内容)・作成者・請取人・年代・形態・数量とし、年代の推定できるものについては( )で補った。

本資料の整理と本報告書の作成は、福井淳人・坂本敬司が行った。

昭和六十三年度

### 資料調査報告書 第十六集

— 旧鳥取藩士田中俊民家資料 —

平成元年三月三十日 発行

鳥取県立博物館

〒680 鳥取市東町二丁目一二四  
電話 二六―八〇四五